

授業科目名	心理学		担当者名	島田 真須美			
			実務経験	病院にて心理士として実務経験あり			
教科書	心理学・臨床心理学 第2版 内山靖・藤井浩美・立石雅子 編 医歯薬出版株式会社 2024	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	1	前期	必修	講義
		30					
授業概要	リハビリテーション専門職は、人との関わりが多い職種であるため、心理学の知識が活かされる事があると思われる。 リハビリテーションの視点を持ちながら心理学の基礎的な知識について詳述する。						
学習到達目標	リハビリテーション専門職として心理学を学ぶ意義を知り、リハビリテーションに活かす心理学の基礎的な知識を修得する。						
評価方法	出席率・レポート・試験の結果を総合的に評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	心理学とは			心理学の基本概念について説明できる 教科書 第1章			
2							
3	心理学の誕生と発展			心理学の誕生と発展について説明できる 教科書 第2章			
4							
5	感覚・知覚・注意・認知			感覚・知覚・注意・認知について説明できる 教科書 第3章			
6							
7	情動・動機付け・パーソナリティ・社会			情動・動機付け・パーソナリティ・社会について説明できる 教科書 第4章			
8							
9	記憶・学習			記憶・学習について説明できる 教科書 第5章			
10							
11	言語・概念・思考			言語・概念・思考について説明できる 教科書 第6章			
12							
13	発達と知能			発達と知能について説明できる 教科書 第7章			
14							
15	臨床心理学とは			臨床心理学について説明できる 教科書 第8章			
16							
17	防衛機制			防衛機制について説明できる 教科書 第9章			
18							
19	心理アセスメント			心理アセスメントについて説明できる 教科書 第10章			
20							
21	臨床で用いられる心理検査			臨床で用いられる心理検査について 説明できる 教科書 第11章			
22							
23	臨床心理学の介入方法(行動的)			臨床心理学の介入方法(行動的)について 説明できる 教科書 第12章			
24							
25	臨床心理学の介入方法(内面的)			臨床心理学の介入方法(内面的)について 説明できる 教科書 第13章			
26							
27	臨床心理学の介入方法(相談的)			臨床心理学の介入方法(相談的)について 説明できる 教科書 第14章			
28							
29	心理学・臨床心理学まとめ			心理学・臨床心理学の基礎的な知識について 説明できる			
30							

授業科目名	生物学		担当者名	片岡 博尚			
			実務経験				
教科書	分かる化学シリーズ5 生命化学:東京化学同人 やさしい基礎生物学 羊土社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	1年	前期	必修	講義
		30					
授業概要	私たちが自身が動物であり、多くの生物と関わりをもって暮らしていることを考えると、生物学は非常に身近で重要な学問です。皆さんが専門分野で学習する内容の基本でもあります。高校までの生物学は暗記中心の科目と捉えられがちですが、本当は物理学や化学を理解したうえで学ぶ総合的な学問なのです。本講義では身近な事柄と関連させて、生命の仕組み、生命の不思議 などについて理解していきます。						
学習到達目標	生命の仕組みが物理化学法則に従っていることを理解します。						
評価方法	出席・小テスト、期末テストなどから総合的に評価します。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	生命の謎を化学で解き明かす			生物学で学ぶ内容紹介し、生物の体で起こることは全て、物理化学法則に従っていることを理解します。			
2	同上						
3	細胞は生命の小箱			生命の単位は細胞であることを理解し、生命の基本装置である細胞小器官の構造と働きを学びます			
4	同上						
5	生命を作る分子たち ① 元素, 低分子化合物			細胞の主な構成元素はH, O, C, N, で、これは海水の組成に似ていることの意味を考えます			
6	同上						
7	生命を作る分子たち ② タンパク質, 糖, 脂質			細胞を作る高分子化合物について学びます			
8	同上						
9	生命活動: エネルギーは生命を支える			生命は外界からエネルギーを取り入れることで成り立ちます。細胞の中でATPがエネルギーの貨幣として使われていることを理解します			
10	同上						
11	生命活動: 生命を維持するための機能			生命を維持するにはエネルギーを得るだけでなく、外界の情報を感受し、対応しなくてはならないことを学びます			
12	同上						
13	生命の連続性: 核酸は遺伝情報を担う			DNA, RNA の役割と遺伝情報伝達の仕組みを学びます			
14	同上						
15	生命の連続性: 生命の旅立ちから終わりまで ① 染色体, 細胞分裂			細胞の一生、染色体と細胞分裂、細胞周期について学びます			
16	同上						
17	生命の連続性: 生命の旅立ちから終わりまで ② 減数分裂, 細胞死			減数分裂と有性生殖の意味、体細胞はなぜ死ぬのか、それが、生命の連続に有利なことを知ります			
18	同上						
19	生命の連続性: ヒトは生命を操れるのか			ゲノム解析の意味、遺伝子組み換え作物、ゲノム医療の問題点を考えます。			
20	同上						
21	生命を守るための化学: 自己と非自己はどう区別されるか			免疫について学びます			

22	同上	
23	生命を守るための化学：病気の化学	ガン、エイズなど遺伝子傷害が本になる病気の起こるしくみ、治療法について学びます
24	同上	
25	生命と環境 ① 地球上の生命の起源と進化	生命の歴史と真核生物の進化、陸に上がった植物について学ぶ
26	同上	
27	生命と環境 ② 地球環境問題と温暖化	地球上の一次生産(光合成)の大半は海洋で為されることを理解し、海水の温暖化が生命を脅かすことを理解します
28	同上	
29	まとめ	
30	同上	

授業科目名	医学英語		担当者名	都築 玲子			
			実務経験				
教科書	指定しない プリント小冊子を使用する	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数 30	理学療法科	1	前期	必修	講義
授業概要	医学・医療、科学、環境等の分野についてのニューストピックや、DVDを使用し知見を広めながら、医療実務で役立つ基礎英語力を養成する。						
学習到達目標	英文の基本構造をとらえられるようになり、単語、文、段落、文全体を理解し、必要な情報を得られるように基礎力を身につける。						
評価方法	出席、クラス参加、課題提出、小テスト、期末試験の結果の総合評価とする。						
時数	授 業 内 容		学習課題・留意事項など				
1	自己紹介・クラス予定・評価方法 Icebreaking game		クラスルールと、自己紹介、今後の英語学習のためのコツ、前期授業評価基準について理解する。				
2	TOEIC Bridge Sample Test 自己評価		現在の英語力の確認する。				
3	What we know about the long-term effects of COVID-19		新型コロナウイルス感染症の長引く影響について理解する。				
4	In mild or moderate cases		軽い症状で回復した人々の後遺症について理解する。				
5	In severe cases, long term effects on mental health		重症で入院した人々の後遺症について知る、				
6	1.New Measles Outbreak in Europe		ヨーロッパではしかが流行しているが、その原因を理解する。				
7	VPD について理解する。R0、Rt について理解する。		ワクチンで予防できる病気とワクチンプログラムについて理解する。				
8	2.Outbreak of Plague in Madagascar		歴史上最大の死亡者数をだしたペストについて理解する。				
9	History of Pandemics		過去のパンデミックを振り返り現在も注視される感染症を知る。				
10	World Atlas の読み方		MAP 上の英語表記について知る。				
11	3.New Blood Test May be Able to Detect Cancer		癌を察知できる新しい血液検査はどのようなものか理解する。				
12	DVD The Next Outbreak? We are not ready by Bill Gates		パンデミックに備えるために Bill Gates が主張する必要なことは何かを理解する。				
13	4. Baby Girl Born From Embryo Frozen 24 Years Age		IVF の現在と、24 年前の凍結受精卵から誕生した女子と経過について理解する。				
14	Body Systems 1		体の働きを支える 12 の系と主な臓器にの英語表現をまとめて理解する。				
15	5.Regular Exercise Can Improve Your Memory		記憶力、思考力に運動がどのような影響を与えるか説明できる。				
16	6.Moderate Coffee Consumption May keep You Healthy		適当なコーヒーの消費がある種の病気の予防に役立つことが理解できる。				
17	7.Dog Ownership May Improve Your health		犬との生活が人の健康に及ぼす影響について説明できる。				
18	Let's Enjoy English songs		The Rose				
19	8.American Cardiologists Publish New Blood Pressure Guidelines		血圧の基準値が変わった理由と高血圧の影響について説明できる。				
20	Body Systems 2		体の働きを支える 12 の系と主な臓器にの英語表現をまとめて理解する。				
21	9.Cloning of First Monkeys in China		中国で霊長類のクローニングに成功した。世界の潮流と問題点について理解する。				
22	9.Cloning of First Monkeys in China		中国で霊長類のクローニングに成功した。世界の潮流と問題点について理解する。				

23	10.Stephen Hawking Dies Aged 76	ホーキング博士の功績と病いについて理解する。
24	10.Stephen Hawking Dies Aged 76	ALSとはどのような病気か理解する。
25	11.Tribute to Tetsu Nakamura	追悼記事； 中村 哲の活動と功績を知る。
26	DVD 中村 哲の声が聞こえる	中村氏とともに働いたワーカーたちのその後について知る。
27	12. How can physical therapy help?	理学療法とはどのように患者をサポートできるのかを理解する。
28	DVD There is no scrap of men by Alberto Cairo	神の使いとよばれるイタリア人理学療法士の奮闘について知る。。
29	14.Ten common knee injuries and treatment	よく見られる膝のけがとリハビリについて知る。
30	総復習	前期に学んだ医療用語を総復習する。

授業科目名	情報処理		担当者名	町田 洋介			
			実務経験				
教科書	プリント配布	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	1	通年	必修	演習
		30					
授業概要	医療従事職において必要な情報リテラシーや、生成AIを含めた情報の処理の基本知識を学ぶ。 また、WindowsPCにおけるファイルの管理等の基本操作を確認したうえで、MicrosoftOfficeを使用して、Wordによる文書作成、Excelによる表処理、PowerPointによる発表資料の作成を行い、基本的な情報処理スキルを修得する。						
学習到達目標	・情報処理における基本的な知識・姿勢を身に付ける ・MicrosoftOfficeの基本的な機能を活用した資料が作成できる						
評価方法	小テスト、授業内課題（Word文書、Excel表処理、PowerPoint資料の作成）						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	情報リテラシー① 情報の取り扱い			情報を扱う上でのモラルとマナーを説明できる。			
2							
3	情報リテラシー② 検索サイトと生成AIの利活用			適切な情報を得るための検索を理解する。 生成AIについて現時点での活用法と問題点を理解する。			
4							
5	Windowsの基本操作			フォルダ管理ができる。			
6	Wordを用いた文字入力の基本			文字入力、フォントの設定ができる			
7	Wordを用いた画像貼り付けの基本			画像の貼り付け、サイズ調整ができる			
8	Wordを使用した文書の作成			ページ設定、インデントを使用し、文書が作成できる			
9							
10	Excelを使用した表の基本			セルの書式、罫線の設定ができる 検索、並べ替えができる			
11							
12	Excelを使用したデータ管理			四則演算や合計等の簡単な関数の処理ができる			
13							
14	Excelを使用した評価表の作成			よく使われる関数を用いた表の作成ができる			
15							
16	Wordを使用した表の基本			表を作成し、結合、分割、サイズ調整ができる			
17							
18	Wordを用いた図形作成の基本			オブジェクトを作成し、グループ化、サイズ調整ができる			
19	Wordを使用した症例報告の作成			症例報告作成に必要なWord上の諸処理ができる			
20							

21	PowerPointを使用したプレゼン資料の基本①	テーマ選択、スライドのサイズ設定など、初期設定ができる
22	PowerPointを使用したプレゼン資料の基本②	SmartArtやPowerPoint内Excelの編集によるグラフ作成ができる
23		
24	PowerPointを使用したプレゼン資料の基本③	アニメーションの効用を理解し、作成ができる
25	PowerPointを使用したプレゼン資料の作成	PowerPointの機能を利用し、理学療法について分かりやすく紹介するプレゼン資料が作成できる
26		
27		
28		
29	PowerPointを使用したプレゼン発表	PowerPointのスライドを用いた分かりやすい発表ができる
30		

授業科目名	保健体育演習		担当者名	沼田 尚			
			実務経験				
教科書	なし	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数 30	作業療法科	1	後期	必修	演習
授業概要	本授業では、様々な運動を体験することで、実践することの「楽しさ」を理解し、必要な基礎的運動技術を獲得することを目的とし、生涯、スポーツへと関わっていくための運動習慣やコミュニケーション能力の習得、養成、向上を図る。						
学習到達目標	① 怪我をしないようにみんなで楽しみながら、様々な運動を積極的に体験し、基礎的運動技術を獲得・向上させる。② 様々なスポーツのルールを理解する。③ 体づくり運動を行うなかで、自己の柔軟性や身体の動きを理解する。④ スポーツを通して、コミュニケーション能力を習得、養成、向上する。						
評価方法	・ 受講態度(80%)…出席状況と授業への取り組む姿勢・態度など。 ・ 技術習得と理解度(20%)…各種目における、技術の習得とルールの理解度などをみる。 実技試験を行う場合もある。 ・ 課題レポート…適宜レポートの提出を求めることもある。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			授業への取り組む姿勢・態度に気を付ける			
2	ストレッチ運動			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する			
3	身体づくり運動1(自重トレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する			
4	身体づくり運動2(自重トレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する			
5	身体づくり運動3(持久カトレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する			
6	身体づくり運動4(持久カトレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する			
7	身体づくり運動5(ペアトレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する			
8	身体づくり運動6(ペアトレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する			
9	道具を使ったスポーツ1 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
10	道具を使ったスポーツ2 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
11	道具を使ったスポーツ3 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
12	道具を使ったスポーツ4 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
13	道具を使ったスポーツ5 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
14	道具を使ったスポーツ6 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
15	道具を使ったスポーツ7 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
16	道具を使ったスポーツ8 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
17	道具を使ったスポーツ9 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
18	道具を使ったスポーツ10 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
19	道具を使ったスポーツ11 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
20	道具を使ったスポーツ12 (バドミントン・卓球・シャッフルボード・バグジー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
21	道具を使ったスポーツ13(インディアカ)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			
22	道具を使ったスポーツ14(インディアカ)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する			

23	道具を使ったスポーツ15(インディアカ)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する
24	道具を使ったスポーツ16(インディアカ)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する
25	道具を使ったスポーツ17(ソフトバレーボール)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する
26	道具を使ったスポーツ18(ソフトバレーボール)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する
27	道具を使ったスポーツ19(ソフトバレーボール)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する
28	道具を使ったスポーツ20(ソフトバレーボール)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する
29	道具を使ったスポーツ21(シットイングバレーボール)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する
30	道具を使ったスポーツ22(シットイングバレーボール)まとめ	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する

授業科目名	コミュニケーション論		担当者名	小幡 紘輝			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	1年	通年	必修	講義
		30					
授業概要	医療現場ではコミュニケーションの重要性が広く認識されつつある。医療者と患者間はもちろん、専門家同士、行政関係者などとの円滑なコミュニケーションは、治療や指導・カウンセリング等の有効性と密接に関連している。 授業では、医療や保健福祉の場の様々な人間関係の中で起こるコミュニケーションの重要性を認識し、問題点を改善する視点と対処法を学ぶ。						
学習到達目標	医療従事者になるため基本的なコミュニケーションの知識と技術を理解し、さらに臨床実習において活用できる様に体得する。						
評価方法	定期試験・出席日数・レポートの提出期限と内容および授業態度の総合評価とする。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション、OTPTに必要な準備			OTPTに必要なコミュニケーションについて知る。			
2	医療従事者の養成教育			医療従事の養成校と効能の授業の講義のちがいに ついて説明できる。			
3	対人援助職としてのPT/OT			対人援助職種としての労働について説明できる。			
4	PT/OT学生に必要なコミュニケーション力			医療従事職種学生に必要なコミュニケーションの種 類を説明できる。			
5	心身ともに健康な医療従事者になるには			健康に必要な自己肯定、自立、自律、メタ認知につ いて説明できる。			
6	自分を知る			自分を知ることの重要性を理解する。			
7	自分の性格と傾向			自分の性格や行動、思考、感情傾向を知る。			
8	自分の態度			自分の態度、人生態度を知る。			
9	言語、非言語コミュニケーション			コミュニケーションの種類を理解する。また、その場 面に必要な観察能力や理解能力、伝達能力を知り活 用できる。			
10	みる力/きく力						
11	伝える力						
12	自己管理			自己管理について理解し説明できる。			
13	自己実現			自己実現について理解し説明できる。			
14	自分の使命/就職活動			仕事と就職について理解する。			
15	挨拶			社会人のマナーを説明できる。			
16	物理的領域と行動			相手の領域内の行動について説明できる。			
17	社会人としてのコミュニケーションツール使用法			社会人としてのコミュニケーション法とそれぞれのマ ナーについて説明できる。			
18	社会人としての感謝、文書マナー						
19	コミュニケーションスキルとは			医療者に必要なコミュニケーションスキルを説明でき る。			
20	医療面接			医療面接について具体的な準備や取り組みを説明 できる。			

21	信頼関係構築	患者との信頼関係構築のためのスキルを理解する。
22	質問形式	医療面接における質問形式について説明できる。
23	会話とコミュニケーション	医療面接における導入、話題提供、会話の傾聴と会話の集約について、また、質問の返答難易度や否定的意見、主張の技術を身に着け実践できる。
24	話題提供について	
25	傾聴と会話集約	
26	返答困難な質問について	
27	否定的会話について	
28	認知症とコミュニケーション	認知症のコミュニケーションについて説明できる。
29	患者家族とのコミュニケーション	患者家族とのコミュニケーションについて説明できる。
30	実習先でのコミュニケーション	実習先の指導者やスタッフに対してのコミュニケーションを説明できる。

授業科目名	解剖学Ⅰ		担当者名	尾形雅君、山本由似、宮崎啓史			
			実務経験				
教科書	・解剖学講義(伊藤隆著、南山堂)・プロメテウス解剖学アトラス(坂井建雄、医学書院)・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		5					
		時間数	作業療法科	1	通年	必修	講義
		75					
授業概要	解剖学の概念、人体の構造を学ぶ。全身の骨格・筋・脈管・器官の解剖学的構造及び生理学的機能の理解を深め、理学療法士に必要な知識を習得する。						
学習到達目標	人体の構造は複雑かつ精緻にできており、また個々の名称ごとに独立して存在しているのではなく、空間的にも機能的にも有機的に結びついている。全ての医学の基礎となる人体の正常構造を理解する。						
評価方法	小テスト、期末試験の結果を総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	解剖学総論 人体の部位、骨格系(骨総論・骨の連結)			人体の構造と区分および骨格系(骨の形態と構造)について説明できる			
2	解剖学総論 筋系(全身の骨格筋)			骨格筋の構造(筋の形状と名称)について説明できる			
3	解剖学総論 筋系(骨格筋総論)			骨格筋の作用および神経支配について説明できる			
4	解剖学総論 脈管系(全身の血管系・心臓)			心臓の構造、機能について説明できる			
5	解剖学総論 脈管系(血管系・動脈)			心臓を中心とした心脈管系について説明できる			
6	解剖学総論 脈管系(血管系・静脈)						
7	解剖学総論 脈管系(リンパ系)			リンパ管系の構成および機能について説明できる			
8	解剖学総論 内蔵(臓器の一般構造・消化器系)			人体における動物機能と植物機能の器官系について説明できる			
9	骨学 骨の構築・神経・機能			骨格からみた人体の区分について説明できる			
10	上肢 上肢の筋(上腕)			上肢の筋の構造及び機能について説明できる。			
11	上肢 上肢の筋(前腕)						
12	上肢 上肢の筋(手)						
13	上肢 上肢の神経①			上肢の神経の分布や支配筋を理解する。			
14	上肢 上肢の神経②						
15	上肢 上肢の脈管			上肢の脈管の分布を理解する。			
16	下肢 下肢の筋(下肢帯の筋、足の筋、下肢の関節・筋)			下肢の筋の構造及び機能について説明できる。			
17	下肢 下肢の筋(直立の仕組み、歩行と走行の仕組み)						

18	下肢 下肢の脈管(動脈、静脈、リンパ系)	下肢の脈管の分布を理解する。
19	下肢 下肢の神経(腰神経叢、仙骨神経叢)	下肢の筋を支配する神経系について説明できる
20	下肢 下肢の神経(下肢における神経分布)	
21	下肢 下肢の筋	体幹と下肢を連結する筋の機能と形態について説明できる
22	下肢 下肢の神経	下腿に分布する神経について説明できる
23	下肢 下肢の脈管	下腿に分布する脈管について説明できる
24	背部 背部の筋(1)	背部の筋の構造と機能について説明できる。
25	背部 背部の筋(2)	
26	背部 背部の神経(1)	脊髄神経の構造と機能を理解する。
27	背部 背部の神経(2)	
28	胸壁の筋	胸壁の筋の構造及び機能について説明できる。
29	胸腔	胸腔の構造的特徴及び胸部臓器の配置を理解する。
30	気管・気管支	胸部臓器の構造と機能について理解する。
31	肺	
32	心臓	
33	食道・脈管	
34	腹部 腹腔の臓器(肝臓・胆路系)	腹部臓器の構造と機能について理解する。
35	腹部 腹腔の臓器(膵臓・脾臓)	
36	腹部 腹腔の臓器(腹膜)	
37	腹部 腹腔の臓器(腎臓①)	
38	腹部 腹腔の臓器(腎臓②)	
39	腹部 腹腔の臓器(副腎)	
40	腹部 腹部の脈管	腹部の脈管および神経の分布と機能について理解

41	腹部 腹部の神経	する。
42	骨盤の臓器(膀胱、尿道、直腸)	骨盤内臓の概略とその位置関係を説明できる
43	骨盤の臓器(男性生殖器、女性生殖器)	
44	骨盤底、会陰、外生殖器(骨盤核膜、会陰)	骨盤底部の概略を説明できる
45	骨盤底、会陰、外生殖器(男性・女性の外生殖器)	
46	骨盤部の脈管(動脈、静脈、リンパ系)	骨盤部の脈管の概略を説明できる
47	頭頸部の筋 頭部の筋	頭頸部の筋の構造及び機能について説明できる。
48	頭頸部の筋 頸部の筋1	
49	頭頸部の筋 頸部の筋2	
50	頭頸部の主要な器官 頭皮	頭頸部の主要な器官の構造及び機能について説明できる。
51	頭頸部の主要な器官 眼(視覚器)	
52	頭頸部の主要な器官 耳(平衡聴覚器)	
53	頭頸部の主要な器官 鼻・口	
54	頭頸部の主要な器官 咽頭・喉頭	
55	頭頸部の脈管(動静脈)	頭頸部の脈管および神経の分布と機能について理解する。
56	頭頸部の脈管(リンパ系)	
57	頭頸部の脈管(神経1)	
58	頭頸部の脈管(神経2)	
59	脊髄(外形、内部構造、主要な神経路)	脊髄の構造及び機能について説明できる。
60	脊髄膜、脊髄の血管	
61	脳(延髄)	小脳・脳幹構造及び機能について、脳神経系の機能について説明できる。
62	脳(橋、中脳)	
63	脳(脳幹における脳神経核)	

64	脳(脳幹網様体・小脳)	
65	脳(間脳)	
66	脳(終脳①)	大脳の構造及び機能について説明できる。
67	脳(終脳②)	
68	脳(脳膜と脳の血管)	脳膜と脳の血管の構造及び機能について説明できる。
69	中枢神経系の伝導路(上行性伝導路)	中枢神経系の伝導路について説明できる。
70	中枢神経系の伝導路(下行性伝導路)	
71	骨学・上肢・下肢のまとめ	上肢・下肢の骨、関節および筋の機能的な相互関係を説明できる。
72	背部 まとめ	背部筋・神経の構造と機能について説明できる。
73	胸部・腹部まとめ	胸部・腹部臓器の構造と機能について理解する。
74	頭頸部・中枢神経系まとめ	頭頸部・中枢神経系について理解する。
75	頭頸部・中枢神経系まとめ	

授業科目名	解剖学実習		担当者名	大和田祐二、尾形雅君、山本由似、宮崎啓史			
			実務経験				
教科書	・解剖学講義(伊藤隆著、南山堂)・プロメテウス解剖学アトラス(坂井建雄、医学書院)・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	1	前期	必修	実習
		45					
授業概要	解剖学の概念、人体の構造を学ぶ。全身の骨格・筋・脈管・器官の解剖学的構造を深め、理学療法士に必要な知識を習得する。						
学習到達目標	人体の構造は複雑かつ精緻にできており、また個々の名称ごとに独立して存在しているのではなく、空間的にも機能的にも有機的に結びついている。全ての医学の基礎となる人体の正常構造を理解する。						
評価方法	期末試験の結果を評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	胸郭①			胸椎、肋骨(および胸椎)の形状、部位名および関節について説明できる			
2	胸郭②						
3	胸郭③						
4	上肢帯①			肩甲骨、鎖骨の形状、部位名および関節について説明できる			
5	上肢帯②						
6	上肢帯③						
7	上肢帯④						
8	自由上肢①			上腕骨、尺骨、橈骨、手の骨の形状、部位名および関節について説明できる			
9	自由上肢②						
10	自由上肢③						
11	自由上肢④						
12	下肢帯①			寛骨(腸骨、恥骨、坐骨)の形状と部位名について説明できる			
13	下肢帯②						
14	下肢帯③						
15	下肢帯④						
16	自由下肢①			大腿骨、胫骨、腓骨、足の骨の形状と部位名について説明できる			

17	自由下肢②	
18	自由下肢③	
19	自由下肢④	
20	頭蓋①	頭蓋を構成する骨の形状、部位名および関節について説明できる
21	頭蓋②	
22	頭蓋③	
23	頭蓋④	
24	脊柱①	椎骨(頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎)の形状、部位名および関節について説明できる
25	脊柱②	
26	脊柱③	
27	脊柱④	
28	骨盤①	骨盤を構成する骨・靱帯について説明できる
29	骨盤②	
30	骨盤③	
31	骨盤④	
32	胸部臓器①	臓器模型を用い、胸部臓器の構造を観察する。
33	胸部臓器②	
34	胸部臓器③	
35	胸部臓器④	
36	血管①	血管模型を用い、全身の血管の走行を観察する。
37	血管②	
38	血管③	
39	血管④	

40	肉眼解剖実習①	御献体を用いて、人の器官を直接観察する。
41	肉眼解剖実習②	
42	肉眼解剖実習③	
43	肉眼解剖実習④	
44	肉眼解剖実習⑤	
45	肉眼解剖実習⑥	

授業科目名	生理学		担当者名	高田 拓明・吉田 望・小笠原 祥太			
			実務経験	作業療法士として病院等での勤務経験あり(小笠原)			
教科書	・PT OT生理学(医学書院) ・標準生理学(医学書院)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	作業療法科	1年	通年	必修	講義
		60					
授業概要	命の営みを機能の面から系統的に学習する。本講義では、人体が生命を維持する精緻な仕組みを、分子・細胞から器官システムまで体系的に学びます。単なる暗記ではなく、日常生活の現象から身体の仕組みをイメージし、臨床で遭遇する病態(浮腫み、息切れ等)と生理学理論を結びつけることで、将来の臨床実習や国家試験の土台となる論理的思考力を養います。						
学習到達目標	国家試験に対応出来るための基礎的な学力を身につける。人体の各器官の正常な機能を理解し、それらが相互に連携して内部環境を一定に保つ仕組み(ホメオスタシス)を、理学療法の基礎知識として説明できるようになる。						
評価方法	出席、レポート、課題取組と発表、期末試験の結果を総合的に評価 (高田) 期末試験80%, 授業課題20%						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ガイダンス, 生命現象と人体-1			1. 細胞膜の透過性と輸送: 拡散、ポンプ、チャネルの違いを理解し、物質が細胞内外を移動する論理を一部説明できる。 2. 受容体と信号伝達: 細胞が外部の刺激(ホルモンや薬物)をどのように受け取り、反応するかをイメージできる。 3. 膜電位の維持: イオンの濃度勾配が「身体活動の動力源」として機能していることを理解する。			
2	生命現象と人体-2						
3	生命現象と人体-3						
4	細胞の構造と機能						
5	神経の興奮伝導と末梢神経-1			1. 活動電位の発生: 神経が「電気信号」を発生させるプロセスを、イオンの動きを基に記述できる。 2. 伝導と伝達: 跳躍伝導の仕組みと、シナプスにおける化学的伝達のステップを区別して一部説明できる。 3. 神経損傷の予測: 神経が圧迫されたり切断されたりした際、なぜ麻痺やしびれが起きるのかを一部説明できる。			
6	神経の興奮伝導と末梢神経-2						
7	神経の興奮伝導と末梢神経-3						
8	神経の興奮伝導と末梢神経-4						
9	中枢神経系-1			1. 機能局在の把握: 大脳、小脳、脳幹の役割を理解し、損傷部位から現れる症状(運動麻痺等)を一部説明できる。 2. 運動制御の経路: 脳からの指令が脊髄を通過して筋肉に届くまでの「道筋(伝導路)」を図示できる。 3. 可塑性の概念: 脳が学習やリハビリによって変化する「柔軟なシステム」であることを理解する。			
10	中枢神経系-2						
11	中枢神経系-3						
12	中枢神経系-4						
13	筋と骨-1			1. 収縮のメカニズム: 滑り説(アクチンとミオシン)を理解し、電気信号が物理的な力に変換されるロジックを説明できる。 2. 筋収縮の形態: 日常動作(階段を降りる、荷物を持つ等)における等尺性・等張性収縮の違いを特定できる。 3. 廃用と過負荷: 使わない筋肉がなぜ細くなるのか、鍛えようとどう変化するかを生理学的に考察し一部説明できる。			
14	筋と骨-2						
15	筋と骨-3						
16	筋と骨-4						
17	感覚-1			1. 受容体の役割: 痛み、温度、触圧覚がどのように電気信号へ変換されるかを理解する。 2. 固有受容感覚: 自分の手足の位置や動きを「見なくてもわかる」仕組み(筋紡錘等)を動作と結びつけて考えられる。 3. 痛みの制御: ゲートコントロール理論などを通じ、リハビリで痛みが和らぐ理由を論理的に一部説明できる。			
18	感覚-2						
19	感覚-3						
20	感覚-4						

21	血液-1	1. 血球の機能と止血：酸素運搬(赤血球)や免疫(白血球)、凝固の仕組みを理解する。 2. 内部環境の緩衝：血液がpHや浸透圧を一定に保つ「輸送調整システム」であることを一部説明できる。 3. 臨床データの解釈：貧血や炎症の数値が、身体にどう直結するかをイメージできる。
22	血液-2	
23	血液-3	
24	血液-4	
25	心臓と循環-1	1. ポンプ機能の調節：心周期と血圧調節の仕組みを理解し、運動負荷に対する心臓の反応を一部説明できる。 2. 血流の再配分：運動時に筋肉へ血流が優先的に送られる「交通整理」のロジックを一部説明できる。 3. 浮腫(むくみ)の原理：スターリングの仮説に基づき、なぜ足がむくむのかを物理的・生理学的な視点で考察できる。
26	心臓と循環-2	
27	心臓と循環-3	
28	心臓と循環-4	
29	筋骨格・神経系総復習と試験対策	前期範囲の実力試験を実施し、苦手分野の確認、復習のための対策・個人課題から苦手分野の再学習に取り組む。前期範囲の主要課題に対して理解し、一部説明することができる。
30	脈管系総復習と試験対策	
31	第9章 呼吸とガスの運搬	外呼吸と内呼吸、気道と肺胞
32		呼吸運動
33		呼吸気量測定実習
34		
35		ガス交換
36		
37		呼吸の調節(化学受容器、圧受容器)
38		病的呼吸
39	第10章 尿の生成と排泄	腎臓の役割・構造
40		尿の生成
41		尿の生成
42		排尿反射・畜尿反射
43		酸塩基平衡
44		酸塩基平衡
45		酸塩基平衡
46	第11章 消化と吸収	- 消化管の各部位における消化メカニズムを説明できる - 消化液とその機能を説明できる - 消化に関するホルモンの機能について説明できる
47		
48		
49		

50	第12章 栄養と代謝	・各栄養素の意義と代謝を説明できる ・エネルギー代謝を説明できる
51		
52		
53		
54	第13章 内分泌	・ホルモンの作用、種類、作用の機能を説明できる ・内分泌の調整メカニズムを分類して説明できる
55		
56		
57		
58	第14章 生殖と発生・成長と老化	・生殖機能を説明できる ・胎児の発生を説明できる ・分娩と授乳について説明できる ・成長と老化の過程を説明できる
59		
60		

授業科目名			生理学実習		担当者名	高田 拓明		
					実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり		
教科書	授業スライド・配布資料 生理学指定教科書	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法	
		1						
		時間数	理学療法科	1	後期	必修	実習	
		45						
授業概要	本授業では、理学療法を学ぶうえで必要となる生理学的知識を、講義、解析機器を用いた測定、理学療法評価、バイタルサイン測定、データ解析、グループワークを通して実践的に理解する。 各分野では、1回目に器官系の基礎的知識と測定・解析方法を学習し、2回目に学生自身が条件を設定して測定を行い、得られたデータをもとに身体反応を考察する。たとえば循環器系では、心臓・血管の基礎、血圧測定、心電図の理解を学んだうえで、姿勢変化や運動負荷による血圧・心拍数・心電図変化を解析し、循環調節のしくみを考察する。 本授業を通して、学生は生理学の知識を単なる暗記としてではなく、理学療法評価やリスク管理、運動負荷設定に結びつけて理解することを目指す。 各分野を2回構成で実施する。 第1回目は、基礎知識の学習と測定・解析方法の実習を行う。 第2回目は、前回学習した内容をもとに、学生が測定条件や仮説を考え、実際に測定・解析・考察を行う。 授業では、血圧計、パルスオキシメーター、心電図、筋電図、握力計、呼吸機能測定機器、体組成計、尿検査試験紙、血糖測定器などを必要に応じて用いる。また、理学療法評価として、姿勢変化、運動負荷、筋力測定、呼吸数、心拍数、SpO ₂ 、自覚的運動強度、疲労感、浮腫、皮膚温、バランス評価などを組み合わせて実施する。							
学習到達目標	1. 筋、神経、感覚、循環、呼吸、泌尿器、内分泌の基本的な構造と機能を説明できる。 2. バイタルサインや理学療法評価の測定値を、生理学的機序と関連づけて解釈できる。 3. 姿勢変化、運動負荷、呼吸様式、感覚刺激、環境変化などに対する身体反応を説明できる。 4. 測定機器を適切に使用し、得られたデータを整理・解析できる。 5. 測定結果から、正常な生理反応と注意すべき反応を区別できる。 6. グループで課題を設定し、データに基づいて考察・発表できる。 7. 生理学的知識を理学療法評価、運動療法、リスク管理、生活指導に応用できる。							
評価方法	出席、レポート、課題取組と発表、期末試験の結果を総合的に評価							
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など				
1	生理学実習の目的と測定の基本			授業の進め方、測定倫理、安全管理、バイタルサインの基本、データ記録方法を学ぶ。血圧、脈拍、呼吸数、SpO ₂ 、体温の測定を実施する。				
2								
3								
4	筋生理学① 骨格筋の基礎と筋機能評価			骨格筋の構造、筋収縮、筋線維タイプ、筋疲労を学ぶ。握力、徒手筋力検査、筋持久力、表面筋電図などの測定方法を学習する。				
5								
6								
7	筋生理学② 筋疲労と筋活動の解析			握力反復課題、等尺性収縮、姿勢保持課題などを実施し、筋力低下、筋疲労、主観的疲労感、筋電図変化を解析する。運動負荷と筋機能の関係を考察する。				
8								
9								
10	神経生理学① 神経系の基礎と反射・運動制御			中枢神経系、末梢神経系、体性神経、自律神経の基礎を学ぶ。腱反射、反応時間、協調運動、感覚入力と運動出力の評価方法を学習する。				
11								
12								
13	神経生理学② 感覚入力と運動反応の解析			視覚条件、聴覚刺激、閉眼条件、二重課題などによる反応時間、バランス、姿勢制御の変化を測定する。神経系が運動制御に与える影響を考察する。				
14								
15								
16	感覚生理学① 感覚機能の基礎と評価			体性感覚、視覚、前庭感覚、痛覚、温度覚、固有感覚の基礎を学ぶ。二点識別覚、関節位置覚、閉眼立位、片脚立位、痛覚・温冷覚の評価方法を学習する。				
17								
18								

19		感覚生理学② 感覚情報と姿勢制御の解析	開眼・閉眼、軟面・硬面、頭位変化、視覚情報の有無などの条件で立位バランスを測定する。感覚入力の変化が姿勢制御に与える影響を考察する。
20			
21			
22		循環器系① 循環器の基礎と血圧・心電図測定	心臓の構造、体循環・肺循環、刺激伝導系、血圧調節を学ぶ。血圧測定、脈拍測定、心電図の基本波形、心拍数の測定方法を学習する。
23			
24			
25		循環器系② 姿勢変化・運動負荷による循環応答	臥位、座位、立位、歩行、階段昇降、軽運動などによる血圧、心拍数、心電図、RPEの変化を測定する。圧受容器反射、交感神経活動、静脈還流、運動時循環応答を考察する。
26			
27			
28		呼吸器系① 呼吸器の基礎と呼吸機能評価	気道、肺、横隔膜、換気、ガス交換、呼吸調節を学ぶ。呼吸数、SpO ₂ 、胸郭拡張差、呼吸パターン、肺活量、ピークフローなどの測定方法を学習する。
29			
30			
31		呼吸器系② 呼吸様式・運動負荷による呼吸応答	安静時、深呼吸、口すぼめ呼吸、運動負荷、姿勢変化による呼吸数、SpO ₂ 、胸郭運動、自覚的息切れを測定する。換気量、酸素需要、呼吸筋活動、呼吸困難感を考察する。
32			
33			
34		泌尿器・体液調節① 腎臓の基礎と体液評価	腎臓、ネフロン、尿生成、水分・電解質調節、ADH、アルドステロンの基礎を学ぶ。体重、尿量、尿比重、尿試験紙、浮腫、脱水所見、血圧との関係を学習する。
35			
36			
37		泌尿器・体液調節② 水分摂取・運動・姿勢と体液変化	水分摂取前後、運動前後、発汗、姿勢変化による体重、尿所見、血圧、心拍数、口渇感、浮腫の変化を観察する。体液量調節と循環・内分泌の関係を考察する。
38			
39			
40		内分泌・代謝系① ホルモンと代謝調節の基礎	内分泌、標的器官、フィードバック調節、血糖調節、ストレス応答、運動時の代謝調節を学ぶ。血糖、体組成、食事・運動・ストレスとホルモン応答の関係を学習する。
41			
42			
43		総合 試験・解説・統合的まとめ	筋、神経、感覚、循環、呼吸、泌尿器、内分泌の内容について総合試験を行う。試験後に解説を行い、各器官系の連関、理学療法評価、運動療法、リスク管理への応用を整理する。
44			
45			

授業科目名	運動学		担当者名	阿部 伸洋			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	基礎運動学	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	作業療法科	1年	後期	必修	講義
		45					
授業概要	人の身体運動を機能－構造の観点から分析するのに必要となる基本的な知識や概念を学ぶ。						
学習到達目標	身体運動の仕組みと、その考察を通じて知識・理解を深める。						
評価方法	定期試験・出席により評価を行う。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	運動学総論			運動学の目的とリハビリテーションとの関連を説明できる。			
2	身体の構造と機能①			細胞・組織・器官の構造と機能を理解できる。 神経系と反射の基本機能を説明できる。			
3	身体の構造と機能②						
4	身体の構造と機能③			感覚器と運動器の役割を理解できる。 循環・呼吸機能と身体運動との関連を説明できる。 代謝とエネルギー供給機構を理解できる。			
5	身体の構造と機能④						
6	身体の構造と機能⑤						
7	上肢の運動学①			肩甲帯と肩関節の運動を説明できる。 肩甲上腕リズムを理解できる。 肩関節の複合運動の関係を説明できる。			
8	上肢の運動学②						
9	上肢の運動学③						
10	上肢の運動学④			肘関節の構造と運動を理解できる。 前腕の回内・回外運動を説明できる。 手関節の構造と運動を理解できる。			
11	上肢の運動学⑤						
12	上肢の運動学⑥						
13	上肢の運動学⑦			手指の運動と把持機能を説明できる。 母指運動と巧緻動作を理解できる。 上肢運動の統合的な特徴を説明できる。			
14	上肢の運動学⑧						
15	上肢の運動学⑨						
16	下肢の運動学①			骨盤と股関節の運動を理解できる。 股関節周囲筋の機能を説明できる。 膝・足関節の構造と運動を理解できる。			
17	下肢の運動学②						
18	下肢の運動学③						
19	体幹・顔面頭部の運動学①			脊柱と体幹の運動を説明できる。 胸郭・呼吸運動を理解できる。 顎関節と表情筋の機能を説明できる。			
20	体幹・顔面頭部の運動学②						

21	体幹・顔面頭部の運動学③	
22	運動制御①	運動制御の概念と神経機構を理解できる。 運動計画と運動実行の過程を説明できる。 フィードバック・フィードフォワード制御を理解できる。
23	運動制御②	
24	運動制御③	
25	バランス制御①	姿勢制御の基本概念を説明できる。 姿勢保持と姿勢反射を理解できる。 立ち直り反応と平衡反応を説明できる。
26	バランス制御②	
27	バランス制御③	
28	バランス制御④	姿勢戦略と重心制御を理解できる。 感覚情報と姿勢制御の関係を説明できる。 バランス障害の特徴を理解できる。
29	バランス制御⑤	
30	バランス制御⑥	
31	姿勢と歩行①	姿勢の定義と分類を説明できる。 重心・支持基底面・安定性を理解できる。 姿勢反射と姿勢戦略を説明できる。
32	姿勢と歩行②	
33	姿勢と歩行③	
34	歩行分析①	歩行要素と歩行周期を説明できる。 正常歩行の運動学的特徴を理解できる。 異常歩行の特徴を説明できる。
35	歩行分析②	
36	歩行分析③	
37	運動学習①	運動学習の概念と学習段階を理解できる。 学習理論とフィードバックを説明できる。 練習方法と学習の転移を理解できる。
38	運動学習②	
39	運動学習③	
40	生体力学①	生体力学の概念と力学の基礎を説明できる。 力・モーメント・重力の概念を理解できる。 仕事・仕事率・エネルギーを説明できる。
41	生体力学②	
42	生体力学③	
43	生体力学④	テコの原理と身体運動との関係を理解できる。 筋収縮様式と力学的特徴を説明できる。 生体力学の知識を臨床場面を想定して応用できる。
44	生体力学⑤	
45	生体力学⑥	

授業科目名	人間発達		担当者名	山田 嘉明			
			実務経験				
教科書	教科書は指定しない。 配布資料(プリント)を使用する。	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数 30	作業療法科	1	前期	必修	講義
授業概要	人間はどのように発達するのか。この生涯にわたる変容過程を理解し、人間の発達にかかわる諸要因および個体と環境の相互作用のあり方について学習する。身体、運動、言語、認知、情緒、社会性の側面から各発達時期の特色を学び、発達理論を概観する。						
学習到達目標	発達を身体・運動、言語・認知、4情緒・社会性の領域に分けてとらえ、説明ができる。 人間の発達時期ごとの特徴や特色を理解し、説明できる。 主な発達理論を理解し、説明できる。						
評価方法	小レポート提出(30%)、期末試験(70%)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	人間の発達とは			人間発達の用語の定義、近代の発達研究、研究方法について説明できる。			
2							
3	胎生期における発達			胎生期(胚期、胎芽期、胎児期)における発達の特色について説明できる。			
4							
5	周産期における発達			周産期障害、母子保健統計、周産期死亡率、低出生体重児、胎児発育に影響する要因、アプガースコアについて説明できる。			
6							
7	新生児期・乳児期・幼児期における発達(1)ー身体、運動			新生児行動評価法、カウプ指数、乳幼児身体発育調査、原始反射、姿勢反射、平衡反応、髄鞘形成、運動発達について説明できる。			
8							
9	新生児期・乳児期・幼児期における発達(2)ー言語、認知			一語文、多語文、幼児語、認知発達、イメージの利用について説明できる。			
10							
11	新生児期・乳児期・幼児期における発達(3)ー情緒、社会性			情緒の分化、社会化、愛着、微笑、人見知り、分離不安、遊びの発達について説明できる。			
12							
13	発達検査			遠城寺式・乳幼児分析的発達検査、日本版デンバー式発達スクリーニング検査について説明できる。			
14							
15	児童期における発達			ローレル指数、運動技能、思考における中心化、保存の理解、記憶方略、防衛機制について説明できる。			
16							
17	青年期における発達			第二次性徴、形式的操作思考、アイデンティティについて説明できる。			
18							
19	成人期における発達			身体的変化、生活習慣病、結晶性能力、流動性能力、発達課題について説明できる。			
20							
21	老年期における発達			生理的老化、長期記憶、ワーキングメモリ、離脱説、活動説について説明できる。			
22							
23	発達理論(1)ーゲゼルの成熟理論、フロイトの心理学的発達理論			発達課題、発達段階、ゲゼルの成熟理論、フロイトの心理学的発達理論について説明できる。			
24							
25	発達理論(2)ーエリクソンの心理社会的発達理論			エリクソンの心理社会的発達理論について説明できる。			
26							
27	発達理論(3)ーピアジェの認知的発達理論			ピアジェの認知的発達理論について説明できる。均衡化、スキーマ、同化、調節、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期			
28							
29	まとめ			発達関連用語、発達における共通性、発達に影響を及ぼす要因について説明できる。これまでの復習とまとめを行う。			
30							

授業科目名	医学概論		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	学生のための医療概論(医学書院)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	1	前期	必修	講義
授業概要	我が国の医療体制の概念や考え方を解説する。また現在の我が国をとりまく医学全体について多岐にわたって講義する。						
学習到達目標	医療体制の概念や考え方を身に付ける						
評価方法	定期試験による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	チーム医療・医療保険提供体制を理解する			医療を支える人々で保健医療サービスの提供体制、日本の医療保険制度、医療政策と医療計画・医療と経済			
2	医療保険制度・医療改革・医療と経済を理解する						
3	在宅ケアのシステム等を理解する			在宅ケアの推進 高齢者ケアシステムについて理解する			
4	高齢者ケアシステムを理解する						
5	災害医療の定義・種類			災害医療について理解する			
6	災害医療の実践-CSCATTT						
7	救急医療の歴史			救急医療の歴史と日本の現状について理解する 救急救命について理解する			
8	わが国の救急医療体制						
9	医療事故の定義と原因			医療安全について理解する			
10	医療事故の対策						
11	健康の定義・健康政策			健康の定義・ヘルスプロモーション オーダーメイドの健康増進法について理解する			
12	オーダーメイドの健康増進・倫理規定						
13	老化・認知症の定義と対策			老化・認知症とその対策 思春・青年・成人期の精神保健と対策について理解する			
14	精神保健対策と将来						
15	リハビリテーションの目的とチームワーク			リハビリテーションの目的とチームワーク ノーマライゼーションへの道			
16	ノーマライゼーションへの道と課題						
17	細菌と人間の戦いにみる医学の歴史			近代医学の誕生 日本の近代化と医療の発達について理解する			
18	母子の健康をめぐる日本の医療の発達						
19	放射線被爆と人間			薬害・公害事例から学ぶこと			
20	薬害・四大公害病から学ぶもの						
21	診断・治療機器の発達と課題			医用工学の発達 臓器移植の定義と施行について理解する			
22	臓器移植法の歴史とシステム						
23	遺伝子診断の課題と今後の医療従事者の役割			生命科学の発達と医学 海外での保健医療活動			
24	保健医療分野の国際化						
25	保管代替医療の内容			現代医療の新たな領域について理解する 予防等の基礎について理解する			
26	統合医療と食。日本における統合医療						
27	患者中心の医療・医療サービスと医学診断			現代医療が目指すもの 医療と診療記録			
28	POS診療記録が目指すもの						
29	チーム医療の実践。生命倫理とその判断			患者中心の医療の方法論 生命倫理と患者の権利			
30	インフォームドコンセント・個人情報保護とターミナルケア						

授業科目名	病理学		担当者名	武田 和久			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	はじめの一步の病理学 第2 ・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	1	後期	必修	講義
		30					
授業概要	ヒトのからだの正常な機能と構造が、さまざまな原因(病因)により異常となる仕組み、機序について学習し、それぞれの病態と正常な構造と機能との違いについて学習する。また、からだの損傷や創傷の回復や治癒の機序についても学習する。						
学習到達目標	[1]疾病の成立機序や疾病の基本となる病変とそれに伴う形態・機能の変化、病態生理学、病態生化学について説明できる。 [2]からだの損傷や創傷の回復や治癒の機序についても理解し説明できる。 [3]それぞれの病態と正常な構造と機能との違いについて理解し説明できる。						
評価方法	出席・授業態度・試験(1月)の結果を総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	病態学総論・疾病・人の死/細胞死			病態学の基本的事項や人の死/細胞死について説明できる。			
2							
3	2 細胞障害(細胞障害・変性)			細胞障害の原因と機序(変性)を分類し各々について説明できる。			
4							
5	細胞障害(生体色素・萎縮・肥大・化生)			色素変性及び病理的变化(細胞増殖・分化異常)について説明できる。			
6							
7	炎症			創傷治癒、炎症について説明できる。			
8							
9	免疫			免疫の異常(アレルギーや自己免疫病など)について説明できる。			
10							
11	血液循環障害			循環障害、出血素因、ショックの機序と疾患について説明できる。			
12							
13	出血 血栓 浮腫			出血・血栓・浮腫について説明できる。			
14							
15	先天異常・遺伝性疾患			遺伝子・染色体の異常疾患について説明できる。			
16							
17	感染症			感染症について説明できる。			
18							
19	腫瘍(1)総論 がんの浸潤・転移など			がんの基本的事項及び浸潤・転移のメカニズム及びがん病期ステージについて説明できる。			
20							
21	腫瘍(2)発癌のメカニズム			発がんのメカニズムと代表的遺伝性がん疾患について説明できる。			
22							
23	代謝性疾患(1)生活習慣病			糖・脂質代謝異常疾患について説明できる。			
24							
25	代謝性疾患(2)アミノ酸代謝異常症、その他			アミノ酸、黄疸、ビタミン、ミネラル異常などの代謝異常疾患について説明できる。			
26							
27	加齢 老年症候群			加齢の機序と加齢関連疾患について説明できる。			
28							
29	学びの振り返り			これまでの授業の要点事項を整理し、説明することができる。			
30							

授業科目名	臨床心理学		担当者名	山田 嘉明			
			実務経験				
教科書	・臨床心理学 町沢静夫著, 医学書院 ・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数 30	作業療法科	1	後期	必修	講義
授業概要	心理的問題をもつ人(クライアント)の臨床心理的査定法と心理的援助方法の基本について学ぶ。前半では臨床心理学の背景, 研究方法について概観し, 神経症圏と精神病圏, 心身症圏の障害を理解する。臨床心理的査定法については面接法と代表的な心理検査を学習する。心理的援助方法は精神分析的方法, 認知行動療法, 来談者中心療法を中心に後半でみていく。						
学習到達目標	・不安症・強迫症・解離症等の神経症圏, 統合失調症等の精神病圏, 心身症圏の症状や障害を理解し, 説明できる。 ・臨床心理学的査定法を理解し, 説明できる。 ・主な心理療法を理解し, 説明できる						
評価方法	小レポート提出(30%), 期末試験(70%)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	臨床心理学とは何か			臨床心理学の定義, 対象, 臨床心理士・公認心理師について説明できる。			
2							
3	DSM診断分類			精神的な変調に関する伝統的診断分類ならびにDSMによる診断分類について説明できる。			
4							
5	不安症, 強迫症, 解離症群など			神経症圏の症状や障害について説明できる。			
6							
7	統合失調症			統合失調症の症状や障害について説明できる。			
8							
9	双極性障害, 抑うつ障害			双極性障害やうつ病の症状や障害について説明できる。			
10							
11	心身症－摂食障害			摂食障害(神経性無食欲症, 神経性大食症)の症状や障害について説明できる。			
12							
13	臨床心理的査定法(1)－面接法, 心理検査			面接法, 心理検査の種類について説明できる。			
14							
15	臨床心理的査定法(2)－知能検査			ビネー式知能検査, ウェクスラー式知能検査について説明できる。			
16							
17	臨床心理的査定法(3)－パーソナリティ検査			主なパーソナリティ検査について説明できる。パーソナリティ検査の実例をみる。			
18							
19	臨床心理的査定法(4)－神経心理学的検査			リハビリテーション分野などでよく使用される神経心理学的検査について説明できる。			
20							
21	心理療法(1)－精神分析的方法			心理療法(精神療法)の定義, 方法, 精神分析的アプローチについて説明できる。			
22							
23	心理療法(2)－認知行動療法			行動療法, 認知療法, 認知行動療法について説明できる。			
24							
25	心理療法(3)－来談者中心療法			来談者中心療法について説明できる。			
26							
27	心理療法(4)－森田療法, 内観療法など			森田療法, 内観療法について説明できる。			
28							
29	まとめ			これまでの復習とまとめを行う。			
30							

授業科目名	公衆衛生学		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	シンプル公衆衛生学(南江堂)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	1	後期	必修	講義
		30					
授業概要	環境や生活が健康に与える影響と、健康を守るための包括的な取り組みについて理解する。						
学習到達目標	公衆衛生全般について理解し、説明することができる						
評価方法	定期試験による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	公衆衛生学の定義と役割			健康の測定とその指標を理解する			
2	健康の定義とWHOの役割						
3	公衆衛生の医療と歴史			公衆衛生活動の基本、および生活と健康の関わりを知る			
4	保健統計(健康の測定・人口統計)						
5	疫学の定義と方法の原理			公衆衛生学で用いられる疫学の役割と手法を学ぶ			
6	観察研究と介入研究						
7	疾病予防・集団検診の技法・健康日本21			予防の考え方と感染症等に対する予防対策を知る			
8	健康日本21(第二次)の要旨						
9	感染症の定義・分類と予防			生活習慣病と循環器疾患の予防を知る			
10	生活習慣病、循環器疾患等の予防						
11	環境保健・物理的環境要因と健康			自然環境、物理・化学的環境と健康の関わりを学ぶ			
12	環境保健・化学的環境要因と健康						
13	環境保健・衣食住の衛生			生活環境と健康の関わりおよび環境管理を学ぶ			
14	環境保健・公害と環境問題						
15	地域健康活動と行政			地域の考え方と地域保健活動の現状を理解する			
16	消費者保健						
17	母子保健の水準			出生、乳幼児の健康管理、母子保健対策を理解する			
18	母子保健活動と行政						
19	学校保健管理の意義と役割			子供の健康と学校における保健対策を理解する			
20	学校保健教育と地域社会の係わり						
21	産業保健労働規制の変遷			労働者の健康と職場における保健対策を理解する			
22	労働安全衛生法の概説						
23	高齢者の健康と現状			高齢者の健康と老人保健・福祉対策を理解する			
24	老人保健制度と介護保険の役割						
25	精神障害の分類			精神障害と精神保健活動を理解する			
26	精神保健福祉活動						
27	国際保健医療の考え方・意義			国際保健の考え方を学ぶ、保健医療制度の発達と現状を学ぶ			
28	国際保健機関の役割						
29	具体的な公衆衛生活動の内容			具体的な公衆衛生活動の内容を理解する			
30	医療保障・年金の仕組み						

授業科目名	社会福祉学概論		担当者名	横山 英史			
			実務経験				
教科書	コメディカルのための社会福祉概論 鬼崎信好, 本郷秀和(編集) 講談社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数 30	作業療法科	1	前期	必修	講義
授業概要	作業療法士に求められる社会福祉に関する基本的な考え方や福祉制度、サービスの内容について説明を行う。						
学習到達目標	様々な生活、福祉問題に関する理解を深め、当事者や家族が抱える問題に自分なりに対応が出来るようになることを目指す。						
評価方法	期末試験、レポート、授業への参加度						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	社会福祉とは 語義、範囲			社会福祉の捉え方について説明できるようになる			
2	用語について 歴史的系譜			代表的な用語、考え方について理解し説明できる			
3	日本の社会福祉の歴史(1) 古代～戦中			社会福祉の礎となる取り組みについて説明できる			
4	日本の社会福祉の歴史(2) 戦後～			現行の制度に至る背景や要因に説明できる			
5	社会保障、社会福祉の体系、組織(1)			体系、社会保険制度を理解し、活用できる			
6	社会保障、社会福祉の体系、組織(2)			公的扶助、組織について理解し説明できる			
7	こども福祉(1)			法制度、施設、専門職について説明できる			
8	こども福祉(2)			虐待、貧困等の問題に対応出来るようになる			
9	障害者福祉(1)			理念、法制度について説明できる			
10	障害者福祉(2)			サービスについて理解し、虐待等に対応出来る			
11	高齢者福祉(1)			状況や法制度について説明できる			
12	高齢者福祉(2)			介護保険制度の背景、概要について説明できる			
13	高齢者福祉(3)			ケアマネジメント、チームアプローチが説明できる			
14	低所得者福祉(1)			貧困の背景、生活保護について説明が出来る			
15	低所得者福祉(2)			低所得対策、関連事業について説明できる			
16	地域福祉(1)			理念と組織、担い手について説明できる			
17	地域福祉(2)			推進方法－計画、CSW－について説明できる			
18	医療福祉			連携、医療ソーシャルワークについて説明できる			
19	精神保健福祉(1)			精神障害者を取り巻く現状について説明できる			
20	精神保健福祉(2)			サービス、関連の取り組みについて説明できる			
21	社会福祉施設の役割(1)			現状、推移について説明できる			
22	社会福祉施設の役割(2)			枠組みと課題について説明できる			
23	社会福祉を担う人々(1)			現状、職種について説明できる			
24	社会福祉を担う人々(2)			資格制度、非専門職について説明できる			
25	ソーシャルワークの視点から(1)			目的、対象、視点について説明できる			
26	ソーシャルワークの視点から(2)			基本的態度、展開過程について説明できる			
27	多職種連携について			ソーシャルワークからの連携について説明できる			
28	社会福祉を巡る課題(1)			少子高齢化、貧困、自殺について説明できる			
29	社会福祉を巡る課題(2) 利他的行為論(1)			在宅介護、災害等について説明できる			
30	利他的行為論(2) 講義のまとめ			利他的行為論を踏まえ、援助観の確立を図る			

授業科目名	リハビリテーション概論		担当者名	尾形 由美子			
			実務経験	看護師として病院での勤務経験あり			
教科書	配布資料等	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	1年	後期	必修	講義
		30					
授業概要	1 リハビリテーション医学・医療が対象としている障害者は、医学の発展にともなって、複数の併存疾患をもつ高齢者や難病を抱える人々が多くなり、社会的に自立生活を営むことが困難になっている現状を理解する。 2 リハビリテーションの役割について理解し、リハビリテーションに関わるものとしての自覚がもてる。						
学習到達目標	リハビリテーションの対象と障害者の実態を知る。						
評価方法	授業への出席と課題提出及び筆記試験による総合成績						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			リハビリテーションのイメージを教科の目標へ繋げる。			
2	リハビリテーションの目的			リハビリテーションの定義と目的を理解する。			
3	リハビリテーション医学の主な対象疾患とは			障害者・児の実態を理解する。			
4	リハビリテーションの対象者とフィジカルアセスメントの重要性について学ぶ			ワークを通して対象者の概要を理解する。			
5	リハビリテーションの対象者とフィジカルアセスメントの重要性について学ぶ			ワークを通して重要性を理解する。			
6	高齢者の喪失体験を学ぶ			ワークを通して高齢者の喪失体験をする。			
7	高齢者の喪失体験を学ぶ			ワークを通して高齢者の抱えている心理を理解する。			
8	医療現場で求められるコミュニケーションとは			医療現場におけるコミュニケーションの役割を理解する。			
9	医療現場で求められるコミュニケーションとは			相手に伝わる言葉についてワークを通して考える。			
10	嚥下障害とは			嚥下機能の分類を知る。			
11	(障害の心理について考察する。)			嚥下機能障害の関わりを理解する。			
12	視覚障害の体験をしてみよう			視覚障害の種類を知る。			
13	(障害の心理について考察する。)			視覚障害者との関わりを理解する。			
14	麻痺とは			末梢性と中枢性の麻痺について、その違いを学ぶ			
15	(障害の心理について考察する。)			麻痺の障害者の関わりを理解する。			
16	高齢者における骨・関節の機能について			関節機能とその障害を学ぶ			
17	(障害の心理について考察する。)			高齢者への関わりを理解する。			
18	寝たきりの人の体験をしてみよう			寝たきり状態を理解する			
19	寝たきりの原因とは			寝たきりの弊害について理解する。			
20	(障害の心理について考察する。)			寝たきりの人への関わりを理解する。			
21	内部障害とは			内部障害の種類について学ぶ。			

22	(循環器障害)	ペースメーカー置換者の実態を知る。
23	(呼吸器障害)	酸素吸入・吸引における実態を知る。
24	(腎機能障害)	人工透析・持続留置カテーテル使用者の留意点について学ぶ。
25	(小腸・大腸機能障害)	経管栄養の実施(モデル)
26		人工膀胱・人工肛門造設者の実態を知る。
27	高次脳機能障害について	概要について理解する。
28	リハビリテーション関連職種との連携と協働	多職種の専門性に触れる。
29	障害の構造	ICFの分類について触れる・。
30	まとめ	振り返り

授業科目名	作業療法概論		担当者名	相澤 祐一			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	作業療法学概論テキスト (南江堂)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	1年	前期	必修	講義
		30					
授業概要	リハビリテーションの中での作業療法の意義・役割を説明することが出来る。作業療法の歴史について理解する。 作業療法の対象領域についてその目的を説明できる。 作業療法の流れを説明できる。 職業倫理要領を説明できる 障害体験をする						
学習到達目標	作業療法の意義、役割が理解できる。 関連の法律や制度について理解できる。						
評価方法	定期試験による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			障害と生活について理解できる			
2	人間、作業、生活について						
3	リハの定義と理念			リハ、作業療法の定義、理念について理解できる			
4	ICFについて			ICFについて理解できる			
5	作業とは			作業について理解できる			
6	作業療法とは:対象、作業、手段			作業療法の対象、作業、手段について理解できる			
7	作業療法とは:目的、領域			作業療法の目的について理解できる			
8	作業療法の歴史:海外			海外の作業療法の歴史について理解できる			
9	作業療法の歴史:国内			日本の作業療法の歴史について理解できる			
10	作業療法の対象と領域:身体障害			身体障害の作業療法の概要を理解できる			
11	作業療法の対象と領域:精神障害			精神障害の作業療法の概要を理解できる			
12	作業療法の対象と領域:発達系障害			発達系障害の作業療法の概要を理解できる			
13	作業療法の対象と領域:老年期障害			老年期障害の作業療法の概要を理解できる			
14	作業療法士の勤務場所・業務形態			作業療法士の勤務場所、形態について理解できる			
15	作業療法の実践:作業療法の流れ			作業療法の臨床実践概要を説明できる			
16	作業療法の実践:評価			作業療法の臨床評価の流れを説明できる			
17	作業療法の実践:治療			作業療法の臨床評価の流れを説明できる			
18	作業療法の実践:治療			作業療法の理論と技術について知り、理解できる			
19	作業療法の理論と技術						
20	作業療法の理論と技術						

21	作業療法の研究・エビデンス	作業療法の職業領域について理解する。
22	作業療法の教育	
23	身体障害の作業療法	身体障害の作業療法について理解できる
24	身体障害の作業療法	
25	精神障害の作業療法	精神障害の作業療法について理解できる
26	精神障害の作業療法	
27	発達系障害の作業療法	発達系障害の作業療法について理解できる
28	発達系障害の作業療法	
29	老年期障害の作業療法	老年期障害の作業療法について理解できる
30	老年期障害の作業療法	

授業科目名	基礎作業学		担当者名	小幡 紘輝			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	作業学ゴールドマスターテキスト メジカルビュー社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	1年	前期	必修	講義
		30					
授業概要	1. 作業療法としての「作業」の考えを理解し、また身体面・精神面の両面からアプローチするための基礎を学ぶ。作業療法における「作業」の意味を理解する。 2. 人のライフサイクルにおける「作業」の重要性を理解する。 3. 「作業」を治療に用いるための基礎的知識・技術を身につける。						
学習到達目標	作業療法における作業について理解し、定義、分析、技術、進行などを現実的に治療に活用できるように修得する。						
評価方法	定期試験、出席状況、授業態度、提出物						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			オリエンテーション、授業の方針を理解する			
2	対象者と作業療法			作業療法の概要について説明できる			
3							
4							
5	作業学総論：作業療法における作業			作業の定義を説明できる			
6	作業学総論：作業学とは			作業学の定義を説明できる			
7							
8							
9	作業学総論：作業を用いた療法に関連する基本的事項			作業と治療の関係を説明できる			
10	作業の治療への適応 ・効果 ・身体機能向上			作業療法の治療と効果について説明できる			
11							
12							
13	作業の治療への適応：作業分析、分析結果と治療目標			作業分析について説明できる			
14							
15	・治療実施と目標 ・指導法：対象者への指導			作業療法の治療と指導について説明できる			
16							
17	諸理論と作業 1：作業の活用 2人間作業モデル 3：精神分析と作業 4：認知行動療法と作業 5：感覚統合と作業 6カナダモデルと作業 7MTDLPと作業			各理論と作業について説明できる			
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24	実際の作業療法：身体障害			各分野の作業療法を説明できる			
25	実際の作業療法：身体障害						
26	実際の作業療法：精神障害						
27	実際の作業療法：発達障害						
28	実際の作業療法：老年期障害						
29	実際の作業療法：地域、その他の分野の作業療法						
30	まとめ：			これまでの復習とまとめを行う。			

授業科目名	作業療法技法Ⅰ		担当者名	相澤 祐一、阿部 伸洋、金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	プリント・資料を配布する。	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	1年	前期	必修	演習
		30					
授業概要	作業の備えている特性、人・対象者と作業の関係性を経験を通して理解し、説明できるようになる。 必要物品や道具の使い方や作業工程を理解する。 技法を用いて治療への応用を理解する。 作業の素材・工程・用具と、実施のための安全な管理を理解できる。						
学習到達目標	作品作りを通し、それぞれの工程における治療要素を知り、治療プログラムに行かせることができるよう身に着ける。						
評価方法	授業態度、出席状況、課題、レポートを総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	革細工 オリエンテーション			科目全体のオリエンテーション 革、革細工について学ぶ。			
2	革細工 技法の説明			技法を理解する。			
3	革細工 基本的作業/しおり作り			基本的加工法を学び、革の特性と基本的な工程、作業技術を知る。			
4	革細工 基本的作業/しおり作り						
5	革細工 本作品決定			作品決定を行える。			
6	革細工 デザイン作成			デザインを行える。			
7	革細工 寸法取り、裁断			材料寸法取り、裁断を行える。			
8	革細工 加工			その作品に応じた加工を行うことができる。			
9	革細工 加工						
10	革細工 加工						
11	革細工 着色、仕上げ			着色、表面保護、艶出し、仕上げの方法を身に着ける。			
12	革細工 着色、仕上げ						
13	タイルモザイク オリエンテーション			タイルモザイクのオリエンテーション			
14	タイルモザイク 絵柄の下書きを行う。			下書きの計画を行える。			
15	タイルモザイク 絵柄の下書きを行う。						
16	タイルモザイク タイルを貼る板の加工を行う。			木材の加工を行える。			
17	タイルモザイク タイルを割り、下書きに合わせてボンドで貼りつける。			タイルを下書きの構成に合わせて配列できる。			
18	タイルモザイク タイルを割り、下書きに合わせてボンドで貼りつける。						
19	タイルモザイク タイルを割り、下書きに合わせてボンドで貼りつける。						
20	タイルモザイク タイルを割り、下書きに合わせてボンドで貼りつける。						

21	タイルモザイク タイルの隙間をセメントで埋める。	セメントを流し込みタイルを固定できる。
22	タイルモザイク タイルの隙間をセメントで埋める。	
23	タイルモザイク 乾いたセメントをふき取る。	仕上がり予測してセメントの処理を行える。
24	タイルモザイク 仕上げ	仕上げとして外観を整えられる。
25	あんでるせん手芸 オリエンテーション	あんでるせん手芸のオリエンテーション
26	あんでるせん手芸 基本的作業の学習	基本的作業、道具、材料について修得する。
27	あんでるせん手芸 製作作品決定	作品の決定をすることができる。
28	あんでるせん手芸 デザイン作成	デザインを決定し具体的な構成を考えられるようにする。
29	あんでるせん手芸 基本的加工	筒づくりを学ぶ。 構成を考えることができるようにする。
30	あんでるせん手芸 基本的加工	

授業科目名	作業療法技法Ⅱ		担当者名	小幡 紘輝・小笠原 祥太・金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	プリント・資料を配布する。	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	1年	後期	必修	演習
		30					
授業概要	必要物品や道具の使い方や作業工程を理解する。 技法を用いて治療への応用を理解する。						
学習到達目標	作業療法で用いる作業活動の治療的意味を理解する。						
評価方法	授業態度、出席状況、課題、レポートを総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	あんでるせん手芸 基礎組み			筒づくりを学ぶ。 構成を考えることができるようにする。			
2	あんでるせん手芸 基礎組み						
3	あんでるせん手芸 組み立て						
4	あんでるせん手芸 組み立て						
5	あんでるせん手芸 塗料を塗る。			仕上がりイメージして適度に塗料を塗ることができる。 治療効果を考えることができる。			
6	あんでるせん手芸 塗料を塗って乾かす。						
7	木工：展開図・立体図を作成する。			作品の完成図をイメージできる。			
8							
9	木工：木材の寸法を測る。			作業活動の工程を説明できる。			
10	木工：鋸の使い方について基礎を学ぶ。			道具を列挙し、その使用方法を説明できる。			
11	木工：木材を切る。						
12							
13							
14							
15	木工：電動鋸（サンダー）や電動ドリルの使い方について基礎を学ぶ。組み立てる。						
16							
17	木工：塗料を塗る。						
18	木工：完成			作業分析を行い治療的意味を理解する。			
19	陶芸の材料、道具、作成の流れを学ぶ。			陶芸の工程や、使用する道具について、説明することができる。			
20	陶芸の材料、道具、作成の流れを学ぶ。						

21	たまづくりで作品を作る。	たまづくりでの成形を体験し、作品を残す。
22	たまづくりで作品を作る。	
23	たたらづくりで作品を作る。	たたらづくりでの成形を体験し、作品を残す。
24	たたらづくりで作品を作る。	
25	たたらづくりで作品を作る。	
26	窯入れ、素焼きを学ぶ	窯入れを体験し、自分の作品を焼成する。
27	釉掛け、本焼きを学ぶ	釉掛け、本焼きを体験し、自分の作品を完成させる。
28	釉掛け、本焼きを学ぶ	
29	作品を使う。作品を愉しむ。作業分析をする。	自分で作った作品を実際に使い、作品を楽しむことができる。陶芸の工程を復習する。作業分析ができる。
30	作品を使う。作品を愉しむ。作業分析をする。	

授業科目名	地域作業療法学Ⅰ		担当者名	金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	地域作業療法学(ゴールドマスターテキスト)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	1年	後期	必修	演習
	30						
授業概要	地域作業療法の概念、制度、法規、専門職の連携について学ぶ。介護保険の内容を学ぶ。地域における施設やサービスにおける役割、その中での作業療法士の役割について学ぶ。						
学習到達目標	地域におけるリハビリテーションの概要、制度について理解する。作業療法士の地域における役割について理解する。						
評価方法	定期試験、出席日数などで総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション、自己紹介			地域作業療法についての説明			
2	作業療法士の仕事とは…DVD演習①			DVDを観て実際にどんな仕事をしているかイメージを掴む。			
3	作業療法士の仕事とは…DVD演習②			DVDを観て実際にどんな仕事をしているかイメージを掴む。			
4	地域作業療法の概念、生活の中の作業について			自分と他者との生活の違いについて理解する。			
5	生活の中の作業について			自分と他者との生活の違いについて理解する。			
6	作業バランス、ICFについて			生活の中の作業、ICFのイメージをつかむ。			
7	地域作業療法の歴史、作業療法士が関わる時期について			障害の経過と時期について学ぶ。			
8	チームアプローチについて			各職種の役割について学ぶ。			
9	車椅子について			車椅子の部位の名称、操作方法について学ぶ。			
10	車椅子について			車椅子の部位の名称、操作方法について学ぶ。			
11	車椅子について/社会保障制度			車椅子の部位の名称、操作方法について学ぶ。			
12	社会保障制度			社会保障制度の概念や内容を理解する。			
13	医療と診療報酬			作業療法士が関係する医療制度について学ぶ。			
14	医療と診療報酬			作業療法士が関係する医療制度について学ぶ。			
15	復習			前期分の復習をする			
16	オリエンテーション			前期分の復習、後期の授業内容の確認			
17	介護保険			介護保険について理解する。			
18	介護保険			介護保険について理解する。			
19	介護保険			介護保険について理解する。			
20	介護保険			介護保険について理解する。			

21	障害者施策について	障害者の施策とは何か理解する。
22	特別支援教育について	特別支援教育について理解する。
23	障害者雇用	障害者雇用の実情について理解する。
24	精神障害分野の地域作業療法	精神障害分野についての理解を深める。
25	訪問リハビリ、通所リハビリ、介護老人保健施設について	関わる施設について調べることによって理解を深める。
26	訪問リハビリ、通所リハビリ、介護老人保健施設について	関わる施設について調べることによって理解を深める。
27	訪問リハビリ、通所リハビリ、介護老人保健施設について	関わる施設について調べることによって理解を深める。
28	訪問リハビリ、通所リハビリ、介護老人保健施設について	関わる施設について調べることによって理解を深める。
29	訪問リハビリ、通所リハビリ、介護老人保健施設について	関わる施設について調べることによって理解を深める。
30	訪問リハビリ、通所リハビリ、介護老人保健施設について	関わる施設について調べることによって理解を深める。

授業科目名	生活環境学		担当者名	金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	プリント配布	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	1年	後期	必修	講義
		15					
授業概要	日本における生活環境の特徴について理解し、環境整備の進め方を学ぶ。 住宅内の各場所の特徴を捉え、そこにおける環境整備を学ぶ。 作業療法士が関わる住宅改修や福祉用具についても理解する。						
学習到達目標	高齢者や障害者が住宅で生活するための住環境整備を中心に、現在の住宅事情から住宅改修の方法、および福祉施策などを理解する。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	生活環境学の考え方			生活環境学の範囲について理解する。高齢者の生活支援の考え方を理解する。			
2	日本における生活環境の特徴と課題			高齢者を取り巻く生活状況を理解する。日本式住宅の特徴と問題点について理解する。			
3	生活環境整備に関する法的制度			介護保険の概要を理解する。障害者福祉施策の概要を理解する。			
4	生活環境整備の進め方			動作能力の違いに合わせた生活環境への対応方法を学習する。チームアプローチの重要性を理解する。			
5	生活環境整備の基本①(段差、スペース、床材)			段差の解消、スペース、床材の整備方法について理解する。			
6	生活環境整備の基本②(手すり、建具)			手すりの取り付け方の考え方を理解する。建具の考え方を理解する。			
7	玄関、アプローチの環境整備			玄関、玄関周囲の整備を行う際の着眼点を理解する。玄関周囲の構造、スペースについて理解する。			
8	廊下、階段の環境整備			廊下、階段の環境を把握する。標準寸法について理解する。福祉用具活用について方法を理解する。			
9	トイレの環境整備			トイレの環境整備の意義と目的について理解する。身体機能レベルに応じたトイレの環境整備を理解する。			
10	浴室、脱衣室の環境整備			浴室、脱衣室の基本的な住環境整備と留意点について理解する。入浴動作時の福祉用具について理解する。			
11	台所、食堂の環境整備			台所、食堂における活動、行動について理解する。生活機能に合わせた改修方針について理解する。			
12	居間、寝室の環境整備			居間と寝室の環境整備のポイントを理解する。居間や寝室で使用する設備機器や福祉用具について理解する。			
13	疾患別環境整備①(中枢神経障害)			中枢神経障害における住環境整備の特徴と具体的方法を理解し、各対象者や他職種への助言および指導が実施できる。			
14	疾患別環境整備②(運動器障害)			脊髄損傷、関節リウマチ、変形性関節症患者の生活環境の基本的な考え方を理解する。			
15	基本的な建築図面の読み方、書き方			生活環境整備に携わる施行業者の専門用語を理解する。 建築図面から理解することができる。			

授業科目名	日常生活活動学		担当者名	小幡 紘輝			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書 院)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数 30	作業療法科	1年	後期	必修	講義
授業概要	作業療法で関わる日常生活動作について理解する。 日常生活動作についての評価法について理解する。 自助具や環境制御装置に触れ、体験する。						
学習到達 目標	基本的・手段的日常生活動作を理解する。評価・訓練や環境調整の基礎を理解する。						
評価方法	授業態度、出席状況、課題、定期試験を総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	日常生活活動の基礎について			基本的日常生活動作について理解する。			
2	日常生活活動の基礎について			手段的日常生活動作について理解する。			
3	食事動作について			食事動作に必要な関節運動を理解する。			
4	食事動作について			食事動作に必要な活動筋を理解する。			
5	食事動作について			食事動作に必要な環境調整を理解する。			
6	整容動作について			整容動作に必要な関節運動を理解する。			
7	整容動作について			整容動作に必要な活動筋を理解する。			
8	整容動作について			整容動作に必要な環境調整を理解する。			
9	更衣動作について			更衣動作に必要な関節運動を理解する。			
10	更衣動作について			更衣動作に必要な活動筋を理解する。			
11	更衣動作について			更衣動作に必要な環境調整を理解する。			
12	排泄動作について			排泄動作に必要な関節運動を理解する。			
13	排泄動作について			排泄動作に必要な活動筋を理解する。			
14	排泄動作について			排泄動作に必要な環境調整を理解する。			
15	入浴動作について			入浴動作に必要な関節運動を理解する。			
16	入浴動作について			入浴動作に必要な活動筋を理解する。			
17	入浴動作について			入浴動作に必要な環境調整を理解する。			
18	基本動作・床上動作について			寝返り・起き上がり動作を理解する。			
19	基本動作・床上動作について			床上動作を理解する。			
20	車椅子について			車椅子の名称を理解する。			

21	車椅子について	車椅子の操作を理解する。
22	杖歩行・階段昇降について	杖の種類、用途を理解する。
23	杖歩行・階段昇降について	歩行・階段昇降の手順を理解する。
24	自助具について	自助具の種類、用途を理解する。
25	自助具について	
26	環境制御装置(ECS)について	環境制御装置の役割を理解する。
27	BIについて	Barthel Indexを理解する。
28	BIについて	
29	FIMについて	Functional Independence Measureを理解する。
30	FIMについて	

授業科目名	人間関係論		担当者名	阿部 伸洋			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	配布資料(プリント)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	2年	通年	必修	講義
		30					
授業概要	社会や組織を体系的、理論的に捉える方法を学ぶ 医療現場における、患者、治療者、地域の相互作用について学ぶ。						
学習到達目標	医療現場における人間関係の諸側面をさまざまな視点から論じ、理解を深める。						
評価方法	レポート課題、授業への参加・態度、定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ライフステージにおける人間関係の諸相			ライフステージにおける人間関係の諸相について概要を説明できる			
2	幼児期の自己形成			幼児期の自己形成について概要を説明できる			
3	少年期の自己形成			少年期の自己形成について概要を説明できる			
4	学校における人間関係			学校における人間関係について概要を説明できる			
5	職場における人間関係			職場における人間関係について概要を説明できる			
6	退職と老年期における人間関係			退職と老年期における人間関係について概要を説明できる			
7	出会いの人間関係			出会いの人間関係について概要を説明できる			
8	人間関係の成立と発展			人間関係の成立と発展について概要を説明できる			
9	人間関係の維持と崩壊			人間関係の維持と崩壊について概要を説明できる			
10	人間関係と親密さ			人間関係と親密さについて概要を説明できる			
11	自己概念			自己概念について概要を説明できる			
12	対人認知			対人認知について概要を説明できる			
13	友好的関係と敵対的關係			友好的関係と敵対的關係について概要を説明できる			
14	人間関係のダイナミクス			人間関係のダイナミクスについて概要を説明できる			
15	対人コミュニケーション			対人コミュニケーションについて概要を説明できる			
16	個人間コミュニケーション			個人間コミュニケーションについて概要を説明できる			
17	送り手の側面			送り手の側面について概要を説明できる			
18	受け手の側面			受け手の側面について概要を説明できる			
19	組織における人間関係			組織における人間関係について概要を説明できる			

20	科学的管理法	科学的管理法について概要を説明できる
21	ホーソン実験	ホーソン実験について概要を説明できる
22	行動科学	行動科学について概要を説明できる
23	マズローの要求5段階説	マズローの要求5段階説について概要を説明できる
24	マクレガーのXY理論	マクレガーのXY理論について概要を説明できる
25	ハーズバーグの2要因説	ハーズバーグの2要因説について概要を説明できる
26	アージリスの未成熟—成熟理論	アージリスの未成熟—成熟理論について概要を説明できる
27	リーダーシップについて	リーダーシップについてについて概要を説明できる
28	医療現場における人間関係	医療現場における人間関係をテーマにし、論じることができる
29	医療現場における人間関係	医療現場における人間関係をテーマにし、論じることができる
30	医療現場における人間関係	医療現場における人間関係をテーマにし、論じることができる

授業科目名	体表解剖学		担当者名	阿部 伸洋			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	運動療法のための 機能解剖学的触診技術 上肢 運動療法のための 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 メジカルビュー社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	前期	必修	演習
		30					
授業概要	骨・筋について、それぞれの骨・筋の名称、形態、位置関係、支配神経などを理解し実際の触診手技を取得する。 1. 上肢の骨・筋の触診が出来る 2. 体幹の骨・筋の触診が出来る 3. 下肢の骨・筋の触診が出来る						
学習到達目標	触診可能な骨や筋に正しく触れることができ、筋の起始、停止、神経支配、作用を理解できる。						
評価方法	定期試験、口頭試問、実技試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション 触診の意義、基本			触診の目的と学習方法を理解できる 解剖学的肢位・方向・用語・基本的触診技術を理解できる			
2							
3	上肢の骨① (肩甲骨・鎖骨)			肩甲骨・鎖骨の主要ランドマークを触診できる 肩甲骨・鎖骨の触診技術を習得する			
4							
5	上肢の骨② (上腕骨)			上腕骨の主要ランドマークを触診できる 上腕骨の触診技術を習得する			
6							
7	上肢の骨③ (橈骨・尺骨・手根骨)			前腕・手部の骨指標を触診できる 前腕・手部の触診技術を習得する			
8							
9	肩関節周囲筋① (三角筋・大胸筋・広背筋・烏口腕筋・僧帽筋)			肩甲上腕関節に関わる筋の触診ができる			
10							
11	肩関節周囲筋② (棘上筋・棘下筋・小円筋・大円筋・肩甲下筋)			回旋筋腱板を構成する筋を触診できる 各筋の作用と触診方法を説明できる			
12							
13	肩甲胸郭関節の周囲筋 (菱形筋・肩甲挙筋・小胸筋・前鋸筋)			肩甲骨の運動に関わる筋を触診できる 筋群の作用と触診方法を説明できる			
14							
15	上肢の筋 (肘・前腕・手部)			肘関節・手関節に関わる筋を触診できる 筋群の作用と触診方法を説明できる			
16							
17	下肢の骨 (骨盤・大腿骨・膝・足部)			下肢の主要な骨指標を触診できる 下肢骨の位置関係を説明できる			
18							

19	股関節周囲筋 (腸腰筋・縫工筋・大腿筋膜張筋・中殿筋、大殿筋・梨状筋・内転筋群)	股関節運動に関わる筋を触診できる 股関節周囲筋の機能を説明できる
20		
21	膝関節周囲筋 (大腿四頭筋、ハムストリングス・薄筋・膝窩筋)	膝関節運動に関わる筋を触診できる 膝関節周囲筋の機能を説明できる
22		
23	足関節周囲筋 (前脛骨筋・長趾伸筋・長母趾伸筋、腓腹筋・ヒラメ筋・後脛骨筋・腓骨筋群)	足関節運動に関わる筋を触診できる
24		
25	上肢の靱帯	上肢主要靱帯の位置と機能を説明できる 上肢関節の安定性との関連を理解できる
26		
27	下肢の靱帯	下肢主要靱帯の位置と機能を説明できる 下肢関節の安定性との関連を理解できる
28		
29	総復習、授業のまとめ	定期試験に向け知識と技術を確認できる
30		

授業科目名	運動学実習		担当者名	阿部 伸洋			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	PT・OT学生のための運動学実習	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	前期	必修	実習
		45					
授業概要	実習を通して、人の運動・動作の特徴とそれに伴う諸現象を理解し、観察・測定・分析の手段を習得する。さらに観察・測定・分析結果をレポートとしてまとめることを学習する。						
学習到達目標	実習から人の運動や動作に伴う現象を理解して、その現象を分析する能力を身に付ける。						
評価方法	授業態度、出席、レポート、課題、定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	レポートの作成方法について			実習レポートの作成方法を理解できる			
2	レポートの作成方法について						
3	レポートの作成方法について						
4	筋骨格と関節運動Ⅰ、生体観察および計測			各関節の運動について理解できる			
5	筋骨格と関節運動Ⅰ、生体観察および計測						
6	筋骨格と関節運動Ⅰ、生体観察および計測						
7	筋骨格と関節運動Ⅱ、上肢帯・上肢、肩甲骨腕リズム			上肢帯、上肢の運動について理解できる 肩甲骨腕リズムについて理解できる			
8	筋骨格と関節運動Ⅱ、上肢帯・上肢、肩甲骨腕リズム						
9	筋骨格と関節運動Ⅱ、上肢帯・上肢、肩甲骨腕リズム						
10	筋骨格と関節運動Ⅲ、下肢帯および下肢、生体観察			下肢帯、下肢の運動について理解できる			
11	筋骨格と関節運動Ⅲ、下肢帯および下肢、生体観察						
12	筋骨格と関節運動Ⅲ、下肢帯および下肢、生体観察						
13	筋骨格と関節運動Ⅳ、手			手、手指の運動について理解できる テノデシスアクションについて分析できる			
14	筋骨格と関節運動Ⅳ、手						
15	筋骨格と関節運動Ⅳ、手						
16	生体力学、重心、静止姿勢			姿勢保持について理解できる 重心などの力学的要素の関連を理解できる			
17	生体力学、重心、静止姿勢						
18	生体力学、重心、静止姿勢						

19	立ち直り・バランス反応	立ち直り反射やバランス反応の理解ができる
20	立ち直り・バランス反応	
21	立ち直り・バランス反応	
22	姿勢の変換	姿勢の修正機構について理解できる
23	姿勢の変換	
24	姿勢の変換	
25	動作、手の動作	手、手指の運動について理解できる レポートにまとめ分析・報告が行える
26	動作、手の動作	
27	動作、手の動作	
28	動作、上肢の動作	上肢の運動について理解ができる レポートにまとめ分析・報告が行える
29	動作、上肢の動作	
30	動作、上肢の動作	
31	動作のスキル・テンポ	動作のスキル・テンポについて理解ができる
32	動作のスキル・テンポ	
33	動作のスキル・テンポ	
34	上肢・下肢・体幹の骨格筋の作用	各動作に用いられる筋の作用を学ぶ。
35	上肢・下肢・体幹の骨格筋の作用	
36	上肢・下肢・体幹の骨格筋の作用	
37	上肢の骨格筋の作用	運動の口頭試問(筋の走行、作用を答えられる)
38	上肢の骨格筋の作用	
39	上肢の骨格筋の作用	
40	下肢・体幹の骨格筋の作用	運動の口頭試問(筋の走行、作用を答えられる)
41	下肢・体幹の骨格筋の作用	
42	下肢・体幹の骨格筋の作用	
43	まとめ	定期試験・レポート作成へ向けたまとめ
44	まとめ	
45	まとめ	

授業科目名	臨床運動学		担当者名	阿部 伸洋			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	動作分析 臨床活用講座— バイオメカニクスに基づく臨 床推論の実践 (メジカルビュー社)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	後期	必修	演習
		30					
授業概要	ヒトの正常な動作分析ができるようになる。各動作が遂行できるメカニズムについて理解することができる。 正常と異常の違いが分かる。						
学習到達 目標	ヒトの正常動作のメカニズムについて理解し、動作障害の原因の推測ができるようになる						
評価方法	定期試験による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	臨床における動作分析の意味			動作分析を行う意義と目的について説明できる			
2	臨床における動作分析の意味						
3	動作のメカニズムの理解に必要な基礎知識1			COG、BOSについて理解できる 反射、反応について理解できる			
4	動作のメカニズムの理解に必要な基礎知識1						
5	動作のメカニズムの理解に必要な基礎知識2						
6	動作のメカニズムの理解に必要な基礎知識2						
7	寝返りの動作分析			正常な寝返り動作を模倣でき、その動作を遂行するのに必要なメカニズムについて説明できる			
8	寝返りの動作分析						
9	寝返りの動作分析						
10	寝返りの動作分析						
11	起き上がりの動作分析			正常な起き上がり動作を模倣でき、その動作を遂行するのに必要なメカニズムについて説明できる			
12	起き上がりの動作分析						
13	座位の動作分析			座位の姿勢観察とその構成要因について説明できる			
14	座位の動作分析						
15	立ち上がりの動作分析			正常な立ち上がり動作を模倣でき、その動作を遂行するのに必要なメカニズムについて説明できる			
16	立ち上がりの動作分析						
17	立ち上がりの動作分析						
18	立位の動作分析			立位保持のメカニズムについて説明できる			
19	立位の動作分析						

20	動作分析のまとめ	障害をもった場合の、動作障害のメカニズムについて推論を立て、自分の考えを述べることができる
21	動作分析のまとめ	
22	動作分析のまとめ	
23	脳卒中片麻痺者の運動障害	脳卒中片麻痺者の運動障害のメカニズムについて理解することができる
24	脳卒中片麻痺者の運動障害	
25	脳卒中片麻痺者の運動障害	
26	脳卒中片麻痺者における介助	正常な動作を誘導しながら、問題点について考えてみる
27	脳卒中片麻痺者における介助	
28	まとめ	総まとめとデモンストレーション
29	まとめ	
30	まとめ	

授業科目名	リハビリテーション医学		担当者名	佐直信彦／及川 隆司／(尾形 由美子)			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり、(その他)			
教科書	リハビリテーション医学テキスト(南江堂)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	2年	前期	必修	講義
		30					
授業概要	リハビリテーション医療の主要な対象疾患とその疾患に伴う障害について学習する。一般医学における診断、治療の概要を理解した上で、リハビリテーション医学の観点からの障害の評価、アプローチを学ぶ。						
学習到達目標	リハビリテーション専門職として必要な疾病の概要を習得する						
評価方法	授業への出席と筆記試験により判定する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	リハビリテーション医学とは			リハビリテーション医学の誕生と進展について学び、その特異性を考究できるようになる。			
2	疾病治療とリハビリテーション医療 ～測定・評価と帰結			リハビリテーション医療の特異性について学び、臨床で実践できるようになる。			
3	リハビリテーション医学における特殊問題(1)廃用症候群			廃用症候群の病態とそのアプローチについて学び、説明できるようになる。			
4	リハビリテーション医学における特殊問題(2)痙縮			痙縮の病態とそのアプローチについて学び、説明できるようになる。			
5	リハビリテーション医学における特殊問題(3)嚥下障害			嚥下障害の病態とそのアプローチについて学び、説明できるようになる。			
6	リハビリテーション医学における特殊問題(4)褥瘡、排尿障害			褥瘡・排尿障害の病態とそのアプローチについて学び、説明できるようになる。			
7	脳血管疾患とリハビリテーション(1)			脳血管疾患の病態と障害を理解し、説明できるようになる。			
8	脳血管疾患とリハビリテーション(2)			脳血管疾患の病態と障害を理解し、説明できるようになる。			
9	脳血管疾患とリハビリテーション(3)			脳血管疾患に伴う障害とアプローチを学び、臨床で実践できるようになる。			
10	頭部外傷とリハビリテーション			頭部外傷の病態と障害を、脳血管疾患と対比して理解し、その相違を説明できるようになる。			
11	脊髄損傷とリハビリテーション(1)			脊髄損傷の病態と障害を理解し、説明できるようになる。			
12	脊髄損傷とリハビリテーション(2)			脊髄損傷に伴う障害とアプローチを学び、臨床に実践できるようになる。			
13	脊髄損傷とリハビリテーション(3)			脊髄損傷に伴う障害とアプローチを学び、臨床に実践できるようになる。			
14	神経筋疾患とリハビリテーション(1) パーキンソン病・他			主要な神経筋疾患の病態と障害を理解し、説明できるようになる。			
15	神経筋疾患とリハビリテーション(2) GB症候群・他			主要な神経筋疾患の病態と障害を理解し、説明できるようになる。			
16	神経筋疾患とリハビリテーション(3) 末梢神経疾患			主要な神経筋疾患の病態と障害を理解し、説明できるようになる。			
17	切断者のリハビリテーション 事例			義肢・装具の適用について、事例を通して学び、臨床で応用できるようになる。			
18	運動負荷と生体反応及び運動処方			運動負荷と生体反応を理解し、運動処方を学び、臨床で適用できるようになる。			
19	内部障害とそのリハビリテーション(1)			循環器疾患とそのリハビリテーションを学ぶ			

20	内部障害とそのリハビリテーション(2)	〃
21	内部障害とそのリハビリテーション(3)	呼吸器疾患とそのリハビリテーションを学ぶ
22	内部障害とそのリハビリテーション(4)	〃
23	小児疾患とそのリハビリテーション(1)	発達障害のリハビリテーションについて理解する
24	小児疾患とそのリハビリテーション(2)	〃
25	小児疾患とそのリハビリテーション(3)	脳性麻痺を主とした小児疾患のリハを学ぶ
26	小児疾患とそのリハビリテーション(4)	〃
27	小児疾患とそのリハビリテーション(5)	筋ジストロフィーを主とした小児疾患のリハを学ぶ
28	小児疾患とそのリハビリテーション(6)	
29	小児疾患とそのリハビリテーション(7)	二分脊椎を主とした小児疾患のリハを学ぶ
30	小児疾患とそのリハビリテーション(8)	

授業科目名	内科学／老年学		担当者名	佐直 信彦、武田 和久			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学（医学書院）。老年学は教科書指定なし。プリント小冊子を配布。以下の参考書は図書室で閲覧を。 ①標準理学療法学・作業療法学「老年学」医学書院 ②最新リハビリテーション基礎講座「老年学」医歯薬出版株式会社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	2年	前期	必修	講義
		30					
授業概要	リハビリテーション医療に密接な関わりのある高齢者についての学問である老年学について学習する。 内科学的診察手法と基本的な症候、および主要な疾患の診断・治療を解説する。						
学習到達目標	現在の日本の高齢者の実態、高齢者特有の症候、高齢者の身体・認知機能の評価方法等を習得しリハビリテーションスタッフとして必要な知識を身につける。 内科における主要な疾患の知識を習得し、安全なリハビリテーション医療の遂行が行えるようにする。						
評価方法	授業への出席と筆記試験の総合成績						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	老化とは			老化の定義が説明でき、老化の測定について知り得ようになる。			
2	老化の理解			細胞老化、老化の機序と制御について知り得ようになる。			
3	加齢による解剖学的・機能的変化(1) 全身及び組織、臓器・器官諸レベル			全般的・組織レベル、神経・運動系の加齢による変化について説明できるようになる。			
4	加齢による解剖学的・機能的変化(2)臓器・器官レベル			感覚器、骨・関節の加齢による変化について説明できるようになる。			
5	加齢による解剖学的・機能的変化(3)臓器・器官レベル			循環・呼吸器・消化器・泌尿器、免疫、体温等の加齢による変化について説明できるようになる。			
6	加齢による解剖学的・機能的変化(4)臓器・器官レベル			生体リズム、記憶・知能等、心理社会面の加齢による変化について説明できるようになる。			
7	老年症候群(1) 概念、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム(ロコモ)			老年症候群について理解し、フレイル、サルコペニア、ロコモについて説明できるようになる。			
8	老年症候群(2) 健忘症候群と認知症			健忘症候群と認知症について説明できるようになる。			
9	高齢者とリハビリテーション			高齢者のリハビリテーションの特異性について説明できるようになる。			
10	高齢者の医療、福祉、介護について			高齢者を巡る現状と課題、医療・福祉・介護の支援体制について知り得ようになる。			
11	内科診察の概要			医学・医療における内科の位置づけと			
12	内科的診断手法			内科における各種診断技法を学ぶ			
13	内科症候学(1)			内科で多くみられる症候を理解する			
14	内科症候学(2)			内科で多くみられる症候を理解する			
15	循環器疾患(1)			循環器の解剖生理と病態を理解する			
16	循環器疾患(2)			心不全と不整脈について理解する			
17	循環器疾患(3)			各種心疾患の症候・診断を学ぶ			
18	呼吸器疾患(1)			呼吸器の解剖生理と病態を理解する			

19	呼吸器疾患(2)	呼吸不全とその診断学を学ぶ
20	呼吸器疾患(3)	各種呼吸器疾患の症候・診断を学ぶ
21	消化器疾患(1)	消化器の解剖生理と病態を理解する
22	消化器疾患(2)	各種消化器疾患の症候・診断を学ぶ
23	肝・胆・膵疾患(1)	肝・胆・膵の解剖生理と病態を理解する
24	肝・胆・膵疾患(1)	各種肝・胆・膵疾患の症候・診断を学ぶ
25	代謝疾患(1)	代謝機能とその病態を理解する
26	代謝疾患(2)	各種代謝疾患の症候と診断を学ぶ
27	血液疾患	造血機能と血液の病態、診断を学ぶ
28	免疫アレルギー性疾患	免疫機能の病態と膠原病を主とした診断を学ぶ
29	内分泌疾患	内分泌機能とその病態・診断を学ぶ
30	腎疾患	腎の解剖生理と病態、診断を学ぶ

授業科目名	整形外科学		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	病気がみえるvol.11 運動器・整形外科(メディックメディア)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	作業療法科	2	通年	必修	講義
授業概要	整形外科領域の主たる対象疾患とそれによって生じる障害の内容を学習する。診断手法、治療技術の概要を理解した上で、整形外科的な観点からの評価とアプローチについて習熟する。						
学習到達目標	整形外科領域の主たる対象疾患について、診断手法、治療技術、評価とアプローチについて理解する						
評価方法	筆記試験を行い学習状況を確認する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	総論 正常構造と機能			正常構造と機能			
2	骨・関節			骨の整理と生化学			
3	基本用語と主要症候			基本肢位			
4	関節可動域、関節の症候			ROM,拘縮、関節の症候			
5	身体診察法			四肢長の測定			
6	四肢長の測定、異常歩行、跛行			歩行、筋力テスト			
7	検査			炎症性疾患			
8	血液、尿生化学検査			生体検査、関節液検査			
9	画像診断			単純X線、MRI			
10	治療法総論			シンチグラフィ、造影			
11	骨移植			骨移植の目的、骨誘導、骨伝導			
12	リハビリテーション治療			物理療法、運動療法、装具			
13	外傷相、スポーツによる外傷			骨折、脱臼、捻挫			
14	外傷総論			RSD 挫滅症候群			
15	肩関節部の外傷			腱板断裂、腱断裂、肩関節脱臼			
16	上腕骨骨幹部骨折			上腕骨骨幹部骨折			
17	肘関節部の外傷			上腕骨顆上骨折、外側顆骨折			
18	前腕骨骨折			橈骨・尺骨骨幹部骨折			
19	手の外傷			腱損傷、骨折			
20	股関節部の外傷			大腿骨近位部骨折			
21	大腿骨骨幹部骨折			外傷性股関節脱臼			
22	膝関節部の外傷			半月板損傷、靱帯損傷、膝蓋骨脱臼			
23	下腿部の外傷			下腿骨骨折、区画症候群、アキレス腱断裂			
24	足関節部の外傷			捻挫、果部骨折			
25	脊髄損傷			頸椎損傷、胸腰椎損傷			
26	脊髄損傷			脊髄損傷の症状と診断・治療・予後			
27	骨盤外傷			骨盤骨折			
28	末梢神経損傷			末梢神経損傷、腕神経叢損傷			
29	疾患各論			肩関節部の疾患			
30	肩関節部の疾患			肩関節周囲炎、インピンジメントなど			
31	肘関節部の疾患			肘内障、変形性肘関節症			
32	手関節部の疾患			腱鞘炎、拘縮、変形、ガングリオンなど			
33	股関節部の疾患			変形性股関節症、大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死等			

34	膝関節部の疾患	内反膝、外反膝、反張膝、その他など
35	足と足関節部の疾患	アキレス腱滑液包炎など
36	斜頸	分類、先天性筋性斜頸
37	側彎症	脊柱側彎症など
38	椎体疾患・椎間板症	頸椎椎間板ヘルニア、後縦靱帯骨化症、椎間板ヘルニアなど
39	脊髄腫瘍、脊椎腫瘍	脊髄・脊椎腫瘍
40	胸郭の疾患	胸郭出口症候群
41	骨の系統疾患、代謝性疾患	骨粗鬆症、骨形成不全、痛風など
42	骨端症	骨端症 各種
43	骨・関節の感染症	化膿性骨髓炎、化膿性関節炎
44	非感染性関節疾患	関節リウマチ、悪性関節リウマチなど
45	骨腫瘍・軟部腫瘍	骨腫瘍、軟部腫瘍等

授業科目名	神経内科学		担当者名	柳澤 輝行			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	病気がみえる〈vol.7〉脳・神経(メディックメディア)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	作業療法科	2	通年	必修	講義
		45					
授業概要	リハビリテーションに携わる専門職種として必要な神経内科学について講義する。						
学習到達目標	視覚情報に優れた教科書を用いて、神経科学・脳神経内科と外科の基本・重要項目の理解と修得をもとに、リハビリテーションの理論と実践につなげる。						
評価方法	定期試験による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	神経系の構造と機能			中枢神経系、末梢神経系、脳と頭蓋			
2	ニューロンとグリア細胞			構造と機能、活動電位、チャネル、神経伝達物質、受容体、情報伝達系			
3	膜電位とシナプス伝達						
4	大脳皮質			前頭・後頭・側頭・頭頂葉の構造と機能			
5	大脳辺縁系・大脳基底核			大脳辺縁系・大脳基底核の構造と機能			
6	間脳・脳幹・小脳			間脳・脳幹・小脳の構造と機能			
7	主要な神経学的症候			系統別神経学的症候、意識障害、植物状態と脳死			
8	意識障害・不随意運動			眼の異常、不随意運動の鑑別、歩行の異常			
9	診察と検査			神経診察の診療録、検査の種類			
10	脳動脈			脳動脈の走行と模式図、ウィリス動脈輪			
11	脳血管障害			脳卒中主要3疾患、危険因子、介護原因			
12	脳梗塞-1			脳梗塞の病型分類と特徴			
13	脳梗塞-2			脳梗塞の治療			
14	脳内出血			高血圧、出血部位と治療方針			
15	脳動脈瘤・くも膜下出血			脳動脈瘤の好発部位、破裂後の出血			
16	脳血管障害のリハビリテーション-1			発症からの経過、脳の可塑性、チーム医療			
17	脳血管障害のリハビリテーション-2			廃用症候群の予防、障害と訓練			
18	その他のリハビリテーション			種々の神経系疾患のリハビリテーション			
19	高次脳機能障害全体像			失語症、失行症、失認症、認知症			
20	失語			言語中枢、失語図式			
21	認知症			定義、疫学、症状、アルツハイマー型、血管性			
22	脳静脈・髄液循環とその障害			脳静脈の走行、髄液循環、脳室、水頭症			
23	頭蓋内圧亢進			頭蓋内圧亢進の病態、症状、脳浮腫、治療			
24	脳ヘルニア			脳ヘルニアの病態、分類、呼吸停止			
25	運動と感覚			運動と感覚、随意運動、錐体路、反射			
26	運動とその障害			運動の異常、運動の調節			
27	感覚とその障害			感覚の種類、感覚障害、末梢神経障害			
28	自律神経とその障害			自律神経構成・経路、伝達物質、受容体、障害治療薬			
29	脳神経とその障害-1			脳神経の全体像、機能			

30	脳神経とその障害-2	三叉神経痛、顔面神経麻痺
31	脊髄とその障害	脊柱と脊髄の構造、脊髄疾患
32	末梢神経とその障害	ニューロパチーの病型
33	脱髄性疾患	脱髄性疾患の分類、多発性硬化症
34	神経変性疾患-1	運動ニューロン、大脳基底核、小脳、脊髄の変性疾患
35	神経変性疾患-2	ALS、パーキンソン病、SCD
36	筋疾患-1	ミオパシーの定義と分類、筋ジストロフィー
37	筋疾患-2	後天性筋疾患、神経筋接合部疾患
38	代謝性神経障害	代謝性神経障害の分類と代表例
39	感染性疾患	髄膜炎、脳炎、脳症、プリオン病
40	頭痛	一次性。二次性頭痛、片頭痛、治療薬
41	てんかん	てんかん分類、診断、治療、抗てんかん薬
42	母斑症・先天奇形	神経皮膚症候群と先天奇形の総論、症状、診断
43	腫瘍	原発性脳腫瘍の組織型分類、下垂体腺腫、転移性脳腫瘍
44	外傷	総論、頭蓋骨骨折、頭蓋内血種
45	まとめ	

授業科目名	精神医学		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	「標準理学療法学・作業療法学」専門基礎分野 精神医学 第2版 医学書院	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	2年	後期	必修	講義
		30					
授業概要	精神医学的な症状と診察手法、および主要な疾患の症状・治療を概説する。また精神科領域における社会保障制度を講義する。						
学習到達目標	精神医学の基礎的概念を理解し、臨床各論の知識を身につける						
評価方法	授業への出席と筆記試験の総合成績						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	総論・精神医学概観			精神医学の歴史を学び、現代の精神医学的な考え方を理解する。			
2	疾患分類、精神症状の概要(1)			精神疾患の分類を学ぶ。主要な精神症状を理解する。			
3	精神症状の概要(2)			主要な精神症状を理解する			
4	精神症状の概要(3)			主要な精神症状を理解する			
5	精神障害の診断(1)			精神科的診察手法と診断について学ぶ			
6	精神障害の診断(2)			精神科医療で用いられる各種検査について			
7	脳器質性精神障害(1)、認知症の概要			認知症を生じる脳器質性疾患を学ぶ			
8	脳器質性精神障害(2)			認知症以外の脳器質性疾患による精神障害を学ぶ			
9	症状性精神障害			内科疾患等に付随する精神障害を学ぶ			
10	精神作用物質による障害			薬物を含む精神作用物質が精神機能に及ぼす影響を理解する			
11	てんかんの分類と症状			各種てんかんの内容、症状を理解し、てんかん脳波の見方を学ぶ			
12	てんかんの治療とケア			てんかんの薬物治療を学ぶ			
13	統合失調症の概要と症状(1)			統合失調症の概念を学ぶ			
14	統合失調症の概要と症状(2)			統合失調症の症状を理解する			
15	統合失調症の経過と予後、治療(1)			統合失調症の分類と予後を学ぶ			
16	統合失調症の経過と予後、治療(2)			統合失調症の薬物治療を学ぶ			
17	気分障害(1)			気分障害の概念を学ぶ			
18	気分障害(2)			うつ病の病態と症状を理解する			
19	気分障害(3)			双極性障害を理解し、気分障害の薬物治療			

20	神経症性障害(1)	神経症の考え方と疾患分類を学ぶ
21	神経症性障害(2)	神経症としての各種病態、症状を理解する
22	生理的・心理的要因による障害	神経因性食思不振と睡眠障害について学ぶ
23	人格障害と発達障害	人格の考え方とその障害、および発達障害の概要を理解する
24	精神遅滞	精神遅滞を生じる疾患を学び、精神遅滞の
25	ライフサイクルと精神障害(1)	出生から死に至るライフサイクルの中で生じる種々の精神科的問題を考察する
26	ライフサイクルと精神障害(2)	各ライフステージにおける主要な精神障害を
27	精神障害の治療とリハビリテーション(1)	精神科医療で用いられる薬物とその治療効果を学ぶ
28	精神障害の治療とリハビリテーション(2)	薬物以外の精神科的治疗手法を学ぶ
29	精神保健医療と福祉(1)	精神保健福祉法を中心とした、精神科領域の法的基盤を理解する
30	精神保健医療と福祉(2)	精神科医療と各種福祉制度との関連を理解する

授業科目名	小児科学		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野小児科学 (医学書院)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2	後期	必修	講義
		15					
授業概要	小児科学についての各論を解説する。小児の発達、小児と成人との相違点を理解することを目指す。また、小児特有の疾患について解説し、作業療法との関連についても理解を深める。						
学習到達目標	小児特有の疾患について理解する						
評価方法	出席・定期試験により評価を行う						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	小児科学概論			小児の成長発育の理解			
2	診断と治療の概要			小児領域の診断と治療			
3	新生児・未熟児疾患			新生児の評価・特有の疾患			
4	先天異常と遺伝病			遺伝子の障害・先天奇形・代謝異常			
5	神経・筋・骨系疾患			中枢神経・末梢神経に異常をきたす疾患			
6	循環器系疾患			先天性心疾患と後天性心疾患の症状と検査			
7	呼吸器疾患			発生と機能、治療と処置			
8	感染症			各年代での代表的感染症			
9	消化器疾患			機能的発達と乳児期の特徴、消化器疾患			
10	内分泌・代謝疾患			内分泌、糖代謝異常			
11	免疫・アレルギー疾患・膠原病			免疫とアレルギー、自己免疫疾患、膠原病			
12	腎・泌尿器系、生殖器疾患			腎・泌尿器系疾患			
13	腫瘍性疾患			悪性腫瘍・各論			
14	心身症・神経症など			習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待			
15	重症心身障害児、眼科・耳鼻科疾患			重症心身障害児特有の問題、眼科・耳鼻科			

授業科目名	薬理学		担当者名	柳澤 輝行			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	柳澤輝行、小橋史著： 休み時間のワークブック薬理学 講談社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数 30	作業療法科	2	後期	必修	講義
授業概要	薬理学的にからだと身近な病気を理解する。薬理学では生体の階層性と情報伝達系が大切です。身近な病気に対し薬がなぜ効くのかを理解し、なぜ副作用が生じるのかを学びます。						
学習到達目標	医療において科学的な薬物療法は必須です。医学をもとにする薬理学は薬物と生体の相互作用をあつかう学問です。薬理学によりからだ、身近な病気、薬の理解を深めましょう。						
評価方法	期末試験と出席率そして能動的学習態度により総合的に評価します。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	薬理学総論1【Chapter1】			作用機序：分子から細胞レベルまで、受容体			
2	薬理学総論2【Chapter1】			治療機序：細胞から生体レベルまで、情報伝達系			
3	薬理学総論3【Chapter1】			薬物動態、薬物療法			
4	末梢神経系に作用する薬1【Chapter2】			自律神経系薬総論、交感神経系薬			
5	末梢神経系に作用する薬2【Chapter2】			副交感神経系薬、アセチルコリン受容体			
6	末梢神経系に作用する薬3【Chapter2】			筋弛緩薬、局所麻酔薬			
7	中枢神経系に作用する薬1【Chapter3】			中枢神経系薬総論、全身麻酔薬、抗不安薬			
8	中枢神経系に作用する薬2【Chapter3】			抗てんかん薬、鎮痛薬			
9	中枢神経系に作用する薬3【Chapter3】			抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬（気分安定薬）			
10	中枢神経系に作用する薬4【Chapter3】			パーキンソン病・認知症治療薬、薬物乱用			
11	循環器系に作用する薬1【Chapter4】			循環器系概要、動脈硬化、血管拡張薬			
12	循環器系に作用する薬2【Chapter4】			脳血管疾患治療薬、高血圧と降圧薬			
13	循環器系に作用する薬3【Chapter4】			虚血性心疾患治療薬、			
14	循環器系に作用する薬4【Chapter4】			心不全治療薬			
15	循環器系に作用する薬5【Chapter4】			抗不整脈薬			
16	体液・血液系に作用する薬1【Chapter4】			利尿薬、体液と輸液			
17	体液・血液系に作用する薬2【Chapter4】			貧血治療薬、造血因子			
18	体液・血液系に作用する薬3【Chapter4】			止血薬、抗血栓薬			
19	呼吸器系に作用する薬1【Chapter5】			気管支喘息治療薬			
20	呼吸器系に作用する薬2【Chapter5】			抗ヒスタミン薬、胃・十二指腸潰瘍治療薬			
21	消化器系に作用する薬【Chapter5】			催吐薬、制吐薬、腸に作用する薬			
22	代謝・内分泌系疾患治療薬1【Chapter6】			糖尿病治療薬			
23	代謝・内分泌系疾患治療薬2【Chapter6】			脂質異常症治療薬、肥満治療薬、痛風治療薬			
24	代謝・内分泌系疾患治療薬3【Chapter6】			骨粗鬆症治療薬、視床下部・下垂体ホルモン			
25	代謝・内分泌系疾患治療薬4【Chapter6】			甲状腺疾患治療薬、ステロイドホルモン			
26	免疫系に作用する薬【Chapter7】			免疫抑制・賦活薬、			
27	感覚・皮膚系に作用する薬【Chapter7】			緑内障・メニエール病治療薬、皮膚科治療薬			
28	泌尿・生殖器系に作用する薬【Chapter7】			前立腺肥大症、過活動膀胱、流産と分娩			
29	抗菌薬、抗ウイルス薬【Chapter7】			抗菌薬、抗ウイルス薬			
30	抗悪性腫瘍薬【Chapter7】			発がん機序、抗悪性腫瘍薬			

授業科目名	言語聴覚概論		担当者名	萱場 文			
			実務経験	言語聴覚士として病院での勤務経験あり			
教科書	教科書は指定しない	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2	後期	必修	講義
		15					
授業概要	言語聴覚士の養成過程や、その職務内容について学び、理学療法士との専門性の差異を知る。また、言語聴覚士が診療の対象としている幅広い疾患、障害について、その概要を学び、理解する。						
学習到達目標	言語聴覚士の専門性や職務内容について知り、作業療法士として業務に従事する際、チームアプローチの視点を持つことができる。また、言語聴覚障害について正しい知識を持ち、言語聴覚障害者に対して適切な対応ができるようになる。						
評価方法	出席、受講態度、試験結果を総合的に評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	言語聴覚士とは			言語聴覚療法の概要、言語聴覚士の職務を学ぶ。			
2	コミュニケーションについて			言語・非言語的コミュニケーションについて学ぶ。			
3	失語症			失語症の機序、症状について学ぶ。			
4	運動性失語と感覚性失語			運動性失語と感覚性失語の対応について学ぶ。			
5	運動性構音障害			運動性構音障害機序、症状について学ぶ。			
6	運動性障害の種類			運動性構音障害の種類、その対応について学ぶ。			
7	認知症			認知症の原因疾患、症状について学ぶ。			
8	認知症対応の実際			認知症患者への対応について学ぶ。			
9	摂食嚥下障害			摂食嚥下障害の定義、その仕組みを知る。			
10	摂食嚥下障害の実際			摂食嚥下障害の対応について学ぶ。			
11	高次脳機能障害			高次脳機能障害の定義、原因疾患、症状について学ぶ。			
12	注意障害 記憶障害 遂行機能障害			注意障害、記憶障害、注意障害について検査法から学ぶ。			
13	多職種連携			多職種連携についての概略、医療関連職種について学ぶ。			
14	多職種連携について(グループワーク)			多職種連携についてのグループワークを通して学ぶ。			
15	まとめ			これまで学習したことの復習。			

授業科目名	作業分析学		担当者名	小幡 紘輝			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	プリント・資料配布	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	後期	必修	演習
		30					
授業概要	動作分析の基礎や視点を理解する。 正常パターンと異常パターンについて学習する。						
学習到達目標	解剖学、運動学の知識を応用して、健常者および障害者の動作を評価する視点を養う。						
評価方法	授業態度、出席状況、課題、レポートを総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	動作分析の基礎について			動作分析の視点、方法を理解する。			
2	動作分析の基礎について						
3	正常動作のパターンについて			健常者の運動パターンを理解する。			
4	正常動作のパターンについて						
5	異常動作のパターンについて			片麻痺患者の運動パターンを理解する。			
6	異常動作のパターンについて						
7	寝返り動作の分析について			健常者の運動パターンを理解する。			
8	寝返り動作の分析について			片麻痺患者の運動パターンを理解する。			
9	起き上がり動作の分析について			健常者の運動パターンを理解する。			
10	起き上がり動作の分析について			片麻痺患者の運動パターンを理解する。			
11	立ち上がり動作の分析について			健常者の運動パターンを理解する。			
12	立ち上がり動作の分析について			片麻痺患者の運動パターンを理解する。			
13	食事動作の分析について			健常者の食事動作を分析する。			
14	食事動作の分析について						
15	食事動作の分析について						
16	整容動作の分析について			健常者の整容動作を分析する。			
17	整容動作の分析について						
18	整容動作の分析について						

19	更衣動作の分析について	健常者の更衣動作を分析する。
20	更衣動作の分析について	
21	更衣動作の分析について	
22	排泄動作の分析について	健常者の排泄動作を分析する。
23	排泄動作の分析について	
24	排泄動作の分析について	
25	入浴動作の分析について	健常者の入浴動作を分析する。
26	入浴動作の分析について	
27	入浴動作の分析について	
28	オペレーション・チャートについて	オペレーションチャートの使用方法を理解する。
29	オペレーション・チャートについて	
30	まとめ	

授業科目名	身体障害作業療法評価学Ⅰ		担当者名	金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	新・徒手筋力検査法 配布資料	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	作業療法科	2年	前期	必修	講義
		45					
授業概要	関節可動域測定方法ならびに徒手筋力検査法についての目的、考え方、方法について実習を通じてその技術を習得する。						
学習到達目標	関節可動域測定、徒手筋力検査法の技術を習得する。						
評価方法	定期試験、実技試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	作業療法評価の各論に入る前に						
2	関節可動域測定（ROM-T）			関節可動域検査の定義を理解する			
3	関節可動域測定（ROM-T）			関節可動域検査の注意点を理解する			
4	ROM-T上肢			ROM-T上肢の技術の習得			
5	ROM-T上肢			ROM-T上肢の技術の習得			
6	ROM-T上肢			ROM-T上肢の技術の習得			
7	ROM-T手指			ROM-T手指の技術の習得			
8	ROM-T手指			ROM-T手指の技術の習得			
9	ROM-T下肢			ROM-T下肢の技術の習得			
10	ROM-T下肢			ROM-T下肢の技術の習得			
11	ROM-T下肢			ROM-T下肢の技術の習得			
12	ROM-T下肢			ROM-T下肢の技術の習得			
13	ROM-T頸部・胸腰部			ROM-T頸部・胸腰部の技術の習得			
14	ROM-T頸部・胸腰部			ROM-T頸部・胸腰部の技術の習得			
15	ROM-T疾患・検査の実際と展開			ROM-T疾患・検査の実際と展開について理解する			
16	筋力検査・測定			筋力検査・測定について理解する			
17	筋力検査・測定			筋力検査・測定について理解する			
18	徒手筋力検査法（MMT）			徒手筋力検査法の定義について理解する			

19	MMT頸部	MMT頸部の技術の習得
20	MMT頸部	MMT頸部の技術の習得
21	MMT体幹	MMT体幹の技術の習得
22	MMT体幹	MMT体幹の技術の習得
23	MMT肩甲帯	MMT肩甲帯の技術の習得
24	MMT肩甲帯	MMT肩甲帯の技術の習得
25	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
26	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
27	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
28	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
29	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
30	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
31	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
32	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
33	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
34	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
35	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
36	MMT上肢	MMT上肢の技術の習得
37	MMT下肢	MMT下肢の技術の習得
38	MMT下肢	MMT下肢の技術の習得
39	MMT下肢	MMT下肢の技術の習得
40	MMT下肢	MMT下肢の技術の習得
41	MMT下肢	MMT下肢の技術の習得
42	MMT下肢	MMT下肢の技術の習得
43	MMT下肢	MMT下肢の技術の習得
44	実技テスト1	実技テストを通して技術の習得の確認を行う
45	実技テスト2	実技テストを通して技術の習得の確認を行う

授業科目名	身体障害作業療法評価学Ⅰ 演習		担当者名	金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	新・徒手筋力検査法 配布資料	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	後期	必修	演習
		30					
授業概要	関節可動域測定方法ならびに徒手筋力検査法についての目的、考え方、方法について実習を通じてその技術を習得する。						
学習到達目標	関節可動域測定、徒手筋力検査法の技術を習得する。						
評価方法	定期試験、実技試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	作業療法評価の各論に入る前に			作業療法評価の過程について理解する			
2	関節可動域測定（ROM-T）			関節可動域の定義や制限因子について理解する			
3	ROM-T上肢			ROM-Tについて習得する			
4	ROM-T上肢			ROM-Tについて習得する			
5	ROM-T手指			ROM-Tについて習得する			
6	ROM-T手指			ROM-Tについて習得する			
7	ROM-T手指			ROM-Tについて習得する			
8	ROM-T下肢			ROM-Tについて習得する			
9	ROM-T下肢			ROM-Tについて習得する			
10	ROM-T頸部・胸腰部			ROM-Tについて習得する			
11	ROM-T頸部・胸腰部			ROM-Tについて習得する			
12	ROM-T疾患・検査の実際と展開			ROM-Tについて習得する			
13	筋力検査・測定			MMTについて習得する			
14	徒手筋力検査法（MMT）			MMTについて習得する			
15	MMT頸部			MMTについて習得する			
16	MMT頸部			MMTについて習得する			
17	MMT体幹			MMTについて習得する			
18	MMT体幹			MMTについて習得する			
19	MMT肩甲帯			MMTについて習得する			

20	MMT上肢	MMTについて習得する
21	MMT上肢	MMTについて習得する
22	MMT上肢	MMTについて習得する
23	MMT下肢	MMTについて習得する
24	MMT下肢	MMTについて習得する
25	MMT下肢	MMTについて習得する
26	MMT下肢	MMTについて習得する
27	MMT下肢	MMTについて習得する
28	MMT下肢	MMTについて習得する
29	実技テスト1	MMTについて習得する
30	実技テスト2	MMTについて習得する

授業科目名	身体障害作業療法評価学Ⅱ		担当者名	阿部 伸洋			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	2年	前期	必修	講義
		30					
授業概要	作業療法評価における意義や目的、実施方法について講義・実習を通じてその技術を習得する。						
学習到達目標	評価の概念を理解し、知覚や反射検査などの各身体機能評価法を学ぶ。						
評価方法	定期試験 出席 レポート 授業態度						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	作業療法評価の概念			作業療法評価の目的と役割を説明できる。			
2	ICFと全体像の把握			ICF視点で対象者の全体像を捉えることができる。			
3	作業療法の効果判定			効果判定の意義と再評価の必要性を説明できる。			
4	効果判定と治療方針			再評価結果を治療方針へ反映する考え方を理解できる。			
5	面接法			面接の目的と情報収集の方法を理解できる。			
6	観察法			観察による評価の視点と活用方法を説明できる。			
7	記録と報告①			記録の意義とSOAP形式による記載方法を理解できる。			
8	記録と報告②			報告の目的と情報共有の方法を説明できる。			
9	意識評価の基礎			意識障害の分類と評価方法を理解できる。			
10	JCS・GCS			意識レベル評価尺度を用いて状態を判断できる。			
11	バイタルサイン評価			バイタルサインの意義と測定値の解釈を理解できる。			
12	リスク管理			安全な評価・治療のためのリスク管理を説明できる。			
13	感覚機能の基礎			感覚の種類と神経伝導路を理解できる。			
14	感覚障害			感覚障害の特徴と臨床的意義を説明できる。			
15	表在感覚検査			表在感覚検査を実施できる。			
16	深部感覚検査			深部感覚検査を実施できる。			
17	複合感覚検査			複合感覚検査を実施できる。			
18	感覚検査の統合			感覚検査結果を解釈し臨床へ応用できる。			
19	反射の基礎			反射の種類と反射弓を説明できる。			
20	腱反射の理解			腱反射の臨床的意義を理解できる。			
21	腱反射検査			主な腱反射検査を実施できる。			
22	腱反射の解釈			反射所見から神経学的特徴を説明できる。			
23	表在反射			表在反射の評価方法を理解できる。			
24	病的反射			病的反射の評価と解釈を説明できる。			
25	協調性検査の基礎			協調運動と失調症状を理解できる。			
26	失調症の病態			失調症の特徴と病巣との関連を説明できる。			
27	協調性検査(上肢)			上肢の協調性検査を実施できる。			
28	協調性検査(下肢・体幹)			下肢・体幹の協調性検査を実施できる。			
29	授業まとめ			各評価法を統合し評価の流れを理解できる。			
30	授業まとめ			評価結果を解釈し作業療法につなげることができる。			

授業科目名	身体障害作業療法評価学Ⅱ 演習		担当者名	阿部 伸洋			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 配布資料	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	後期	必修	演習
		30					
授業概要	作業療法評価における意義や目的、実施方法について講義・実習を通じてその技術を習得する。						
学習到達目標	評価の概念を理解し、知覚や反射検査などの各身体機能評価法を学ぶ。						
評価方法	定期試験 出席 レポート 授業態度						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	上肢機能評価①			上肢機能検査(握力・ピンチ力・STEFなど)を実施できる。 検査結果を解釈し臨床的意義を説明できる。			
2	上肢機能評価②						
3	脳卒中機能評価①			BRS・MFT・SIASの目的と特徴を理解できる。 BRS・SIASを用いて機能障害を評価できる。			
4	脳卒中機能評価②						
5	脳神経の種類・機能			脳神経の種類、生活への影響について理解する			
6	脳神経障害による生活への影響について						
7	脳神経検査①			脳神経検査を実施・解釈ができる (Ⅰ-Ⅵ神経)			
8	脳神経検査②						
9	脳神経検査③			脳神経検査を実施・解釈ができる (Ⅶ-Ⅻ神経)			
10	脳神経検査④						
11	姿勢制御①			姿勢制御とバランス機能の基礎を説明できる。 バランスに関わる感覚・運動要素を理解できる。			
12	姿勢制御②						
13	バランス評価①			静的・動的バランス評価を実施できる。 姿勢反射を観察し評価できる。			
14	バランス評価②						
15	バランス評価③			FRT・TUG・FBSなどの評価を実施できる。			
16	バランス評価④						
17	総合演習①			観察評価とテストバッテリーを統合して評価できる。 評価結果から問題点を整理できる。			
18	総合演習②						

19	正常姿勢	正常姿勢の特徴を説明できる。
20	異常姿勢	重心・支持基底面と姿勢安定性を理解できる。
21	姿勢評価①	姿勢アライメントを観察・分析できる。
22	姿勢評価①	姿勢評価結果を解釈できる。
23	歩行周期と歩行要素	歩行周期と歩行要素を説明できる。
24	歩行中の関節運動	歩行中の関節運動と筋活動を理解できる。
25	歩行評価の実際①	正常歩行を観察・分析できる。
26	歩行評価の実際②	異常歩行の特徴を分析できる。
27	正常歩行と異常歩行	神経疾患・整形疾患の歩行障害を理解できる。
28	小児・高齢者の歩行特性	小児・高齢者の歩行特性を説明できる。
29	まとめ	各種評価法を統合し問題点を抽出できる。
30	まとめ	評価結果を活用する視点を説明できる。

授業科目名	発達障害作業療法評価学		担当者名	小笠原 祥太			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	PT・OTのための発達障害ガイド(金原出版)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	前期	必修	講義
		15					
授業概要	人の発達の特徴、技能の獲得について学ぶ。 脳性麻痺児に対する作業療法評価について学ぶ。						
学習到達目標	ひとの発達について理解する。 脳性麻痺児に対する作業療法評価について理解し、一部が実践できる。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	人間発達:粗大運動、巧緻運動、原始反射			発達と成長の違いを説明できる。原始反射の消失と、粗大運動及び巧緻運動の獲得の関係について理解施設名ができる。			
2	人間発達:粗大運動、巧緻運動、原始反射						
3	人間発達:認知、感覚、言語			認知、感覚、言語の発達について、その特徴を述べるができる。おもな評価法を列挙することができる。			
4	人間発達:認知、感覚、言語						
5	人間発達:ADL、遊び、社会適応			ADL、遊び、社会適応の発達について、その特徴を述べるができる。おもな評価法を列挙することができる。			
6	人間発達:ADL、遊び、社会適応						
7	痙直型脳性麻痺児の障害像			痙直型脳性麻痺に対する作業療法評価を列挙することができる。評価法について留意点を述べることができる。			
8	痙直型脳性麻痺児に対する作業療法評価						
9	痙直型脳性麻痺児に対する作業療法評価			痙直型脳性麻痺に対する作業療法評価を列挙することができる。評価法について留意点を述べることができる。			
10	痙直型脳性麻痺児に対する作業療法評価						
11	アテトーゼ型脳性麻痺児の障害像			アテトーゼ型脳性麻痺に対する作業療法評価を列挙することができる。評価法について留意点を述べることができる。			
12	アテトーゼ型脳性麻痺児に対する作業療法評価						
13	アテトーゼ型脳性麻痺児に対する作業療法評価			アテトーゼ型脳性麻痺に対する作業療法評価を列挙することができる。評価法について留意点を述べることができる。			
14	アテトーゼ型脳性麻痺児に対する作業療法評価						
15	まとめ			まとめ			

授業科目名	精神障害作業療法評価学		担当者名	相澤 祐一			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	生活を支援する精神障害作業療法 医歯薬出版 ゴールドマスター精神障害 メジカルビュー	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	2年	前期	必修	講義
		30					
授業概要	精神疾患作業療法の概念や考え方を学び、質問紙・観察など具体的な評価方法について理解する。						
学習到達目標	精神分野における作業療法の歴史、概要を知り現在の作業療法の考え方を説明できる。また、基本的な精神疾患における作業療法の評価法(観察、面接、検査)を説明できる。						
評価方法	定期試験、出席状況、授業態度、提出物						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション・精神障害について			オリエンテーション及び精神障害のイメージを身に着ける。			
2	統合失調症について			統合失調症についての基本的な病態増を説明できる。			
3	こころの発達 フロイト			Sフロイト、Aフロイトについての基本的な理論を説明できる。			
4	こころの発達 エリクソン/モゼイ			エリクソン/モゼイ/クラインについて、また人間発達理論を説明できる。			
5	こころの発達 クライン						
6	精神科OTの歴史①			世界の精神疾患及び作業療法の歴史について説明できる。			
7	精神科OTの歴史②						
8	精神科における作業療法①			これまでの及び現在の作業療法について説明できる。			
9	精神科における作業療法②						
10	評価について(評価の流れ)			作業療法の評価の流れを説明できる。			
11	評価について(実際の評価)			作業療法の評価における実際の進め方の説明ができる。			
12	評価について(実際の評価)						
13	評価について(循環型思考)			作業療法評価の考え方を説明できる。			
14	統合失調症の基礎			統合失調症の基本的な型、症状について説明できる。			
15	統合失調症の症状・行動特性			統合失調症の症状、行動の特性について理解し説明できる。			
16	統合失調症の症状・行動特性						
17	面接(目的、準備、方法)			精神分野における作業療法の面接について説明できる。			
18	面接(目的、準備、方法)						

19	観察、日常生活活動	精神分野における作業療法の観察について説明できる。
20	観察、日常生活活動	
21	日常生活活動、ICF概要	精神分野における作業療法のADL、ICFについて説明できる。
22	日常生活活動、ICF概要	
23	作業療法士と援助関係(自己の利用、役割、イメージ)	精神分野における作業療法の役割、イメージ、自己について説明できる。
24	作業療法士と援助関係(自己の利用、役割、イメージ)	
25	検査、調査	作業療法の精神分野の検査や測定、調査について説明できる。
26	検査、調査	
27	心理検査:COPM	作業療法の心理検査について説明できる。
28	知能検査:WAIS-Ⅲ	基本的な知能検査について説明できる。
29	情報統合(各項目毎の集約)	作業療法評価の集約について説明できる。
30	情報統合(情報整理)	評価における情報整理が説明できる。。

授業科目名	義肢装具学		担当者名	宮内 博之、小笠原 祥太			
			実務経験	義肢装具士として病院等での勤務経験あり 作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	義肢装具学 (メジカルビュー社)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	通年	必修	演習
		30					
授業概要	基本的な義肢装具の知識を実際の義肢装具に触れながら学習する。						
学習到達目標	作業療法士が必要とする義肢装具の基本的知識を得る。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション 義肢装具総論			義肢装具について幅広い情報を得る。			
2	義肢装具に関する保険制度①			発症から生活期に至る装具の種類を知る。			
3	義肢装具に関する保険制度②			装具の種類による保険制度について学ぶ。			
4	下肢装具について①			下肢装具について基本的な知識を得る。			
5	下肢装具について②			下肢装具について基本的な知識を得る。			
6	下肢装具について③			下肢装具について基本的な知識を得る。			
7	下肢装具の採型実習①			採型を通じて、装具の製作過程を学ぶ。			
8	下肢装具の採型実習②			採型を通じて、装具の製作過程を学ぶ。			
9	下肢装具の採型実習③			採型を通じて、装具の製作過程を学ぶ。			
10	切断と義肢①			切断に関する疾患など、義肢との関連。			
11	切断と義肢②			切断に関する疾患など、義肢との関連。			
12	義足について①			義足の種類と概要について学ぶ。			
13	義足について②			義足の種類と概要について学ぶ。			
14	義手について①			義手の種類と概要について学ぶ。			
15	義手について②			義手の種類と概要について学ぶ。			
16	手先具の種類と特徴について学ぶ			手先具の種類と特徴について説明できる			
17	継ぎ手の種類と特徴について学ぶ			継ぎ手の種類と特徴について説明できる			
18	義手の操作方法 能動前腕義手の操作			前腕義手の操作法について説明できる			

19	義手の操作方法 能動上腕義手の操作	上腕義手の操作法について説明できる
20	義手の操作方法	義手の操作法についてのまとめ
21	適合検査	義手の適合検査について理解し、説明できる
22	適合検査	
23	筋電義手	筋電義手の紹介
24	切断者における術後評価	切断の術前術後の評価について説明できる
25	断端形成 弾性包帯の巻き方	弾性包帯の巻き方の紹介
26	切断者のADL	切断者のADLの問題点について説明できる
27	末梢神経の解剖と機能	上肢の末梢神経の解剖と機能について説明できる
28	末梢神経損傷に対する作業療法評価と治療	末梢神経損傷に対する作業療法評価と治療について説明できる
29	スプリント作成	スプリント作成を通して、末梢神経障害に対する作業療法の理解を深める
30	スプリント作成	

授業科目名	運動器障害作業治療学Ⅰ		担当者名	河野 智哉			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	身体障害作業療法学（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト）メジカルビュー社 ハンドセラピー（リハ実践テクニック）メジカルビュー社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	後期	必修	講義
		15					
授業概要	整形外科的疾患の中の、骨折、頸髄症に関して、その病態、症状、評価、治療等について理解する。						
学習到達目標	骨折、頸髄症に関する作業療法について説明することができる。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	末梢神経損傷の種類			末梢神経損傷の種類について説明できる			
2	骨折総論			上腕部の骨折について説明できる			
3	骨折			前腕部の骨折について説明できる			
4	骨折			手部の骨折について説明できる			
5	橈骨遠位端骨折			橈骨遠位端骨折について説明できる			
6	手指の骨折			様々な手指の骨折にタイプについて説明できる			
7	骨折の評価			骨折の評価について説明できる			
8	骨折の治療			骨折の治療について説明できる			
9	骨折のADL			骨折のADLについて説明できる			
10	骨折のまとめ1			まとめ			
11	骨折のまとめ2			まとめ			
12	頸髄損傷総論			頸髄損傷の病態について説明できる			
13	頸髄症〔頸椎症性脊髄症〕			頸髄症の病態、症状について説明できる			
14	頸椎症性脊髄症の評価			頸髄症の評価について説明できる			
15	頸椎症性脊髄症の治療の原則			頸髄症の作業療法について説明できる			

授業科目名	中枢神経障害作業治療学Ⅰ		担当者名	小幡 紘輝			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	配布資料	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	作業療法科	2年	通年	必修	講義
		45					
授業概要	脳血管障害患者における“障害”の考え方、ならびに障害像の捉え方について理解する。また、中枢性運動麻痺の姿勢と運動を理解し、およびその評価を行うことができる。することができる。						
学習到達目標	脳血管障害の症状、評価、治療方法を理解する。						
評価方法	授業態度、出席状況、課題、定期試験を総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	各時期のリハビリテーションについて			急性期、回復期、維持期のリハビリテーションの役割を理解する。			
2	各時期のリハビリテーションについて						
3	脳出血、脳梗塞、クモ膜下出血について			責任病巣の違いによる症状を理解する。			
4	脳出血、脳梗塞、クモ膜下出血について						
5	JCS、運動中止基準について			意識水準、運動中止基準を理解する。			
6	JCS、運動中止基準について						
7	良肢位保持(ポジショニングについて)			片麻痺患者の良肢位・機能的肢位を理解する。			
8	良肢位保持(ポジショニングについて)						
9	姿勢について			姿勢の評価を理解する。			
10	姿勢について						
11	反射(深部腱反射、病的反射)について			反射のメカニズム、誘発方法を学習する。			
12	反射(深部腱反射、病的反射)について						
13	筋緊張について			MASを理解する。			
14	筋緊張について						
15	協調性について			上肢・下肢の協調性の検査を理解する。			
16	協調性について						
17	感覚について			感覚検査の手順、注意事項を理解する。			
18	感覚について						
19	運動麻痺について(上肢)			ブルンストロームによる麻痺の程度を理解する。			

20	運動麻痺について(手指)	ブルンストロームによる麻痺の程度を理解する。
21	運動麻痺について(下肢)	ブルンストロームによる麻痺の程度を理解する。
22	認知機能について(HDS-R)	HDS-Rの構成、手順を理解する。
23	認知機能について(HDS-R)	
24	認知機能について(MMSE)	MMSEの構成、手順を理解する。
25	認知機能について(MMSE)	
26	上肢機能検査(STEF)	STEFの構成、手順を理解する。
27	上肢機能検査(STEF)	
28	上肢機能検査(MFT)	MFTの構成、手順を理解する。
29	上肢機能検査(MFT)	
30	まとめ・復習	
31	トップダウンの視点について	トップダウンの視点を理解する。
32	トップダウンの視点について	
33	トップダウンの視点について	
34	ボトムアップの視点について	ボトムアップの視点を理解する。
35	ボトムアップの視点について	
36	ボトムアップの視点について	
37	作業療法の評価の視点について	症状・疾患に応じた評価項目が列挙できる。
38	作業療法の評価の視点について	
39	作業療法の評価の視点について	
40	中枢神経疾患の統合と解釈について	身体機能・構造や活動や参加のつながりを理解し問題点の抽出ができる。
41	中枢神経疾患の統合と解釈について	
42	中枢神経疾患の統合と解釈について	
43	中枢神経疾患の目標と治療について	短期・長期目標や治療プログラムの立案ができる。
44	中枢神経疾患の目標と治療について	
45	中枢神経疾患の目標と治療について	

授業科目名	内部障害作業治療学		担当者名	高橋 美郷			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	作業治療学Ⅰ 身体障害(協同医書出版社)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	2年	前期	必修	講義
		30					
授業概要	内部障害の概念や考え方を学び、運動負荷、リスク管理、禁忌事項等について理解する。また内部障害に対する包括的なリハビリテーションを理解する。						
学習到達目標	内部障害の原因となる疾患について理解し、説明ができる。各障害に対する作業療法評価を列挙し、評価の内容、リスク管理について説明ができる。						
評価方法	授業態度、出席状況、課題、定期試験を総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	内部障害と作業療法について			内部障害と作業療法の関係について理解し説明ができる。			
2	内部障害と作業療法について						
3	心臓機能障害について			心臓機能障害の原因となる疾患について説明できる。			
4	心臓機能障害について			心身機能障害に対する作業療法評価を列挙し、内容を説明できる。またリスク管理について説明ができる。			
5	心臓機能障害について						
6	心臓機能障害について						
7	呼吸器機能障害について			呼吸器機能障害の原因となる疾患について説明できる。			
8	呼吸器機能障害について			呼吸器機能障害に対する作業療法評価を列挙し、内容を説明できる。またリスク管理について説明ができる。			
9	呼吸器機能障害について						
10	呼吸器機能障害について						
11	腎臓機能障害について			腎臓機能障害の原因となる疾患について説明できる。			
12	腎臓機能障害について			腎臓機能障害に対する作業療法評価を列挙し、内容を説明できる。またリスク管理について説明ができる。			
13	腎臓機能障害について						
14	腎臓機能障害について						
15	膀胱・直腸機能障害について			膀胱直腸障害の原因となる疾患について説明できる。			
16	膀胱・直腸機能障害について			膀胱直腸障害に対する作業療法評価を列挙し、内容を説明できる。またリスク管理について説明ができる。			
17	膀胱・直腸機能障害について						
18	膀胱・直腸機能障害について						
19	消化器系障害について			消化器系障害の原因となる疾患について説明できる。			

20	消化器系障害について	消化器系障害に対する作業療法評価を列挙し、内容を説明できる。またリスク管理について説明ができる。
21	消化器系障害について	
22	消化器系障害について	
23	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害について	HIVについて説明できる。
24	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害について	免疫機能障害に対する作業療法評価を列挙し、内容を説明できる。またリスク管理について説明ができる。
25	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害について	
26	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害について	
27	肝臓機能障害について	肝臓機能障害の原因となる疾患について説明できる。
28	肝臓機能障害について	肝臓機能障害に対する作業療法評価を列挙し、内容を説明できる。またリスク管理について説明ができる。
29	肝臓機能障害について	
30	肝臓機能障害について	

授業科目名	神経難病障害作業治療学Ⅰ		担当者名	小笠原 祥太			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	資料配布	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	後期	必修	講義
		15					
授業概要	パーキンソン病の症例を通して難病について理解を深める。						
学習到達目標	パーキンソン病患者の予後について説明ができる。進行する症状に合わせて、機能訓練、代償、援助の考え方を理解し、説明ができる。						
評価方法	定期試験、レポート						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	難病とは。指定難病と難病法について。			難病、特定疾患、難病法について説明ができる。			
2	神経原性疾患と筋原性疾患			神経原性疾患を列挙できる。筋原性疾患を列挙できる。			
3	パーキンソン病の病態、症状			パーキンソン病の病態、症状について説明ができる			
4	パーキンソン病の病態、症状						
5	パーキンソン病患者に対する作業療法・評価			パーキンソン病患者に対する作業療法評価を列挙し、内容を説明できる。評価の一部について実技を体験する。			
6	パーキンソン病患者に対する作業療法・評価						
7	パーキンソン病患者に対する作業療法・評価						
8	パーキンソン病患者に対する作業療法・評価						
9	パーキンソン病患者に対する作業療法・治療			パーキンソン病患者に対する機能訓練、代償的アプローチを列挙し、説明ができる。治療の一部を実技として体験する。			
10	パーキンソン病患者に対する作業療法・治療						
11	パーキンソン病患者に対する作業療法・治療						
12	パーキンソン病患者に対する作業療法・治療						
13	パーキンソン病患者に対する作業療法・治療						
14	パーキンソン病と地域の取組について。事例紹介			事例に関して、主にリハビリテーション以外の支援の内容を理解し、説明ができる。			
15	パーキンソン病と地域の取組について。事例紹介						

授業科目名	精神障害作業治療学Ⅰ		担当者名	相澤 祐一			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	精神障害と作業療法 新版 三輪書店 事例で学ぶ生活行為向上 マネジメント(医歯薬出版)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2	科名				
		時間数	作業療法科	2年	後期	必修	講義
		30					
授業概要	作業療法における評価方法の一連の流れについて、臨床像に基づき包括的に理解する。 また、臨床での具体的な観察、面接の技術を身に着け精神障害の評価作業を身に着ける。						
学習到達 目標	実際に観察、面接の技術を身に着ける。						
評価方法	レポート、定期試験、出席状況、授業態度、提出物						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			オリエンテーション、講義の方向性を知る。			
2	日本のOTの歴史			日本の精神障害作業療法の歴史を説明できる。			
3	OTプログラムの治療構造(理論)			精神障害分野における作業療法の治療構造の理論を説明できる。			
4	OTプログラムの治療構造(理論)						
5	OTプログラム治療構造(技法:個別、集団)			精神障害分野における作業療法の治療構造の技法について説明できる。			
6	OTプログラム治療構造(技法:個別、集団)						
7	観察実技:記録(GW)			精神障害分野における行動観察及び記録作業を実践し活用できるようになる。			
8	観察実技:記録(GW)						
9	観察実技:グループ体験(GW)			精神障害分野における行動観察及び記録作業をグループ活動を通し実践し活用できるようになる。			
10	観察実技:グループ体験(GW)						
11	治療構造について①(OTの実際)			精神障害分野における作業療法の実際の取り組み、留意点を説明できる。			
12	治療構造について①(OTの実際)						
13	治療構造について②(チーム医療)			精神分野における病院のチーム医療について説明できる。			
14	治療構造について②(チーム医療)						
15	治療構造について③(社会復帰関連)			精神分野における作業療法とそれに関連する社会復帰に関する構造を説明できる。			
16	治療構造について③(社会復帰関連)						
17	治療構造について④(経済関係)			精神障害分野の経済関連の制度、社会資源などを説明できる。			
18	治療構造について④(経済関係)						

19	統合失調症:回復段階	統合失調症及び主要な精神疾患の回復段階を説明できる。
20	統合失調症:回復段階	
21	地域と生活支援	精神障害者の退院後の地域生活、生活支援などについて説明できる。
22	地域と生活支援	
23	面接実技(情報収集、記録集約)①	模擬患者に対し医療面接を行い、観察、面接についてまとめ記録を作成することができる。
24	面接実技(情報収集、記録集約)①	
25	面接実技(情報収集、記録集約)②	
26	面接実技(情報収集、記録集約)②	
27	各論:統合失調症	統合失調症について学び病態像を説明できる。
28	各論:統合失調症	
29	作業療法の実際:統合失調症	統合失調症患者に対する作業療法の具体的技法、留意点を説明できる。
30	作業療法の実際:統合失調症	

授業科目名	高次脳機能障害作業治療学Ⅰ		担当者名	小笠原 祥太			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	高次脳機能障害（メジカルビュー社）	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	後期	必修	講義
		15					
授業概要	失効・失認・失語の類型、障害像、ADLや参加の困難さについて学ぶ。 作業療法アプローチの実践、現象と関連性について学ぶ。						
学習到達目標	高次脳機能障害の分類ができる。様々な高次脳機能障害の障害像について説明ができる。高次脳機能障害に対する作業療法評価を列挙し、実践することができる。アプローチを列挙することができる。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	高次脳機能障害とは。高次脳機能について。脳解剖と働き			高次脳機能とそれに関わる脳解剖について説明できる。			
2	高次脳機能障害のリハビリテーションの概要			高次脳機能障害に対する機能訓練、代償、支援について説明できる			
3	失行症の分類と障害像			失行症の概要について説明できる			
4	失行症の分類			失行症を分類し説明できる。			
5	失認について。視覚失認の分類			失認について概要を説明できる。視覚失認の分類ができる。			
6	聴覚失認、その他失認の分類			聴覚失認、その他失認の分類ができる			
7	左角回における感覚情報の統合について			ゲルストマン症候群について説明できる			
8	失行症の障害像、日常生活の困難さ			失行症の障害像を学び、生活の困難な場面について理解する。			
9	失行症の障害像、日常生活の困難さ						
10	失行症の作業療法評価と介入			失行症患者に対する作業療法評価を列挙し、説明、実践することができる。			
11	失行症の作業療法評価と介入						
12	失行症の作業療法評価と介入						
13	失行症の作業療法評価と介入						
14	失語症の分類と障害像			失語症の分類、説明ができる。			
15	失語症の作業療法評価と介入			失語症患者に対する作業療法評価を列挙し、説明、実践することができる。言語聴覚士との連携について学ぶ			

授業科目名	地域作業療法学Ⅱ		担当者名	金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	日常生活活動(ADL)評価と支援の実際(医歯薬出版)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	2年	前期	必修	講義
		15					
授業概要	介護予防の重要性、介護予防における作業療法士の役割について学ぶ。高齢者、障害者の地域生活における課題を理解し、症例検討を通して問題解決の方法(技術、社会サービス、福祉用具、施設等)を知る。						
学習到達目標	地域作業療法の実践過程を学び、具体的な事例検討を通して理解を深める。						
評価方法	定期試験、出席状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	介護予防について			介護予防の必要性について理解する			
2	ヘルスプロモーションについて			ヘルスプロモーションの内容を理解する			
3	高齢者の身体的、心理的特徴について			高齢者の心理的特徴を理解する			
4	地域作業療法における評価について			評価の視点を理解する			
5	地域作業療法における実践過程について			実践過程を理解する			
6	呼吸器疾患と地域作業療法			地域での呼吸器疾患への作業療法について理解する			
7	がんと地域作業療法			がん患者への作業療法について理解する			
8	家族の理解と介護について			介護技術の指導方法を理解する			
9	リスク管理について			急変の対応について理解する			
10	住宅改修について			住宅改修の福祉用具の基準について理解する			
11	事例検討(訪問リハビリ)			訪問作業療法時の評価や介入について理解する			
12	事例検討(通所介護)			作業療法における目標設定の仕方を理解する			
13	事例検討(回復期リハビリテーション)			地域での活動を拡げていくために大切なことを理解する			
14	事例検討(住宅改修)			生活の工夫をするポイントを理解する			
15	集団療法について			集団でのリハビリテーションの実践を理解する			

授業科目名	臨床見学実習		担当者名	阿部 伸洋、相澤 祐一、 小笠原 祥太、小幡 紘輝、金田 翔子 (臨床実習指導者)			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	OT症例レポート赤ペン添削 ビフォー & アフター (羊土社)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	作業療法科	2年	後期	必修	実習
		135					
授業概要	作業療法士や関連職種の見学を通してその役割を理解し、対象者への対応や接遇、職業人・社会人としての態度を学ぶ。また、実際の作業療法の場面を見学することで、作業療法実践の場の理解を深め、作業療法の面白さ、楽しさ、重要性を見つけることも大きな目的である。						
学習到達目標	職業人としての適性を養う。職業人としての望ましい態度や行動をとることを学ぶ。作業療法の視点を養う。対象者への作業療法の役割を学ぶ。記録・報告をすることを学ぶ。座学と臨床実習についての関連性を学ぶ。						
評価方法	実習生教育報告書の総合評定表による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
135時間	医療機関、介護施設等において、作業療法士および関連職種の業務や対象者との関わりを見学する。 また、臨床見学実習を通して、作業療法部門の役割と機能、評価および治療、多職種連携の見学、専門職・社会人として必要な態度や接遇、記録・報告方法の学習、通所または訪問リハビリテーションにおける作業療法の場面を見学する。 見学や体験を通じて、講義・演習で学習した知識と臨床実践との関連について理解を深める学習を行う。 * 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション1単位含み、学生によっては当臨床実習以外の実習にて実施する場合がある。			・専門職としての適性を養い、望ましい態度や行動をとることができる。 ・作業療法士や関連職種の役割を説明できる。 ・対象者、多職種との関わり方を理解できる。 ・作業療法評価、治療の実践について説明できる。 ・多職種連携の重要性について理解できる。 ・実習記録および報告を適切に行うことができる。 ・臨床見学を通して自身の課題を整理し、今後の学習目標を明確にできる。			

授業科目名	解剖学Ⅱ		担当者名	小幡 紘輝			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	リハビリPT・OT・ST・Drのための脳画像の新しい勉強本 (三輪書店)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1		作業療法科	3年	前期	必修
		時間数	15				
		15					
授業概要	脳の解剖が理解できる。CT、MRIの特徴と脳血管疾患の画像が理解できる。神経心理症状と画像の関連が理解できる。						
学習到達目標	神経心理症状と画像の関連が理解できる						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	中枢神経系の解剖			脳の構造について説明できる			
2	中枢神経系の解剖						
3	リハビリテーションに有用な脳血管障害の部位別神経症候			脳血管障害における損傷部位とその症状の関連について説明できる			
4	リハビリテーションに有用な脳血管障害の部位別神経症候						
5	CT、MRIの特徴と脳血管疾患の画像			CTとMRI画像の違いと、特徴について説明できる			
6	CT、MRIの特徴と脳血管疾患の画像			さまざまなCT、MRI画像についてその病巣と脳構造を関連付けて説明できる			
7	CT、MRIの特徴と脳血管疾患の画像						
8	CT、MRIの特徴と脳血管疾患の画像						
9	脳j画像のみかた			多くの症例を通じて、実際の画像を読み、画像所見と症状、検査、予後等が関連付けて説明できる			
10	脳j画像のみかた						
11	脳j画像のみかた						
12	脳の神経症状と神経心理症状			高次脳機能障害の様々なタイプについて説明できる			
13	脳の神経症状と神経心理症状						
14	症例検討			症例検討、グループワーク			
15	症例検討						

授業科目名	生活行為向上マネジメント論		担当者名	相澤 祐一			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 日本作業療法士協会編著 医歯薬出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	3年	後期	必修	講義
		15					
授業概要	対象者の生活を向上させる多職種との協業をマネジメントするMTDLPについて概要を理解する。身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害の各分野で実践できる能力を身に付ける。						
学習到達目標	各分野の対象者について社会復帰に至る退院支援、地域レベルのリハビリ、職業支援の知識、技術、マネジメント納涼を修得する。						
評価方法	レポート・定期試験・講義の取り組み						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			オリエンテーション、講義の方向性を知る。			
2	MTDLPの概要			MTDLPの目的、ねらいを知る。			
3	MTDLPの理論、活用			MTDLPの目的、ねらいを知る。 作業と生活行為について知る。			
4	MTDLPの理論、活用						
5	MTDLPの実践			MTDLPと作業療法の関係を知る。 具体的な使い方を知る。			
6	MTDLPの実践						
7	MTDLPの臨床活用			地域、他部門とMTDLPの関係を知る。			
8	MTDLPの活用(グループワーク)			紙上患者、グループワークにて、具体的な分析評価、治療、MTDLPの活用を学ぶ。			
9	MTDLPの活用(グループワーク)						
10	MTDLPの活用(グループワーク)			紙上患者、グループワークにて、具体的な分析評価、治療、MTDLPの活用を学ぶ。			
11	MTDLPの活用(グループワーク)						
12	MTDLPの各分野展開1			精神障害分野、身体障害分野におけるMTDLPの活用を知る。			
13	MTDLPの各分野展開1						
14	MTDLPの各分野展開2			発達障害分野、高齢期障害分野におけるMTDLPの活用を知る。			
15	MTDLPの各分野展開3						

授業科目名	臨床実習前後評価演習		担当者名	小笠原 祥太			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	資料配布	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	3年	前期	必修	演習
		30					
授業概要	臨床実習前に、実習の構造や留意点について包括的に学ぶ。また、模擬場面を設定し、対応の方法等について学ぶ 臨床実習後に、症例検討会を通しフィードバックをおこなう						
学習到達目標	臨床実習の構造や留意点について理解し、模擬場面での対応ができるようにする。実習後に症例検討会を通して理解を深める						
評価方法	実技、症例発表						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	臨床実習の目的と構造について			臨床実習の構造(施設、教育機関との連携、職種、学生の役割、目的など)を学び理解する			
2	臨床実習における学生の役割と目標について						
3	臨床実習における倫理			臨床実習での守るべきルール、同意を得るために必要な説明を学び、倫理的な視点から理解を深める			
4	対象者の権利、説明と同意について						
5	ハラスメントとは			ハラスメントの概念を理解する 臨床実習で見られるハラスメントと、その対処について学び、理解を深める			
6	臨床実習におけるハラスメントの事例						
7	リスク管理について			感染症に対する標準予防策、インシデントの事例と予防について学ぶ 事故発生時の対応について学び、理解を深める			
8	事項対応について						
9	個人情報とは			臨床実習における個人情報の範囲、記載時の例、会話やSNSについての留意点について学び、理解を深める			
10	臨床実習で扱う個人情報と、扱うときの留意点について						
11	記録(ケースノート、ケースレポート)について			ケースノート、ケースレポートの書き方を学ぶ			
12	記録(ケースノート、ケースレポート)について						
13	臨床実習前客観的臨床技能試験について			臨床実習前客観的臨床技能試験の出題と対策をおこなう			
14	臨床実習前客観的臨床技能試験について						
15	身体障害者領域における臨床実習前客観的臨床技能試験1			臨床実習前客観的臨床技能試験の実施とフィードバックをおこない、技能を高める			
16	身体障害者領域における臨床実習前客観的臨床技能試験2						
17	老年期障害領域における臨床実習前客観的臨床技能試験1			臨床実習前客観的臨床技能試験の実施とフィードバックをおこない、技能を高める			
18	老年期障害領域における臨床実習前客観的臨床技能試験2						

19	精神科領域における臨床実習前客観的臨床技能試験1	臨床実習前客観的臨床技能試験の実施と フィードバックをおこない、技能を高める
20	精神科領域における臨床実習前客観的臨床技能試験2	
21	症例報告、検討会(身体障害領域)	症例報告、検討会とフィードバックからリハビリテーションへの理解を深める
22	症例報告、検討会(身体障害領域)	
23	症例報告、検討会(身体障害領域)	症例報告、検討会とフィードバックからリハビリテーションへの理解を深める
24	症例報告、検討会(身体障害領域)	
25	症例報告、検討会(精神障害領域)	症例報告、検討会とフィードバックからリハビリテーションへの理解を深める
26	症例報告、検討会(精神障害領域)	
27	症例報告、検討会(老年期障害領域)	症例報告、検討会とフィードバックからリハビリテーションへの理解を深める
28	症例報告、検討会(老年期障害領域)	
29	まとめ	まとめ
30	まとめ	

授業科目名	運動器障害作業治療学Ⅱ		担当者名	河野 智哉			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	身体障害作業療法学（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト）メジカルビュー社 ハンドセラピー（リハ実践テクニック）メジカルビュー社	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	作業療法科	3年	通年	必修	講義
		45					
授業概要	上肢の整形外科的疾患に対して、その病態・症状・評価・治療の関連について講義する。						
学習到達目標	様々な上肢の整形外科的疾患に対して、その病態・症状・評価・治療の関連性が理解できる。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	脊髄損傷の病態と生理			脊髄損傷の病態と生理について説明できる			
2	脊髄損傷の症状			脊髄損傷の症状修復方法について説明できる			
3	脊髄損傷の各レベルでの能力			脊髄損傷の各レベルでの能力について説明できる			
4	脊髄損傷の獲得能力について						
5	Zancolliの分類、ASIAなど						
6	関節拘縮に関与する組織別分類（拘縮の鑑別）			拘縮の病態、症状について説明できる			
7	浮腫と関節拘縮			浮腫の原因などと対処法について説明できる			
8	複合性局所疼痛症候群			複合性局所疼痛症候群について説明できる			
9	手指屈筋腱とその腱損傷			手指屈筋腱損傷の病態、症状、合併症、機能障害等について説明できる			
10	屈筋腱腱鞘						
11	手指屈筋腱の損傷区分						
12	損傷腱の修復・再建法			損傷腱の修復・再建法			
13	関節可動域および手指腱機能評価			屈筋腱損傷の機能評価について説明できる			
14	ADL（手指動作）評価						
15	手指屈筋腱修復症例に対するハンドリハの実際			「固定法」と「早期運動開始法」等、手指屈筋腱断裂症例に対するハンドセラピーについて説明できる			
16	手指屈筋腱断裂症例に対するハンドリハ						
17	腱板損傷			腱板損傷の病態と臨床症状について説明できる			

18	腱板断裂の臨床症状	腱板断裂のの評価、装具、治療について説明できる
19	臨床診断	
20	腱板損傷に対するセラピー	
21	腱板損傷に対するセラピー2	まとめ
22	熱傷の重症度	熱傷の重症度分類について説明できる
23	熱傷に対する作業療法	熱傷に対するスプリント療法等について説明できる
24	関節リウマチ(RA)の概要	関節リウマチの病態、症状等について説明できる
25	関節リウマチ(RA)の概要	
26	関節リウマチ(RA)の概要	
27	SteinbrockerのStage分類: 関節リウマチの病期の判定	関節リウマチの分類について説明できる
28	ボタン穴変形等の原因	関節リウマチの様々な変形についてその原因と症状について説明できる
29	薬物療法	
30	スタインブロッカーステージⅡ・クラスⅡ～ステージⅢ・クラスⅢ	病期における症状とADLについて説明できる
31	関節リウマチの生活指導	関節リウマチに対する代償動作と自助具の適応、禁忌等について説明できる
32	関節リウマチの生活指導	
33	関節リウマチに対する作業療法と注意事項	
34	関節リウマチに対する作業療法と注意事項	
35	関節リウマチに対する作業療法と注意事項	
36	様々な整形疾患に対する評価のまとめ	
37	整形疾患に対するスプリントについて	各疾患に対するスプリントの適応について理解できる
38	スプリントの種類と適応について	スプリントの種類について説明できる
39	スプリントの種類と適応について2	
40	スプリントの作成(カックアップスプリントの作成の実際)	カックアップスプリントを実際に作成することによって、作成の手順等について理解する
41		
42		
43		
44		
45	まとめ	まとめ

授業科目名	中枢神経障害作業治療学Ⅱ		担当者名	小幡 紘輝			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	脳卒中(リハ実践テクニック) (メジカルビュー社)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	作業療法科	3年	通年	必修	講義
		60					
授業概要	ケーススタディを通して仮説の立案、問題点の抽出、目標・プログラムの立案を学ぶ。 作業療法の治療の基礎を学ぶ。						
学習到達 目標	症例を通して、評価項目の列挙、治療プログラムの立案ができるようになる。 作業療法の治療・訓練を理解する。						
評価方法	授業態度、出席状況、課題、定期試験を総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ケーススタディ 食事動作困難における仮説の立案			症状から評価項目を列挙する。			
2	ケーススタディ 食事動作困難における仮説の立案						
3	ケーススタディ 食事動作困難における問題点の抽出			症状から問題点を抽出する。			
4	ケーススタディ 食事動作困難における問題点の抽出						
5	ケーススタディ 食事動作困難における目標・治療プログラムの立案			症状から治療プログラムを立案する。			
6	ケーススタディ 食事動作困難における目標・治療プログラムの立案						
7	ケーススタディ 整容動作困難における仮説の立案			症状から評価項目を列挙する。			
8	ケーススタディ 整容動作困難における仮説の立案						
9	ケーススタディ 整容動作困難における問題点の抽出			症状から問題点を抽出する。			
10	ケーススタディ 整容動作困難における問題点の抽出						
11	ケーススタディ 整容動作困難における目標・治療プログラムの立案			症状から治療プログラムを立案する。			
12	ケーススタディ 整容動作困難における目標・治療プログラムの立案						
13	ケーススタディ 更衣動作困難における仮説の立案			症状から評価項目を列挙する。			
14	ケーススタディ 更衣動作困難における仮説の立案						
15	ケーススタディ 更衣動作困難における問題点の抽出			症状から問題点を抽出する。			
16	ケーススタディ 更衣動作困難における問題点の抽出						
17	ケーススタディ 更衣動作困難における目標・治療プログラムの立案			症状から治療プログラムを立案する。			
18	ケーススタディ 更衣動作困難における目標・治療プログラムの立案						

19	ケーススタディ 排泄動作困難における仮説の立案	症状から評価項目を列挙する。
20	ケーススタディ 排泄動作困難における仮説の立案	
21	ケーススタディ 排泄動作困難における問題点の抽出	症状から問題点を抽出する。
22	ケーススタディ 排泄動作困難における問題点の抽出	
23	ケーススタディ 排泄動作困難における目標・治療プログラムの立案	症状から治療プログラムを立案する。
24	ケーススタディ 排泄動作困難における目標・治療プログラムの立案	
25	ケーススタディ 入浴動作困難における仮説の立案	症状から評価項目を列挙する。
26	ケーススタディ 入浴動作困難における仮説の立案	
27	ケーススタディ 入浴動作困難における問題点の抽出	症状から問題点を抽出する。
28	ケーススタディ 入浴動作困難における問題点の抽出	
29	ケーススタディ 入浴動作困難における目標・治療プログラムの立案	症状から治療プログラムを立案する。
30	ケーススタディ 入浴動作困難における目標・治療プログラムの立案	
31	関節可動域訓練について	関節可動域訓練の実践を理解する。
32	関節可動域訓練について	
33	関節可動域訓練について	
34	筋力増強訓練について	筋力増強訓練の実践を理解する。
35	筋力増強訓練について	
36	筋力増強訓練について	
37	筋緊張の調整について	筋緊張の亢進緩和の手技を理解する。
38	筋緊張の調整について	
39	筋緊張の調整について	
40	協調性訓練について	協調性訓練の実践を理解する。
41	協調性訓練について	
42	協調性訓練について	
43	ファシリテーション(神経筋促通法)について	ファシリテーションテクニックを理解する。
44	ファシリテーション(神経筋促通法)について	
45	ファシリテーション(神経筋促通法)について	

46	利き手交換について	利き手交換の実践を理解する。
47	利き手交換について	
48	利き手交換について	
49	アクティビティについて	作業活動を治療に応用する視点を理解する。
50	アクティビティについて	
51	アクティビティについて	
52	予後予測について	予後予測に応じた訓練の実践を理解する。
53	予後予測について	
54	予後予測について	
55	住宅改修・環境調整について	住宅改修・環境調整の実践を理解する。
56	住宅改修・環境調整について	
57	住宅改修・環境調整について	
58	復職支援について	復職支援を理解する。
59	復職支援について	
60	復職支援について	

授業科目名	神経難病障害作業治療学Ⅱ		担当者名	小笠原 祥太			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学(メジカルビュー社) 作業療法学全書(共同医書出版社)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	3年	通年	必修	講義
		30					
授業概要	難病疾患に対する作業療法を理解する。						
学習到達目標	様々な難病に対する作業療法評価と治療を列挙し、内容を説明できる。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	脊髄小脳変性症の病態と障害像			脊髄小脳変性症の病態と障害像について説明ができる。			
2	脊髄小脳変性症の作業療法・評価について			脊髄小脳変性症に対する作業療法評価と治療を列挙し、内容を説明できる。			
3	脊髄小脳変性症の作業療法・評価について						
4	脊髄小脳変性症の作業療法・評価について						
5	脊髄小脳変性症の作業療法・評価について						
6	脊髄小脳変性症の作業療法・治療について						
7	脊髄小脳変性症の作業療法・治療について						
8	筋ジストロフィー症の病態と障害像			筋ジストロフィー症の病態と障害像について説明ができる。			
9	筋ジストロフィー症の病態と障害像			筋ジストロフィー症に対する作業療法評価と治療を列挙し、内容を説明できる。			
10	筋ジストロフィー症の作業療法・評価について						
11	筋ジストロフィー症の作業療法・評価について						
12	筋ジストロフィー症の作業療法・評価について						
13	筋ジストロフィー症の作業療法・評価について						
14	筋ジストロフィー症の作業療法・治療について						
15	筋ジストロフィー症の作業療法・治療について						
16	筋ジストロフィー症の作業療法・治療について						
17	筋ジストロフィー症の作業療法・治療について						
18	多発性硬化症の病態と障害像			多発性硬化症の病態と障害像について説明ができる。			

19	多発性硬化症の作業療法・評価について	多発性硬化症に対する作業療法評価と治療を列挙し、内容を説明できる。
20	多発性硬化症の作業療法・治療について	
21	ギランバレー症候群の病態と障害像	ギランバレー症候群の病態と障害像について説明ができる。
22	ギランバレー症候群の作業療法・評価について	ギランバレー症候群に対する作業療法評価と治療を列挙し、内容を説明できる。
23	ギランバレー症候群の作業療法・治療について	
24	筋萎縮性側索硬化症の病態と障害像について	筋萎縮性側索硬化症の病態と障害像について説明ができる。
25	筋萎縮性側索硬化症の作業療法・評価について	筋萎縮性側索硬化症に対する作業療法評価と治療を列挙し、内容を説明できる。
26	筋萎縮性側索硬化症の作業療法・評価について	
27	筋萎縮性側索硬化症の作業療法・治療について	
28	筋萎縮性側索硬化症の作業療法・治療について	
29	ピルケースとマイクロスイッチを使った入力装置の作製	ピルケースとマイクロスイッチを使った入力装置の作製する。
30	ピルケースとマイクロスイッチを使った入力装置の作製	

授業科目名	老年期障害作業治療学		担当者名	金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	高齢期作業療法学(第3版) 医学書院	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	作業療法科	3年	通年	必修	講義
		45					
授業概要	高齢社会、高齢期の課題、その時期における作業療法について学ぶ。高齢期に多い疾患や認知症について理解し、それらに対する作業療法士の役割を学ぶ。事例を通して具体的なアプローチ方法、臨床像について学ぶ。						
学習到達目標	老年期の特性を踏まえ、作業療法の介入技術を主に学習する。また包括的なリハビリテーションを理解する。						
評価方法	定期試験 出席 レポート 授業態度						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	高齢社会について			高齢社会になった経緯を理解する			
2	高齢社会について			社会施策の変化を理解する			
3	高齢期の課題について			高齢期の心身の特徴を理解する 高齢期のQOLを理解する			
4	高齢期の課題について			高齢期の社会活動を理解する 高齢期の家族関係を理解する			
5	高齢期の課題について			現代社会と高齢者の関係を理解する			
6	社会制度について			社会保障制度の体系を理解する 老人福祉法を理解する			
7	社会制度について			高齢者の医療の確保に関する法律を理解する 介護保険法を理解する			
8	社会制度について			生活保護法を理解する 成年後見制度を理解する			
9	高齢期の作業療法について			高齢期障害は複合障害であることを理解する 一般の高齢者の状況を理解する			
10	高齢期の作業療法について			高齢期作業療法の役割と機能を理解する 高齢期作業療法の目的を理解する			
11	高齢期の特徴について			高齢期の生理的・身体的特徴を理解する			
12	高齢期の特徴について			高齢期におこりやすい症候を理解する			
13	高齢期の特徴について			高齢期の精神的・心理的特徴を理解する			
14	高齢期に多い疾患について			高齢期に多い循環器疾患、呼吸器疾患、神経疾患を理解する			
15	高齢期に多い疾患について			高齢期に多い運動器疾患、内分泌代謝疾患、精神疾患を理解する			
16	高齢期に多い疾患について			高齢期に多い皮膚疾患、眼疾患を理解する			
17	認知症について			認知症の定義について理解する			
18	認知症について			認知症の分類について理解する			

19	認知症について	認知症の症状を理解する
20	認知症について	代表的な認知症疾患を理解する
21	作業療法実践の基本的枠組みについて	人権と尊厳について理解する 生活の見方を理解する
22	作業療法実践の基本的枠組みについて	作業療法の過程を理解する
23	作業療法実践の基本的枠組みについて	病期に応じた治療、援助の内容の違いを理解できる
24	作業療法実践の基本的枠組みについて	実施場所に応じた援助内容を理解する
25	一般の高齢者に対する作業療法のあり方について	健康高齢者、虚弱高齢者に対する作業療法を理解する
26	一般の高齢者に対する作業療法のあり方について	身体障害をもった高齢者、寝たきりの高齢者、精神障害をもった高齢者に対する作業療法について理解する
27	介護予防の作業療法について	介護予防について理解する
28	介護予防の作業療法について	介護予防における作業療法士の役割を理解する
29	認知症高齢者に対する作業療法について	認知症高齢者の評価について理解する
30	認知症高齢者に対する作業療法について	認知症に対する作業療法の視点を理解する
31	認知症高齢者に対する作業療法について	家族支援について理解する
32	事例検討(健康高齢者)	健康高齢者の介護予防への目標設定やプログラム立案ができる
33	事例検討(健康高齢者)	生活不活発からの悪循環から良循環への転換の重要性を理解する
34	事例検討(要支援者)	要支援者の生活像について理解する
35	事例検討(要支援者)	要支援者の生活のしづらさを評価し、援助することができる
36	事例検討(要介護者)	回復期における作業療法士の役割を理解する 通所リハにおける作業療法士の役割を理解する
37	事例検討(要介護者)	介護老人保健施設、訪問リハにおける作業療法士の役割を理解する
38	事例検討(軽度認知症)	軽度認知症の疾患、障害、臨床像を理解する
39	事例検討(軽度認知症)	軽度認知症における作業療法の過程を理解する
40	事例検討(中等度認知症)	認知症高齢者の臨床像と環境や関わり的重要性を理解する
41	事例検討(中等度認知症)	その人らしさを引き出し、活用するアプローチの重要性と効果を理解する
42	事例検討(重度認知症)	重度の認知症から寝たきりに移行する臨床像を理解する
43	事例検討(重度認知症)	重度の認知症へのアプローチについて理解する

44	事例検討(終末期)	終末期における対象者の心理状態について理解する
45	事例検討(終末期)	終末期における作業療法士の役割について理解する

授業科目名	発達障害作業治療学		担当者名	小笠原 祥太			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	PTOTのための発達障害ガイド(金原出版) 資料配布	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	3年	通年	必修	講義
		30					
授業概要	人の発達の特徴、技能の獲得について。 様々な発達障害について、その障害像、作業療法アプローチについて学ぶ。						
学習到達目標	ひとの発達について理解する。発達障害の分類、障害像、社会的不利について理解し、説明ができる。 発達障害に対する作業療法について理解し、アプローチの一部ができる。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	人間発達:粗大運動、巧緻運動、原始反射			発達と成長の違いを説明できる。原始反射の消失と、粗大運動及び巧緻運動の獲得の関係について理解施設名ができる。			
2	人間発達:粗大運動、巧緻運動、原始反射						
3	痙直型脳性麻痺児の障害像			脳性麻痺の定義を述べるができる。痙直型脳性麻痺の分類ができる。痙直型脳性麻痺の障害像について説明ができる。			
4	痙直型脳性麻痺児に対する作業療法						
5	痙直型脳性麻痺児に対する作業療法			痙直型脳性麻痺に対する作業療法評価を列挙することができる。評価法について留意点を述べるができる。			
6	痙直型脳性麻痺児に対する作業療法						
7	痙直型脳性麻痺児に対する作業療法			痙直型脳性麻痺に対する作業療法アプローチを列挙することができる。治療の一部を実践することができる			
8	痙直型脳性麻痺児に対する作業療法						
9	アトーゼ型脳性麻痺児の障害像			アトーゼ型脳性麻痺児の障害像について説明することができる。			
10	アトーゼ型脳性麻痺児に対する作業療法						
11	アトーゼ型脳性麻痺児に対する作業療法			アトーゼ型脳性麻痺に対する作業療法評価を列挙することができる。評価法について留意点を述べるができる。			
12	アトーゼ型脳性麻痺児に対する作業療法						
13	アトーゼ型脳性麻痺児に対する作業療法			アトーゼ型脳性麻痺に対する作業療法アプローチを列挙することができる。治療の一部を実践することができる			
14	アトーゼ型脳性麻痺児に対する作業療法						
15	精神遅滞児に対する作業療法			精神遅滞に対する作業療法評価、アプローチを列挙し、説明することができる。			
16	精神遅滞児に対する作業療法						
17	自閉症とアスペルガー症候群に対する作業療法			自閉症とアスペルガー症候群に対する作業療法評価、アプローチを列挙し、説明することができる。			
18	自閉症とアスペルガー症候群に対する作業療法						

19	学習障害児に対する作業療法	重症心身障害に対する作業療法評価、アプローチを列挙し、説明することができる。
20	学習障害児に対する作業療法	
21	注意欠陥多動性障害に対する作業療法	注意欠陥多動性障害に対する作業療法評価、アプローチを列挙し、説明することができる。
22	注意欠陥多動性障害に対する作業療法	
23	自閉症スペクトラムについて	自閉症スペクトラムについて説明することができる。
24	ダウン症候群に対する作業療法	ダウン症候群の障害像について説明することができる。
25	重症心身障害児に対する作業療法	重症心身障害に対する作業療法評価、アプローチを列挙し、説明することができる。
26	重症心身障害児に対する作業療法	
27	二分脊椎に対する作業療法	二分脊椎に対する作業療法評価、アプローチを列挙し、説明することができる。
28	二分脊椎に対する作業療法	
29	二分脊椎に対する作業療法	
30	二分脊椎に対する作業療法	

授業科目名	精神障害作業治療学Ⅱ		担当者名	相澤 祐一			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	精神疾患の理解と 精神科作業療法 (中央法規出版 2007)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3	科 名				
		時間数	作業療法科	3年	通年	必修	講義
		45					
授業概要	各精神疾患の作業療法の具体例について学び、年齢、性別、生活歴、経過などによって変化する精神疾患の病態の概略を理解し、対応した具体的な治療法を学習する。作業療法の過程で起こる様々な事柄への具体的な対処法を学ぶ。症例ごとの治療プロセスの検討・調整を記録できるようにする。学術誌の症例集を各自で読み、理解を深めることが望ましい。						
学習到達目標	各精神疾患の作業療法について知り、作業療法評価、治療プログラム作成、実施を行えるようになる。						
評価方法	定期試験 出席 レポート 授業態度						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			オリエンテーション、講義の方向性を知る。			
2	症例評価(GW)			症例記録より作業療法評価を行い、全体像にまとめ記録を作成することができる。			
3	症例評価(GW)						
4	症例評価(GW)						
5	症例評価(GW)						
6	症例評価(GW)						
7	症例評価(GW)						
8	各論：気分障害			気分障害について学び病態像を説明できる。			
9	各論：気分障害						
10	作業療法の実際：気分障害			気分障害患者に対する作業療法の具体的技法、留意点を説明できる。			
11	作業療法の実際：気分障害						
12	各論：神経症圏			神経症圏について学び病態像を説明できる。			
13	各論：神経症圏						
14	作業療法の実際：神経症			神経症圏の患者に対する作業療法の具体的技法、留意点を説明できる。			
15	作業療法の実際：神経症						
16	各論：器質性精神障害			気質精神障害について学び病態像を説明できる。			
17	各論：器質性精神障害						
18	作業療法の実際：器質性精神障害			器質性精神障害患者に対する作業療法の具体的技法、留意点を説明できる。			
19	作業療法の実際：器質性精神障害						

20	各論: パーソナリティー障害	パーソナリティー障害について学び病態像を説明できる。
21	各論: パーソナリティー障害	
22	作業療法の実際: パーソナリティー障害	パーソナリティー障害患者に対する作業療法の具体的技法、留意点を説明できる。
23	作業療法の実際: パーソナリティー障害	
24	各論: 摂食障害	摂食障害について学び病態像を説明できる。
25	各論: 摂食障害	
26	作業療法の実際: 摂食障害	摂食障害患者に対する作業療法の具体的技法、留意点を説明できる。
27	作業療法の実際: 摂食障害	
28	各論: 児童の精神障害	児童の精神障害について学び病態像を説明できる。
29	作業療法の実際: 児童の精神障害	児童の精神障害患者に対する作業療法の具体的技法、留意点を説明できる。
30	作業療法の実際: 児童の精神障害	
31	中間まとめ	これまでのまとめ、質疑応答により知識を補完する。
32	薬物療法	向精神薬、各精神疾患の治療薬について説明できる。また、作用機序についても説明できる。
33	薬物療法	
34	薬物療法	
35	精神科作業療法プログラム	精神障害分野における作業療法プログラムについて必要事項及び留意点について説明できる。
36	精神科作業療法プログラム	
37	活動分析(GW)	精神障害に対する作業療法プログラム種目について活動分析できるようになる。
38	活動分析(GW)	
39	活動分析(GW)	
40	活動分析(GW)	
41	症例実践/プログラム	症例記録に基づき、作業療法プログラムを具体的に作成できる。
42	症例実践/プログラム	
43	症例実践/プログラム	
44	症例実践/プログラム	
45	まとめ	質疑応答により知識を補完する。

授業科目名	高次脳機能障害作業治療学Ⅱ		担当者名	小笠原 祥太			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	ゴールドマスターテキスト高次脳機能障害作業療法学（メジカルビュー社）	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	3年	通年	必修	講義
		30					
授業概要	前頭葉機能障害者の失類型、障害像、ADLや参加の困難さについて学ぶ 作業療法アプローチの実践、現象と関連性について学ぶ。 高次脳機能障害者を取り巻く社会状況、社会支援を知る。						
学習到達目標	高次脳機能障害の分類ができる。様々な高次脳機能障害の障害像について説明ができる。高次脳機能障害に対する作業療法評価を列挙し、実践することができる。アプローチを列挙することができる。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	日常生活における前頭葉機能の役割			日常生活における前頭葉機能の役割を列挙することができる。			
2	日常生活における前頭葉機能の役割						
3	前頭葉機能障害の分類			前頭葉機能障害の分類ができる。			
4	前頭葉機能障害の分類						
5	記憶障害の原因と分類			記憶の分類ができる。記憶障害の原因について知る。記憶障害の分類ができる。			
6	記憶障害の作業療法評価と介入			記憶障害の作業療法評価を列挙し、実践することができる。また介入方法をあげることができる。			
7	記憶障害の作業療法評価と介入						
8	記憶障害の作業療法評価と介入						
9	注意障害の分類と障害像			注意障害の分類ができる。障害像について説明ができる。			
10	注意障害の作業療法評価と介入			注意障害の作業療法評価を列挙し、実践することができる。また介入方法をあげることができる。			
11	注意障害の作業療法評価と介入						
12	注意障害の作業療法評価と介入						
13	注意障害の作業療法評価と介入						
14	注意障害の作業療法評価と介入						
15	社会的行動障害の分類と障害像			社会的行動障害の分類ができる。障害像について説明できる。			

16	社会的行動障害の作業療法評価と介入	社会的行動障害の作業療法評価を列挙し、実践することができる。また介入方法をあげることができる。
17	社会的行動障害の作業療法評価と介入	
18	社会的行動障害の作業療法評価と介入	
19	社会的行動障害の作業療法評価と介入	
20	社会的行動障害の作業療法評価と介入	
21	遂行機能障害の分類と障害像	遂行機能障害の分類ができる。障害像について説明できる。
22	遂行機能障害の作業療法と介入	遂行機能障害の作業療法評価を列挙し、実践することができる。また介入方法をあげることができる。
23	遂行機能障害の作業療法と介入	
24	遂行機能障害の作業療法と介入	
25	遂行機能障害の作業療法と介入	
26	遂行機能障害の作業療法と介入	
27	高次脳機能障害を取り巻く社会状況。社会支援と作業療法	高次脳機能障害を取り巻く社会状況の変化について説明ができる。社会支援を列挙することができる。
28	高次脳機能障害を取り巻く社会状況。社会支援と作業療法	
29	高次脳機能障害を取り巻く社会状況。社会支援と作業療法	
30	高次脳機能障害を取り巻く社会状況。社会支援と作業療法	

授業科目名	臨床評価実習		担当者名	阿部 伸洋、相澤 祐一、 小笠原 祥太、小幡 紘輝、金田 翔子 （臨床実習指導者）			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	OT臨床ハンドブック（三輪書店）	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		5					
		時間数	作業療法科	3年	前期	必修	実習
		225					
授業概要	臨床実習指導者の下、対象者に対して一連の評価を実施し、知識・技術を習得するとともに問題解決のための評価の意義を学ぶ。さらに問題点を抽出し、目標の設定、治療計画立案までを行い、基本的な作業療法の評価過程を習得することを目的とする。						
学習到達目標	適切な情報収集から評価計画の立案・実施、結果の解釈と問題点の把握、記録・報告、治療計画の立案までを行い、職業人としての倫理観を備える。						
評価方法	実習生教育報告書の総合評定表による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
180時間	＜臨床評価実習の目的＞ 臨床実習指導者の下、対象者に対して一連の評価を実施し、知識・技術を習得するとともに問題解決のための評価の意義を学ぶ。さらに問題点を抽出し、目標の設定、治療計画立案までを行い、基本的な作業療法の評価過程を習得することを目的とする。 ＜学生の臨床評価実習の目標＞ (1) 適切な情報収集を行うことができる。 (2) 評価計画を立案し、それに基づいた評価を実施することができる。 (3) 評価の結果を解釈し、問題点を把握することができる。 (4) 評価に関する記録、報告をすることができる。 (5) 治療計画を立案することができる。 (6) 職業人としての倫理観を持つことができる。 * 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション1単位含む ただし、学生によっては評価実習以外の実習にて行う場合がある			(1) 適切な情報収集を行うことができる。 (2) 評価計画を立案し、それに基づいた評価を実施することができる。 (3) 評価の結果を解釈し、問題点を把握することができる。 (4) 評価に関する記録、報告をすることができる。 (5) 治療計画を立案することができる。 (6) 職業人としての倫理観を持つことができる。			

授業科目名	総合臨床実習Ⅰ		担当者名	阿部 伸洋、相澤 祐一、 小笠原 祥太、小幡 紘輝、金田 翔子 (臨床実習指導者)			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書		単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		9					
		時間数	作業療法科	3年	後期	必修	実習
		405					
授業概要	4年次の総合臨床実習Ⅱに先立ち、その前段階としての位置づけであり、各症例に対する作業療法の評価から介入の過程に関する知識・技術を理解し確認することを目的とする。臨床実習指導者の下、担当症例において、評価、記録、統合と解釈、治療計画の立案、治療、再評価までの一連の過程を実施し、知識・技術の習得を図ることを目的とする。						
学習到達目標	職業人として望ましい態度と倫理観を持ち、評価計画の立案から実施・解釈、治療計画の作成、治療や指導の一部実施、さらに記録・報告までを一連で行うことができる能力を備える。						
評価方法	実習生教育報告書の総合評定表による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
405時間	＜総合臨床実習Ⅰの目的＞ 4年次の総合臨床実習Ⅱに先立ち、その前段階としての位置づけであり、各症例に対する作業療法の評価から介入の過程に関する知識・技術を理解し確認することを目的とする。臨床実習指導者の下、担当症例において、評価、記録、統合と解釈、治療計画の立案、治療、再評価までの一連の過程を実施し、知識・技術の習得を図ることを目的とする。 ＜学生の総合臨床実習Ⅰの目標＞ (1) 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 (2) 職業人としての倫理観を持つことができる。 (3) 評価計画を立案し、それに基づいた評価を実施することができる。 (4) 評価の結果を解釈し、対象者の状況を把握することができる。 (5) 治療計画を立案することができる。 (6) 対象者への治療・指導・援助を計画に基づき、その一部を実施することができる。 (7) 評価・治療に関する記録・報告をすることができる。 * 本科目で総合臨床実習Ⅰ(405時間・9単位)は、病院・施設等での臨床実習を360時間(8単位)、臨床実習の前後評価を45時間(1単位)で構成することとする。 * 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション1単位含む。 ただし、学生によっては総合実習以外の実習にて行う場合がある。			(1) 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 (2) 職業人としての倫理観を持つことができる。 (3) 評価計画を立案し、それに基づいた評価を実施することができる。 (4) 評価の結果を解釈し、対象者の状況を把握することができる。 (5) 治療計画を立案することができる。 (6) 対象者への治療・指導・援助を計画に基づき、その一部を実施することができる。 (7) 評価・治療に関する記録・報告をすることができる。			

授業科目名	チームワーク論		担当者名	相澤 祐一			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	プリント配付	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	作業療法科	4年	前期	必修	講義
		30					
授業概要	患者中心のリハビリテーションに必要な多職種連携の基礎を学習する。患者中心のチーム医療を俯瞰的に捉える視点と、多職種ゆえに発生する問題について理解を深め、専門職としての技術をどのように活かしていくか考察する。						
学習到達目標	チームワーク医療の概念、構成、問題点を把握し、効果的かつ円滑な多職種連携スキルを身につける。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	チーム医療とは			チーム医療の概念と歴史について理解する			
2	チーム医療とは			チーム医療の概念と歴史について理解する			
3	リハビリテーションのチームワーク医療の目的と重要性			リハビリテーションのチーム医療について理解する			
4	リハビリテーションのチームワーク医療の目的と重要性			リハビリテーションのチーム医療について理解する			
5	ハビリテーションチームの構成員とその役割1			チーム医療の構成について理解する			
6	ハビリテーションチームの構成員とその役割2			チーム医療の構成について理解する			
7	ハビリテーションチームの構成員とその役割3			チーム医療の構成について理解する			
8	ハビリテーションチームの構成員とその役割4			チーム医療の構成について理解する			
9	チーム内コミュニケーションの重要性			コミュニケーションの重要性について理解する			
10	チーム内コミュニケーションの重要性			コミュニケーションの重要性について理解する			
11	効果的なコミュニケーションスキル			効果的なコミュニケーションスキルを身につける			
12	効果的なコミュニケーションスキル			効果的なコミュニケーションスキルを身につける			
13	多職種連携を想定した患者の評価と目標設定			多職種連携を想定した目標設定ができる			
14	多職種連携を想定した患者の評価と目標設定			多職種連携を想定した目標設定ができる			
15	多職種連携を想定したリハビリテーション計画			多職種連携を想定したリハ計画をたてる			
16	多職種連携を想定したリハビリテーション計画			多職種連携を想定したリハ計画をたてる			
17	チームの監視と評価			チーム自体の評価の視点を知る			
18	チームの監視と評価			チーム自体の評価の視点を知る			
19	患者のニーズと希望の尊重			チームとしてニーズを汲み取る重要性を理解する			

20	患者のニーズと希望の尊重	チームとしてニーズを汲み取る重要性を理解する
21	患者との共同決定プロセスの重要性	患者の意思決定の重要性を理解する
22	患者との共同決定プロセスの重要性	患者の意思決定の重要性を理解する
23	患者のプライバシーと機密性の保護	多職種連携に起こるプライバシー問題について理解する
24	患者のプライバシーと機密性の保護	多職種連携に起こるプライバシー問題について理解する
25	多職種のコンフリクトと倫理的ジレンマ	多職種の倫理的ジレンマについて理解する
26	多職種のコンフリクトと倫理的ジレンマ	多職種の倫理的ジレンマについて理解する
27	チーム医療がもたらす利点と成果の事例紹介	事例を知る
28	チーム医療がもたらす利点と成果の事例紹介	事例を知る
29	チーム医療の将来の展望と課題	課題について理解する
30	チーム医療の将来の展望と課題	課題について理解する

授業科目名	栄養学		担当者名	金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	リハベーシック 生化学・栄養学 医歯薬出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	4年	前期	必修	講義
		15					
授業概要	生命の維持や活動に必要な栄養素の消化と吸収、それによるエネルギー産生の過程について知り、運動や活動に必要な栄養素とエネルギーを理解したうえで、その適切な摂取方法について学ぶ。						
学習到達目標	生物を構成している物質の構成と反応を知り、生命の維持に必要な生化学・栄養学の一連の理解ができる						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	生化学・栄養学は面白い			リハビリテーションに活かす生化学・栄養学について理解できる			
2	生化学・栄養学に必要な基礎化学			元素・原子・分子について理解できる			
3	蛋白質とアミノ酸			蛋白質、アミノ酸の分類と機能について理解できる			
4	酵素・ホルモン			酵素・ホルモンも作用機序について理解できる			
5	糖質・脂質の代謝			糖質・脂質の代謝について理解できる			
6	ビタミン			ビタミンの種類と機能について理解できる			
7	消化と吸収			栄養素の吸収過程について理解できる			
8	エネルギー代謝			活動代謝とエネルギー供給について理解できる			
9	運動と栄養			スポーツと栄養について理解できる			
10	リハビリテーションと栄養			リハビリテーション栄養ケアプロセスについて理解できる			
11	栄養評価			臨床検査値からみた栄養アセスメントについて理解できる			
12	主な病態の栄養管理			脳卒中後、糖尿病、虚弱高齢者の栄養管理について理解できる			
13	静脈・経腸栄養法			静脈・経腸栄養法について理解できる			
14	栄養と摂食嚥下			嚥下評価および間接訓練、直接訓練について理解できる			
15	まとめ			まとめ			

授業科目名	地域包括ケアシステム論		担当者名	相澤 祐一			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	プリント	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	4年	後期	必修	講義
		15					
授業概要	地域におけるリハビリテーションおよび作業療法について理解する。団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向け国で推進している地域包括ケアシステムについて学ぶ。地域包括ケアシステムを理解した上で役割、多職種連携、チーム医療について理解し臨床で活用できることを目指す。						
学習到達目標	地域包括ケアシステムについて説明する事ができる。 臨床で活用できる知識・技術を身に着ける。						
評価方法	試験・授業態度・出席						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション・地域リハビリテーションの歴史			地域リハの概要を理解する。			
2	地域リハビリテーションの考えと定義			地域リハビリテーションの定義について説明ができる。			
3	地域リハビリテーションの諸サービス			地域リハの各サービスについて説明ができる。			
4	介護保険とリハビリテーション：日本と諸外国の状況			介護保険とリハビリテーションの状況について説明できる。			
5	介護保険とリハビリテーション：介護保険の概要			介護保険について説明できる。			
6	介護保険とリハビリテーション：介護サービスについて			介護サービスについて説明できる。			
7	介護サービス：訪問リハ、通所リハ、デイケア			地域生活における訪問・通所リハ、デイケアについて説明できる。			
8	介護サービス：老健、介護療養型医療施設におけるリハビリテーション			各施設におけるリハビリテーションの役割について説明できる。			
9	介護サービス：介護予防サービス、福祉用具、介護支援専門員			介護予防のリハビリについて説明できる。			
10	地域包括ケア：国の動向			地域作業療法における必要な知識について知る。			
11	構成要素と4つの助			具体的な地域包括ケアの考え方、方向性について理解できる			
12	地域共生社会			地域での共生について知る。			
13	高齢化社会の具体的な動向			日本の具体的な高齢化について知る。			
14	地域での生活と人生			地域包括ケアにおいての、地域での終末期を含む生活についての概説を説明できる。			
15	まとめ			これまでのまとめ			

授業科目名	基礎作業療法学研究法		担当者名	相澤 祐一			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	作業療法研究法(医歯薬出版)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	4年	通年	必修	演習
		30					
授業概要	基礎編では研究を始める心構えや準備、研究計画の立て方、必要な手続きなどの量的研究をはじめ、エスノグラフィックスタディや事例研究などの質的研究までを射程に入れ、さまざまな様式の作業療法研究の進め方を習得する。また、それらの知識を臨床場面に生かせるようにする。						
学習到達目標	研究の意義を理解し、実際に研究発表を行う。						
評価方法	発表・レポート・授業態度・出席						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			オリエンテーション、講義の方向性を知る。			
2	研究と文献、臨床の関係(文献検索)			臨床、臨床実習の為の文献検索ができる。文献の臨床、臨床実習における活用、考察への反映を説明できる。			
3	研究と文献、臨床の関係(文献検索)						
4	研究とは(なぜ研究するのか:クリニカルリーズニングとEBM)			研究の概要(臨床的必要性、学術的必要性、異議、本質など)を説明できる。研究と現在の臨床との繋がりを説明できる。			
5	研究とは(なぜ研究するのか:クリニカルリーズニングとEBM)						
6	研究疑問、様式:研究の流れ(文献を読む・文献を集める)			文献を読み、その概要を説明できる。			
7	研究疑問、様式:研究の流れ(文献を読む・文献を集める)						
8	研究に関わる基礎知識(研究論文の発表と手続き)			研究の発端から一般的知識に至るまでの過程を説明できる。			
9	研究に関わる基礎知識(研究論文の発表と手続き)						
10	研究に関わる基礎知識(研究論文の発表と手続き)						
11	研究の方法(シングルシステムデザイン)			シングルシステムデザインの研究法を説明できる。			
12	研究の方法(シングルシステムデザイン)						
13	研究の方法(シングルシステムデザイン)						
14	研究の方法(統計的検定法)			研究における統計について活用法を知る。			
15	研究の方法(統計的検定法)						
16	研究の方法(統計的検定法)						
17	研究の方法(シングルケーススタディ)			シングルケーススタディの研究法を具体的手順も含め説明できる。			
18	研究の方法(シングルケーススタディ)						
19	研究の方法(シングルケーススタディ)						

20	事例研究 テーマ決定	事例研究におけるテーマの決定ができる。
21	事例研究 テーマ決定	
22	事例研究 分析	事例研究における分析ができる。
23	事例研究 分析	
24	事例研究 原稿・論文作成	事例研究における原稿、スライド、論文の作成ができる。
25	事例研究 原稿・論文作成	
26	事例研究 発表	事例研究における発表ができる。
27	事例研究 発表	
28	事例研究 発表	
29	職業関連と研究	職業と研究について知る。
30	まとめ	講義のまとめ

授業科目名	作業療法職場管理学		担当者名	相澤 祐一			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	作業療法管理学入門 第2版 医歯薬出版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	4年	前期	必修	講義
		15					
授業概要	作業療法業務に関する職業倫理、諸制度、臨床実習、キャリア開発、ハラスメント防止等、現代の作業療法現場に必要な情報を知る。						
学習到達目標	作業療法における管理学、マネジメント、臨床実習等の作業療法の管理・運営等の知識を学ぶ。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	作業療法におけるマネジメント			作業療法におけるマネジメントについて理解できる			
2	組織の成り立ちとマネジメント			病院組織の特徴と組織のなかでの作業療法士の役割について理解できる			
3	情報のマネジメント			チーム医療・多職種連携とコミュニケーションについて理解できる			
4	作業療法と医療サービス			作業療法におけるサービスのマネジメントについて理解できる			
5	医療安全のマネジメント			医療におけるリスクマネジメントと医療事故について理解できる			
6	作業療法業務のマネジメント1			人・物・経済性のマネジメントについて理解できる			
7	作業療法業務のマネジメント2			情報・時間・ストレスのマネジメントについて理解できる			
8	作業療法業務のマネジメント3			作業療法部門の業務管理について理解できる			
9	作業療法の役割と職域			作業療法の役割と職域について理解できる			
10	作業療法士の職業倫理			作業療法士の職業倫理について理解できる			
11	作業療法をとりまく諸制度			医療保険制度、介護保険制度について理解できる			
12	作業療法臨床実習の理解と管理体制			作業療法臨床実習の指導体制(管理・運営)と指導方法について理解できる			
13	作業療法士のキャリア開発			作業療法の学会・研修会について理解できる			
14	ワークライフバランス			ライフステージに合わせた働き方の選択について理解できる			
15	まとめ			まとめ			

授業科目名	作業療法職業倫理学		担当者名	相澤 祐一			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	原則と対話で解決に導く医療倫理(医学書院)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	4年	前期	必修	講義
		15					
授業概要	医療倫理の問題は、保健医療の全般にわたって生じている。しかもその多くが簡単に答えの出せるものではなく、人によって考えが大きく異なっている。意見は異なっても、問題を考える方法は共有できる可能性が高い。このような立場から、本講義ではできるだけ多くの保健医療従事者が共有できるような医療倫理学の方法の基礎を提供することを目的とした。						
学習到達目標	医療倫理に関して、相反する価値観に対して実際に検討できる知識を身に付ける。						
評価方法	定期試験 出席 授業態度						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション 倫理の定義			倫理の定義を説明できる。			
2	医療倫理の歴史:古代～近代～現代			医療倫理の歴史を説明できる。			
3	医療倫理の歴史:現代			医療倫理の歴史を説明できる。			
4	医療倫理学の方法:基本的概念			医療倫理の方法論の原則について説明できる。			
5	医療倫理学の方法:原則、手順、ナラティブ			医療倫理の方法論の物語論について説明できる。			
6	医療倫理学の方法:原則、手順、ナラティブ②			医療倫理の手順論の検討方法について説明できる。			
7	死と喪失			死についての倫理検討ができる。			
8	告知			告知についての倫理検討ができる。			
9	尊厳死			尊厳死についての倫理検討ができる。			
10	障害者の出生			障害者の出生についての倫理検討ができる。			
11	患者の権利と公共の福祉:患者と第三者の対立			患者と人の対立について倫理検討ができる。			
12	患者の権利と公共の福祉:自己危害と他者危害			自他への危害について倫理検討ができる。			
13	医学研究と医療資源:生体と医療資源			医学研究の倫理について検討ができる。			
14	医学研究と医療資源:医療資源の配分と医療情報			医療資源の倫理について検討ができる。			
15	講義のまとめ			これまでの講義のまとめ。			

授業科目名	作業療法画像評価学		担当者名	小幡 紘輝			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	プリント配布	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1		作業療法科	4年	前期	必修
		時間数	15				
授業概要	運動器と脳画像について、解剖・病態・画像と症状のつながりが理解できる。						
学習到達目標	実際の症例の画像を読むことができ、画像から考えられる症状が推測できる。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	骨折のX線画像①			様々な骨折のX線画像を読むことができる			
2	骨折のX線画像②						
3	骨折のX線画像③						
4	脳の病態生理			脳の病態生理について説明できる			
5	前頭葉病巣の症状と特徴			脳画像(CT,MRI)を独力で読むことができ、画像所見から考えられる症状が推測できる 推測される症状から、考えられる検査項目が想起できる			
6	側頭葉病巣の症状と特徴						
7	頭頂葉病巣の症状と特徴						
8	後頭葉病巣の症状と特徴						
9	視床を中心とした病巣の症状と特徴						
10	被殻を中心とした病巣の症状と特徴						
11	小脳病巣の症状と特徴						
12	脳幹病巣の症状と特徴						
13	症例検討			様々な画像に関する問題を用いながら、総まとめを行う			
14	症例検討						
15	まとめ						

授業科目名	作業療法基礎医学特論		担当者名	小笠原 祥太			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	・ゴールドマスターテキスト 作業学(メジカルビュー社) ・シンプル生理学(南江堂) ・プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	作業療法科	4年	後期	必修	講義
		60					
授業概要	作業療法に関連する解剖・生理について学ぶ						
学習到達目標	作業療法に関連する解剖・生理について理解する						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	(1)動脈			循環器系についての知識を統合できる			
2	(2)静脈						
3	(3)リンパ系						
4	(4)心臓						
5	(5)循環の生理学						
6	(6)心臓の刺激伝導系・心電図						
7	(7)頸動脈洞反射						
8	(8)血液, 免疫(血液凝固因子, 線維素溶解, 成分, 免疫機能)						
9	(1)消化酵素			消化器系についての知識を統合できる			
10	(2)口腔, 摂食嚥下						
11	(3)胃の構造と生理機能						
12	(4)小腸・大腸の構造と生理機能						
13	(5)排便機構						
14	(6)肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能						
15	(7)後腹膜腔						
16	(1)泌尿器の構造			泌尿器系についての知識を統合できる			
17	(2)腎臓の構造と機能						
18	(3)排尿機構						

19	(1)生殖器の構造と機能	生殖器系についての知識を統合できる
20	(1)呼吸器の構造	呼吸器系についての知識を統合できる
21	(2)肺機能検査と肺気量	
22	(3)呼吸生理と呼吸循環調節系	
23	(4)酸素解離と酸塩基平衡	
24	(1)基礎代謝と代謝当量(METs)	代謝についての知識を統合できる
25	(2)エネルギー代謝	糖質代謝についての知識を統合できる
26	7)体温調節	体温調節についての知識を統合できる
27	(1)ホルモン	内分泌系についての知識を統合できる
28	(2)分泌器官	
29	(1)細胞の構造と染色体および細胞膜電位	発生と組織についての知識を統合できる
30	(2)発生	
31	(3)DNA, RNA	
32	(1)中枢神経系の解剖と系統発生	中枢神経系についての知識を統合できる
33	(2)大脳皮質の機能局在	
34	(3)大脳基底核	
35	(4)大脳辺縁系	
36	(5)脳波	
37	(6)中脳	
38	(7)延髄	
39	(8)小脳	
40	(9)脊髄	
41	(10)脳室	
42	(11)上行性伝導路	
43	(12)下行性伝導路	

44	(1)神経線維(直径・伝導速度・伝達情報)	末梢神経系についての知識を統合できる
45	(2)脳神経とその働き	
46	(3)反射と脳神経	
47	(4)自律神経	
48	(5)体性神経	
49	(6)神経筋接合部位の神経伝達物質	
50	(7)腕神経叢, 腰神経叢	
51	(1)構造	
52	(2)筋線維の特徴	
53	(3)運動単位	
54	(4)筋収縮	感覚についての知識を統合できる
55	(5)筋紡錘	
56	(1)体性感覚	
57	(2)視覚器の構造と機能	
58	(3)視覚伝導路	
59	(4)聴覚器・平衡覚器の構造と機能	
60	総括	

授業科目名	作業療法臨床医学特論		担当者名	相澤 祐一			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	PT/OT国家試験必修ポイント専門基礎分野臨床医学 医歯薬出版 ・精神疾患の理解と精神科 作業療法(中央法規出版)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	作業療法科	4年	後期	必修	講義
		60					
授業概要	作業療法に関連する疾病や制度について学ぶ						
学習到達目標	作業療法に関連する疾病や制度について理解する						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	創傷治癒			病理について学び、理解する			
2	炎症、感染						
3	腫瘍						
4	病理所見						
5	病因						
6	循環器疾患			内科、内部障害について学び、理解する			
7	代謝性疾患						
8	呼吸器疾患						
9	消化器疾患						
10	肝疾患						
11	内分泌疾患						
12	膠原病・自己免疫疾患						
13	泌尿器疾患						
14	血液疾患						
15	薬物療法						

16	骨折	骨関節障害と臨床医学について学び、理解する
17	骨髄腫	
18	関節リウマチ	
19	脊椎疾患	
20	変形性関節症	
21	四肢血行障害	
22	小児整形外科疾患	
23	脊髄損傷	
24	切断	
25	骨粗鬆症	
26	脳血管障害	中枢神経・末梢神経・筋の障害と臨床医学について学び、理解する
27	高次脳機能障害	
28	変性疾患	
29	嚥下障害	
30	正常圧水頭症	
31	運動ニューロン疾患	
32	脱髄性疾患	
33	末梢神経障害	
34	神経筋接合部疾患	
35	筋ジストロフィー	

36	統合失調症	精神障害と臨床医学について学び、理解する
37	気分(感情)障害	
38	認知症	
39	せん妄	
40	依存症・薬物療法	
41	てんかん	
42	神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害	
43	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	
44	パーソナリティ障害	
45	小児期の精神および心理の発達障害	
46	精神疾患・自殺	臨床心理について学び、理解する
47	防衛機制	
48	心理療法	
49	心理検査	
50	学習理論・心理発達	小児・老年期の障害と臨床医学およびリハビリテーション医学について学び、理解する
51	廃用症候群	
52	高齢者にみられる変化・老年症候群	
53	小児の障害	
54	健康や生活機能の評価, 指標	
55	リハビリテーション医療, ガイドライン	
56	予防医学(一次予防・二次予防・三次予防)	リハビリテーション概論について学び、理解する
57	ユニバーサルデザイン	
58	国際生活機能分類(ICF)	
59	患者心理・障害受容・クリニカルパス	
60	身体障害者障害程度等級表・法規・関連制度	

授業科目名	作業療法障害別治療学特論Ⅰ		担当者名	阿部 伸洋、小幡 紘輝			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	PT/OT国家試験必修ポイント 基礎OT学 医歯薬出版 脳・神経系リハビリテーション 羊土社 等	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	作業療法科	4年	後期	必修	講義
		60					
授業概要	作業療法に関連する歴史・法律や支援制度を理解するとともに、疾患別の評価法や治療法を学習する。						
学習到達目標	作業療法関連法規・制度を理解し、疾患別の作業療法評価、目標の立案、治療プログラムの作成が行えるようになる。						
評価方法	定期試験 出席 レポート 授業態度						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	作業療法の歴史、作業療法士法			作業療法の基本を理解する。			
2	国際機能分類(ICF)、国際疾病分類(ICD)						
3	感染対策、標準予防策			作業療法の管理、運営を学ぶ。			
4	個人情報管理						
5	人間作業モデル、学習理論			作業療法の基礎を理解する。			
6	作業分析、作業特性						
7	情報収集(検査、画像所見)			作業療法の手順を理解する。			
8	評価の実施(面接、検査)						
9	意識レベル			全身状態、局所所見の評価を理解する。			
10	バイタルサイン						
11	摂食嚥下						

12	関節可動域	作業療法評価及び治療を理解する。
13	徒手筋力テスト	
14	平衡機能	
15	反射	
16	上肢の総合的機能	
17	感覚、疼痛	
18	小児の発達過程	
19	認知症	
20	高次脳機能障害	
21	脳血管障害	疾患別の症状や障害を理解する。
22	脊髄小脳変性症	
23	パーキンソン病	
24	外傷性脳損傷	
25	多発性硬化症	
26	脊髄損傷	
27	関節リウマチ	
28	骨折	
29	心臓機能障害	
30	呼吸機能障害	
31	腎臓機能障害	
32	膀胱・直腸機能障害	
33	小腸機能障害	
34	肝臓機能障害	
35	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害	
36	悪性腫瘍	

37	地域包括ケアシステム	地域リハビリテーション関連法規・制度を理解する。
38	障害者総合支援法	
39	精神保健福祉法	
40	医療観察法	
41	介護保険制度	
42	標準型車椅子使用者の住環境整備	バリアフリー・ユニバーサルデザインを理解する。
43	疾患別での住環境整備	
44	高齢者の住環境整備	
45	自助具・補助具	
46	生活支援プログラム	生活支援制度を理解する。
47	社会生活技能訓練	
48	雇用・就労支援	
49	断端管理	義手について理解する。
50	前腕義手	
51	上腕義手	
52	節電義手	
53	装具使用の目的と適応	装具について理解する。
54	装具の型	
55	原始反射	発達障害を理解する。
56	遠城寺式乳幼児分析的発達検査	
57	改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査	
58	PEDI	
59	運動発達	
60	心理、社会的発達	

授業科目名	作業療法障害別治療学特論Ⅱ		担当者名	相澤 祐一、金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	PT/OT国家試験必修ポイント 障害別OT治療学医歯薬出版 ・精神障害と作業療法 新版 三輪書店	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	作業療法科	4年	後期	必修	講義
		60					
授業概要	各疾患についての症状や特徴、治療法、作業療法介入について学習する。						
学習到達目標	症例を通して、各疾患の介入方法を理解し、疾患別の作業療法評価、目標の立案、治療プログラムが行えるようになる。						
評価方法	定期試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	作業療法の基礎:リスク管理、摂食嚥下			保健福祉、リハビリテーションの基礎知識や基本技術を理解する。			
2	作業療法の基礎:運動、感覚、高次脳機能						
3	作業療法の基礎:精神、心理						
4	関節リウマチ:変形、自助具			各骨関節障害の症状、治療法、作業療法介入について理解する。症例問題を通して理解を深める。			
5	関節リウマチ:作業療法						
6	変形性関節症:頸椎疾患						
7	骨折:上肢、下肢						
8	骨折:術後の合併症、高齢者の骨折、骨粗しょう症						
9	外傷、障害						
10	脳血管障害:頭部CT・MRI所見、摂食嚥下障害			脳血管障害の病態、治療法、各時期の作業療法介入、ADL指導法について理解する。			
11	脳血管障害:回復期、維持期、分離運動の促通訓練						
12	脳血管障害:ADL指導						
13	パーキンソン病:症状、作業療法			パーキンソン病の症状、作業療法介入について理解する。			
14	脊髄小脳変性症、多発性硬化症			各疾患の症状、治療法、作業療法介入について理解する。			
15	筋萎縮性側索硬化症、外傷性脳損傷						
16	脊髄損傷:第4, 5頸髄損傷、第6, 7頸髄損傷(自助具)			脊髄損傷の病態、症状、治療法、作業療法介入について理解する。			
17	脊髄損傷:第6, 7頸髄損傷(作業療法)、胸髄損傷						
18	脊髄損傷:部分損傷・外傷性損傷、機能残存レベル、疫学						
19	ニューロパチー			ギランバレー症候群などの各ニューロパチーについて理解を深める。			

20	筋ジストロフィー:特徴、Duchenne型	筋ジストロフィーの特徴、作業療法介入について理解する。
21	末梢神経損傷:腕神経叢損傷、正中神経麻痺	各末梢神経損傷の原因、症状、治療について理解する。
22	末梢神経損傷:橈骨神経麻痺、尺骨神経麻痺	
23	多発性筋炎、皮膚筋炎	各疾患の症状、治療法、作業療法介入について理解する。
24	神経・筋疾患:重症筋無力症、治療法、リハビリテーション	
25	呼吸器障害:特徴、排痰法、気管吸引	呼吸器疾患の症状、治療法、作業療法介入について理解する。
26	呼吸器障害:作業療法	
27	虚血性心疾患、代謝障害:糖尿病	各疾患の症状、治療法、作業療法介入について理解する。
28	腎機能障害、膠原病	
29	脳性麻痺:痙直型四肢麻痺、痙直型両麻痺	各脳性麻痺の病態、症状、治療法、作業療法介入について理解する。
30	脳性麻痺:痙直型片麻痺、痙縮の治療	
31	脳性麻痺:アテトーゼ型脳性麻痺、低緊張性脳性麻痺	
32	Down症候群、二分脊椎、運動発達遅滞	各疾患の病態、症状、治療法、作業療法介入について理解する。
33	廃用症候群、悪性腫瘍:乳癌、緩和ケア	
34	熱傷、有痛性疾患・障害	
35	統合失調症:症状と特性、治療法	統合失調症の病態、症状、治療法、作業療法介入について理解する。
36	統合失調症:心理教育、作業療法(亜急性期～回復前期)	
37	統合失調症:作業療法(回復後期～維持期)、症例問題	
38	気分障害:うつ病(症状と特徴、急性期)	双極性障害、うつ病の病態、症状、治療法、作業療法介入について理解する。
39	気分障害:うつ病(回復期、作業療法、治療法)	
40	気分障害:うつ病(症例問題)	
41	気分障害:躁病、双極性障害	
42	神経症性障害	神経症性障害の病態、症状、治療法、作業療法介入について理解する。
43	神経症性障害:不安障害(作業療法)、パニック障害、広場恐怖	
44	神経症性障害:強迫性障害、社会恐怖、PTSD、身体表現性障害	
45	摂食障害(作業療法)	摂食障害の病態、症状、治療法、作業療法介入について理解する。
46	摂食障害(症例問題)	

47	パーソナリティ障害(特徴、作業療法)	パーソナリティ障害の病態、症状、治療法、作業療法介入について理解する。
48	パーソナリティ障害(症例問題)	
49	てんかん(症状、特徴、対応)	てんかんの病態、症状、治療法、作業療法介入について理解する。
50	アルコール依存症(症状、特徴、治療)	アルコール、薬物依存症の病態、症状、治療法、作業療法介入について理解する。
51	アルコール依存症(作業療法、症例問題)	
52	薬物依存症	
53	注意欠陥多動性障害	児童期の精神障害の病態、症状、治療法、作業療法介入について理解する。
54	選択性緘黙、チック障害、知的障害	
55	自閉症スペクトラム障害(特徴、作業療法、症例問題)	
56	認知症:症状と特徴、BPSD	認知症の症状、対応法、作業療法介入について理解する。各疾患についても理解を深める。
57	認知症:対応と環境、作業療法	
58	認知症:Lewy小体型認知症、Alzheimer型認知症	
59	認知症:前頭側頭型認知症	
60	高次脳機能障害:症状と徴候、介入方法	

授業科目名	地域作業療法学Ⅲ		担当者名	金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	地域作業療法学 (ゴールドマスターテキスト) 資料	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	作業療法科	4年	前期	必修	講義
		15					
授業概要	高齢者に多い疾患やその臨床像、支援方法を学ぶ。 地域での事例について検討、理解することで臨床における作業療法について学ぶ。						
学習到達 目標	地域における作業療法について臨床像、具体的な事例を通して理解を深める。						
評価方法	定期試験、出席状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	虚弱高齢者			虚弱高齢者の臨床像を理解する。 作業療法の役割を理解する。			
2	虚弱高齢者						
3	廃用症候群			廃用症候群の要因と基本的な支援方法を理解する。			
4	廃用症候群						
5	高齢者に多い整形疾患			老年期に多い整形疾患の特徴と基本的な支援内容を理解する。			
6	高齢者に多い整形疾患						
7	高齢者に多い整形疾患						
8	高齢者に多い整形疾患						
9	視覚障害			生活上の不便さや情緒や心理面への影響があるかを理解する。			
10	視覚障害						
11	終末期のリハビリ			終末期における作業療法の役割を学ぶ。			
12	終末期のリハビリ						
13	健康高齢者			健康な高齢者に対する医療、保健、福祉領域からのアプローチを理解する。			
14	健康高齢者						
15	健康高齢者						

授業科目名	地域作業療法学Ⅳ		担当者名	金田 翔子			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書	地域作業療法学 (ゴールドマスターテキスト) 資料	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数 15	作業療法科	4年	前期	必修	講義
授業概要	高齢者に多い疾患やその臨床像、支援方法を学ぶ。 地域での事例について検討、理解することで臨床における作業療法について学ぶ。						
学習到達目標	地域における作業療法について臨床像、具体的な事例を通して理解を深める。						
評価方法	定期試験、出席状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	訪問リハビリテーション: 重度なケースの場合の取り組み事例			訪問作業療法の役割や実際に介入している他職種との連携、訪問時に注意する点などについて理解する。			
2							
3	通所介護を利用しながら在宅生活を続ける事例検討			通所介護での作業療法の視点、役割について理解する。			
4							
5	回復期から訪問を経て地域に移行した事例検討			在宅復帰の時期を決める際のポイントを理解する。地域での活動を広げていくために大切なことを理解する。			
6							
7	身体的な障害が重く、家族の介護が困難な事例検討			生活期における作業療法士に必要なスキルを理解する。障害が重度な方の目標設定に必要なポイントを理解する。			
8							
9	住宅改修と生活の工夫(住宅改修の基礎)			住宅改修の目的、手すりや上がり框などの環境整備、車椅子の通行幅の理解を深める。			
10							
11	住宅改修と生活の工夫(生活の工夫、作業療法士の実践としてかかわった事例)			生活の工夫をするポイント、支援する際の留意点を理解する。			
12							
13	住宅改修と生活の工夫(活動、参加に焦点を当てたケースの場合)			活動や参加に焦点を当てた在宅での作業療法について理解する。			
14							
15	住宅改修と生活の工夫(自宅での入浴を希望された例)			在宅における、福祉用具の検討方法から入浴動作の訓練方法について理解する。			

授業科目名	総合臨床実習Ⅱ		担当者名	阿部 伸洋、相澤 祐一、 小笠原 祥太、小幡 紘輝、金田 翔子 （臨床実習指導者）			
			実務経験	作業療法士として病院での勤務経験あり			
教科書		単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		9					
		時間数	作業療法科	4年	前期	必修	実習
		405					
授業概要	作業療法の知識・技術・医療専門職としての態度を統合しながら、作業療法士に必要な臨床的問題解決能力を身につけることを目的とする。臨床実習指導者（教員）の下、担当症例における評価、治療目標の設定、治療計画の立案、治療、さらに再評価によってその治療の有効性を検討し、必要に応じてプログラムの変更を実施するという一連の基本的な作業療法の過程実施し、知識・技術の習得をはかることを目的とする。						
学習到達目標	作業療法の知識・技術・医療専門職としての態度を統合しながら、作業療法士に必要な臨床的問題解決能力を身につけ、基本的な作業療法の知識・技術の習得する。						
評価方法	出席、実習課題等の総合評定による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
360時間	<総合臨床実習Ⅱの目的> 学生が臨床実習指導者の指導・援助の下で、臨床の経験をを通して、作業療法の知識・技術・医療専門職としての態度を統合しながら、作業療法士に必要な臨床的問題解決能力を身につける。さらに、作業療法の有効性を確認し、作業療法士としてのアイデンティティを確立し、将来作業療法士になる喜びを感じることも重要である。また、職業人、医療人としての基本的な態度を身につけ、対象者の人権を保証することの重要性や病院・施設あるいは地域社会での作業療法士の役割を学ぶことを目的とする。 <学生の総合臨床実習Ⅱの目標> (1) 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 (2) 職業人としての倫理観を持つことができる。 (3) 評価計画を立案し、それに基づいた評価を実施することができる。 (4) 評価の結果を解釈し、対象者の状況を把握することができる。 (5) 治療計画を立案することができる。 (6) 対象者への治療・指導・援助を計画に基づき実施することができる。 (7) 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 (8) 評価・治療に関する記録・報告をすることができる。 (9) 管理・運営について理解することができる。 * 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション1単位含む。 ただし、学生によっては総合実習以外の実習にて行う場合がある。			(1) 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 (2) 職業人としての倫理観を持つことができる。 (3) 評価計画を立案し、それに基づいた評価を実施することができる。 (4) 評価の結果を解釈し、対象者の状況を把握することができる。 (5) 治療計画を立案することができる。 (6) 対象者への治療・指導・援助を計画に基づき実施することができる。 (7) 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 (8) 評価・治療に関する記録・報告をすることができる。 (9) 管理・運営について理解することができる。			